

AVerMedia®
NV シリーズ
NV6480T-32

取扱説明書
設置導入編



連邦通信委員会通知（等級 A）



本装置は、連邦通信委員会規則の第 15 条に準拠しています。本装置は、以下の条件の下で使用しなければなりません。(1) 本器が重大な妨害を発生させないこと (2) 本装置の使用中には妨害（正常な作動を妨げるような妨害）を受けることがあること。

連邦通信委員会による声明

注意- 本装置に関する試験を行った結果、連邦通信委員会規則の第 15 条に準じた、等級 A デジタル機器の制限に準拠することが判明しています。こうした制限は、家庭内に設置した場合において、有害な妨害に対する妥当な保護を提供するために制定されています。本装置は無線周波数エネルギーを生成・使用し、また、輻射することがあり、指示に従って取り付けたり使用しなかった場合、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。しかし、これは、特定の取付方法を採用した場合に妨害がまったく発生しないことを保証するものではありません。本装置の電源を入切してラジオやテレビの受信に有害な干渉を引き起こすと判明した場合、使用者は、以下の対策のうち、1 件または複数件を用いて、妨害を修正しなければなりません。

- 受信アンテナの方向を変化させる、または、設置場所を変更する。
- 本装置と受信機との間の距離を離す。
- 本装置と受信機との電源を別々の電源供給回路から供給する。
- 販売者または経験豊富なラジオ・テレビ技術者に助言を求める。

等級 A ITE

等級 A ITE は、等級 A ITE を満足するが等級 B ITE 条件は満足しないその他の ITE カテゴリすべてを指します。このような装置の販売を制限するものではありませんが、使用説明書には、以下の警告が明記されています。

警告 — 本装置は等級 A 製品です。家庭内環境で本装置を使用する場合、電波妨害を発生することがありますが、その際には、使用者が適切な対策を講ずる必要があります。

欧州共同体指令による声明（等級 A）



これは、本製品が、電磁両立性 2004/108/EEC に関する加盟諸国の法律の近似化に関する指令で制定された条件に準拠することを証明するものです。

警告 - 家庭内環境で本装置を使用する場合、電波妨害を発生することがありますが、その際には、使用者が適切な対策を講ずる必要があります。

DISCLAIMER

品質、性能、商品としての適格性の保証や特定目的への適合性を含め、本書の内容に関して、明示または暗示を問わず、一切の保証はいたしません。本書の内容は、その信頼性に関して、慎重に確認されていますが、誤謬に関する責任は保証しません。本書の情報は、予告なく変更することがあります。

本製品や文書を使用した結果または適切に使用することができなかった結果、直接または間接的に発生した出来事や損害に関して、そのような損害が発生する可能性があることが通知されている場合であっても、AverMedia では、一切責任を負いません。

商標

AVerMedia INFORMATION, Inc が使用を承認されている AVerMedia®は、AVerMedia® TECHNOLOGIES, Inc の登録商標です。IBM PC は、International Business Machines Corporation の登録商標です。Macintosh は、Apple Computer, Inc の登録商標です。Microsoft は Microsoft Corporation の登録商標であり、Windows は Microsoft Corporation の商標です。本書に登場するそれ以外の製品名や企業名は、それぞれの所有者の登録または登録商標です。

著作権

© 2008 年 AVerMedia® INFORMATION, Inc。不許複製。本書に記載されている内容は、AVerMedia INFORMATION, Inc. の文面による許可なしでは、いかなる形式およびいかなる方法によっても、複写、送信、録音、検索システムに保存、または他の言語に翻訳することは許されません。



家庭用ゴミ箱に X 印を付けた左記マークは、本製品を家庭廃品と一緒に廃棄してはならないことを示しています。本製品を廃棄しようとする場合には、電気電子製品リサイクル回収場所に提出して廃棄する必要があります。リサイクル用廃品回収場所の所在地については、家庭廃品回収業者または本製品を購入した販売店にお尋ねください。

電池取り扱い上の安全に関する情報

電池は涼しくて乾燥した場所に保存してください。

使用済み電池を家庭廃品と一緒に廃棄しないでください。電池は専用回収場所に廃棄するか、販売店で回収する場合には販売店へお持ちください。

電池を長期間使用しない場合は、取り外しておいてください。消耗した電池は、必ずリモートコントロールから取り外してください。液漏れや腐食でリモートコントロールが損傷することがあります。電池は安全な方法で廃棄してください。

新しい電池とふるい電池を混用しないでください。

タイプの異なる電池（アルカリ電池、標準（炭素-亜鉛）電池、充電可能電池（ニッケル・カドミウム））を混用しないでください。

電池を火中に入れないでください。爆発したり液漏れすることがあります。

電池のプラス電極とマイナス電極は、絶対に短絡しないでください。



警告

1. 火災や感電の危険を少なくするために、雨の中や湿気の多い場所に本装置を晒さないでください。
2. DOM 内容が無断で変更した場合、保証が無効になります。
3. 使用中は、リムーバブル HDD トレイを取り外さないでください。DOM 内容が破損することがあります。
4. DVR が対応するモニター解像度に設定した上、ご使用してください。DVR がサポートしない解像度に設定した場合、DVR 機能が異常になることがあります。
5. 気密な環境に DVR を置かないでください。システムの動作が不安定になることがあります。



注意

本製品の梱包内に損傷や不足品や不適切な品目があった場合、お近くの販売店にお申し付けください。許可なく改造が行われた場合、製品の保証が無効になります。

本書内で使用される記号

本書では、以下の記号が使用されています。



この注意記号は、使用者に、重要な取付指示や使用指示に関して注意を促すために使用されています。指示に従わなかった場合、システムは破損することがあります。



この情報記号は、指示を明確にする追加情報を提供するために使用されています。

目次

第 1 章 はじめに	1
1.1 パッケージの内容	1
1.2 NV シリーズの仕様	1
1.3 特徴	2
1.4 NV シリーズのフロントパネル	2
第 2 章 ハードウェアの取付	3
2.1 NV シリーズへ HDD の取り付け/交換	3
2.1.1 HDD のフォーマット	4
2.2 I/O デバイスの接続	4
2.2.1 センサー/リレーデバイスのピンホールの割当	6
第 3 章 DVR ソフトウェアの使用方法	7
3.1 ユニットを初めて使用する	7
3.2 高度/プレビューモードでの機能ボタン	7
3.2.1 イベントログビューアーの使用方法	10
3.2.2 オブジェクトビューアーの使用方法	11
3.3 再生モードの機能ボタン	12
ウォーターマークの確認	15
3.4 コンパクトモードの機能ボタン	16
3.5 PTZ カメラコントローラーの機能ボタン	17
3.6 E マップの設定と使用方法	18
3.6.1 E マップの設定	18
3.6.2 E マップの使用方法	19
3.7 録画済みビデオで希望の部分を切り取って保存する	20
3.8 ビデオの一部にブックマークを付ける	20
3.9 ビジュアル検索を使用して検索する	21
3.10 イベント検索を使用して検索する	21
3.11 インテリジェント検索を使用して検索する	22
3.12 PTZ/IP PTZ カメラの設定方法	23
3.12.1 PTZ カメラの設定	23
3.12.2 IP PTZ カメラの設定	25
第 4 章 DVR システムのカスタム化	27
4.1 システム設定	27
4.1.1 POS を設定する	36
4.1.2 UPS の接続	42

4.2	カメラの設定	44
4.2.1	物体計数を設定する	45
4.2.2	フェースファインダーを設定する	46
4.3	録画の設定	48
4.3.1.	画面上のエリアをマスク/シールドする	50
4.3.2.	マスクを表示する色を変更する	50
4.3.3.	暗号化されたビデオを再生する	50
4.4	ネットワーク設定	51
4.5	スケジュールの設定	54
4.5.1.	1時間内の一部分でスケジュールを設定する	55
4.6	バックアップの設定	55
4.6.1.	ファイルをバックアップする	56
4.6.2.	クイックバックアップの設定	56
4.7	センサーの設定	57
4.7.1.	外部 I/O ボックスを設定する	58
4.8	リレーの設定	60
4.9	アラームの設定	61
4.9.1	アラームリレーを設定する	66
4.9.2	アラーム音を設定する	66
4.9.3	呼び出しリストを設定する	67
4.9.4	E メールを設定する	68
4.9.5	FTP を設定する	68
4.9.6	アラーム録画を設定する	69
4.9.7	SMS/MMS を設定する	69
4.9.8	PTZ プリセットポイントを設定する	70
4.9.9	アラーム機能作業手順を設定する	70
4.9.10	CMS を設定する	70
4.9.11	POS キーワードを設定する	70
4.9.12	物体が消失する、疑わしい物体やシーンの変更が検出される	71
4.10	ユーザー設定	73
第 5 章 ビデオプレーヤーのバックアップ.....		75
5.1	QPlayer の各ボタンについて	75
第 6 章 機能キーの使用法.....		77
第 7 章 リモートプログラムの使用法		78
7.1	ウェブビューアーボタンについて	79
7.1.1	リモートシステムを設定する	80
7.2	ウェブビューアーPTZ ボタンについて	82

7.3	遠隔コンソールボタンについて	83
7.3.1	遠隔コンソールを設定する	84
7.3.2	PTZ カメラコントローラーのボタンについて	85
7.4	遠隔再生の使用法	86
7.4.1	ローカル再生ボタンについて	87
7.4.2	リアルタイム再生ボタンについて	89
7.4.3	ダウンロードと再生ボタンについて	90
7.4.4	ビジュアル検索を使用して検索する	92
7.4.5	イベント検索を使用して検索する	92
7.4.6	インテリジェント検索を使用して検索する	93
7.5	DVR サーバーにアクセスするためのハンディビューアーHandyViewer の使用法	94
7.6	DVR サーバーにアクセスするための PDA ビューアーの使用法	94
7.6.1	ActiveSync を介して PDA ビューアーをインストールする	94
7.6.2	インターネットから PDA ビューアーをインストールする	95
7.6.3	PDA ビューアーを使用する	96
7.6.4	PDA ビューアー で再生する	97
7.6.5	DVR サーバーにアクセスするための Java ビューアーの使用法	98
7.6.6	JAVA ビューアーを使用する	99
第 8 章	画像検証	100
8.1	画像検証プログラムを実行する	100
第 9 章	iEnhance	101
9.1	iStable を使用する	102
第 10 章	ウェブツール	103
10.1	ディスパッチサーバー	103
10.2	リモート設定	104
10.2.1	DVR サーバーを追加する	104
10.2.2	リモート DVR サーバーを設定する	105
10.2.2.1	システムの設定	105
10.2.2.2	カメラの設定	107
10.2.2.3	録画の設定	108
10.2.2.4	ネットワークの設定	109
10.2.2.5	スケジュールの設定	112
10.2.2.6	アラームの設定	113
10.3	リモートバックアップ	118
第 11 章	リモートコントロールサーバーの使用法	120
付録 A	ドメイン名の登録	121
付録 B	アクセサリアプリケーション	122
付録 C	RAID の取り付け	124
付録 D	DVR システムのリカバリー	126
付録 E	BIOS におけるブータブル HDD 優先権の設定	128
付録 F	UPnP の設定	129

第1章 はじめに

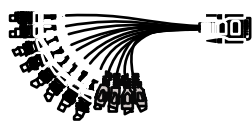
AVerMedia® NV シリーズは、最大 32 チャンネルのハイブリッド DVR でリアルタイムのビデオ監視とデジタル録画を行なえる、PCベースの DVR ユニットです。最大 136 個のセンサーとリレーを接続でき、最大 32 個の音声入力を取り付けることができます。ケーブルを接続すればすぐにビデオ監視を始めることができます。

1.1 パッケージの内容

NV シリーズの内容



(1)



(2)



(3)



(4)

☐ (1) NV シリーズPCユニット

☐ (2) ビデオ・音声 ケーブル 4 本

☐ (3) マニュアル(2) ユーティリティソフトウェア CD (取扱説明書同梱)

☐ (4) 電源コード

1.2 NV シリーズの仕様

NV PCベースシリーズ		
モデル名	NV6480T-16	NV6480T-32
OS	Windows 7 (64 ビット)	
CPU	インテル core i5 プロセッサー	
RAM	4GB	
圧縮形式	ソフト圧縮	
ビデオ形式	MPEG4/ H.264	
ビデオ入力	16	32
ビデオループ出力	なし	
分割画面出力	2	
ディスプレイレート(NTSC/PAL)	480/400 fps	960/800 fps
録画フレームレート(CIF)	480/400 fps	960/800 fps
録画フレームレート(VGA)	480/400 fps	960/800 fps
録画フレームレート(D1)	160/128 fps	320/256 fps
音声入力	16	32
センサー/リレー	4/4	8/8
DVD-R	あり	
録画用 HDD	3TBHDD 対応、リムーバブル 3 台 HDD 内臓 3 台 HDD 最大 18TB	
システム SDD	80GB	
ハードウェア アクセサリ	なし	
イーサネット	RJ-45, 10/100/1000 Mbps	
RS232(com ポート)	1	
e-SATA ポート	1	
USB 2.0	フロント 2 ポート、リア 4 ポート	
寸法	幅	シャーシのみ 427 mm ※取っ手部含む 482mm
	奥行	シャーシのみ 410 mm ※フロントパネル部含む 430mm ※取っ手部含む 470mm
	高さ	177.5mm
消費電力	200 ワット	
重さ	18kg	

1.3 特徴

	NV シリーズ
	連続録画 / スマート録画/ 動作検知録画/ 音声検知録画/ アラーム録画/ 手動録画
録画モード	 全モードとも、予約起動させることができます。
インターレース解除オプション	ダイナミックまたはスタティックカメラシーンに対して最適化します。
動作検知	カメラの焦点範囲内であれば、どんな動きも検出します。
プライバシー保護	プライベートなエリアの監視や録画を防止する編集可能シールド
E マップ機能	カメラ、センサー、リレー位置、および起動状態を表示します。
対話機能	操作者がセキュリティ監視に注意を払ったか否かを追跡するために対話することができます。
パワフルサーチ	日付、時間、カメラ、エリア、イベント、ビジョン、ログファイルで検索できます。
ブックマーク	録画したデータの特定の部分へ簡単にリンクを保存することができ、保存したリンクから直接データを再生します。
POS システムの統合	最も一般的な POS システムとの互換性があります。 POS プロトコルを簡単に追加できます。 極秘ワードフィルター カメラ表示画像上の POS テキストの位置を変更できます。
高度イベントログビューアー	イベント、操作、POS、システムおよびネットワークイベントにおける選択に応じて、完全なイベント詳細を記録します。
アラーム起動モード	アラーム起動条件として、単一のイベントまたは複数のイベントを選択できます。
スマートアラーム機能	E マップ起動 / カメラディスプレイ / 警告音 / E メール / 電話をかける / FTP にファイルを送信 / SMS および MMS / PTZ プリセットポイントトラッキング / アラーム SOP ウィザード / 録画開始 / カメラビューの拡大
リモートアクセス	通常の IE ブラウザを介したウェブビューアー 遠隔コンソール CM3000 中央監視システム
ウェブビューアー / リモートマネージャー	IE ブラウザ上での複数の DVR および IP カメラ リモートサイド上での 16/32 台のカメラ録画
ディスパッチサーバ	シェアトランスミッションローディング: リモートアクセスや高速データ送信により、多くのクライアントが利用できます。
PDA ビューアー	4 台のカメラによるライブ映像、フルサイズ画面、実況音声、録画映像再生
DDNS	リモートクライアントは、サーバの IP アドレスを問うことなく、ダイナミックサーバを検索することができます。
iStable	ワンクリックするだけで、ビデオのブレや揺れを起こすような衝撃を修正します。
iEnhance	記録されたデータに関して、明るさ、コントラスト、色合い、彩度、鮮明さ、ノイズリダクション、インターレース除去、グレースケールなどのビデオ画質を改善します。

1.4 NV シリーズのフロントパネル



第2章 ハードウェアの取付

2.1 NV シリーズへ HDD の取り付/交換

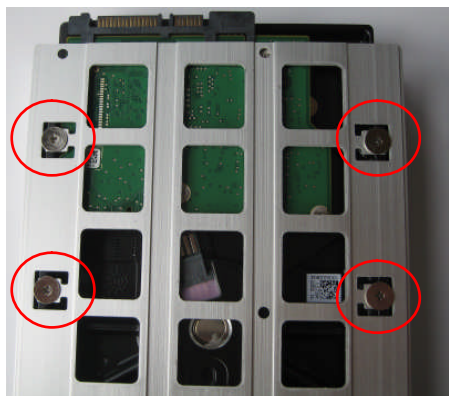


NV シリーズは SATA インターフェースの HDD を使用します。

1. 本体正面の右側にリムーバブル HDD があります。
右からE, F, Gの配置です。
2. 空のリムーバブル HDDトレイです。

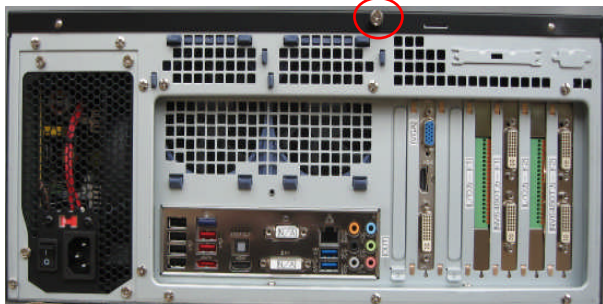


3. 付属の専用ねじ 4 本で HDD を固定します。
4. HDD トレーを本体に取り付け後ツマミを LOCK の位置に回します。



5. 本体のカバーを開けます。
6. 内部に HDD を 3 台まで取り付けることができます。

カバー取り付けねじ



7. 本体のカバーを取り付け DVR の電源を入れます。

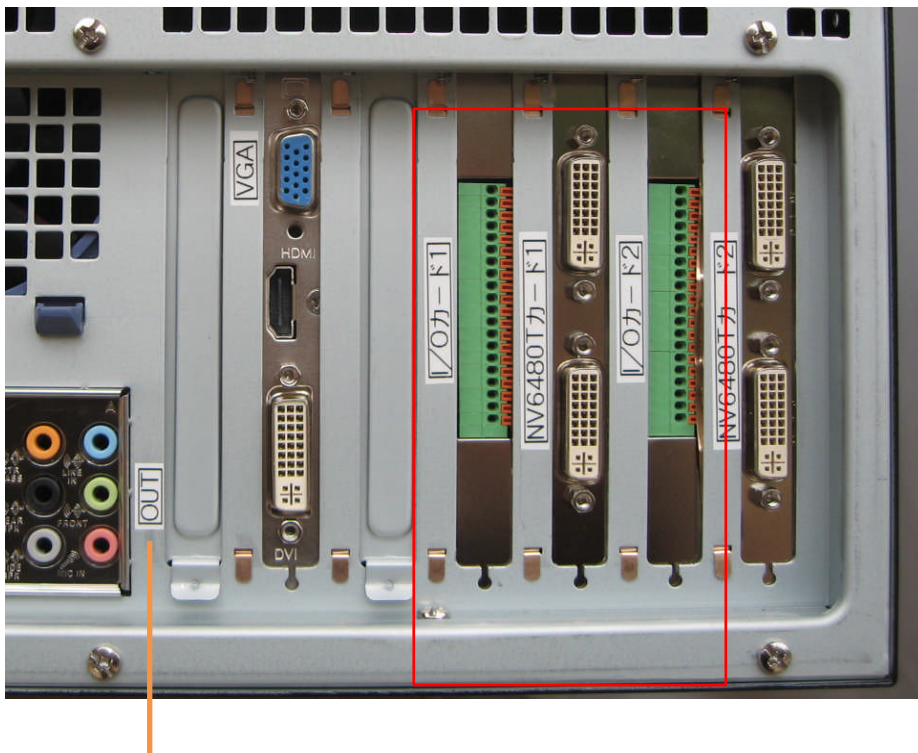
2.1.1 HDD のフォーマット

WINDOWS のディスク管理機能を使い、まだフォーマットしていない HDD をフォーマットします。映像データを記録するため、HDD をまずフォーマットしなければなりません。

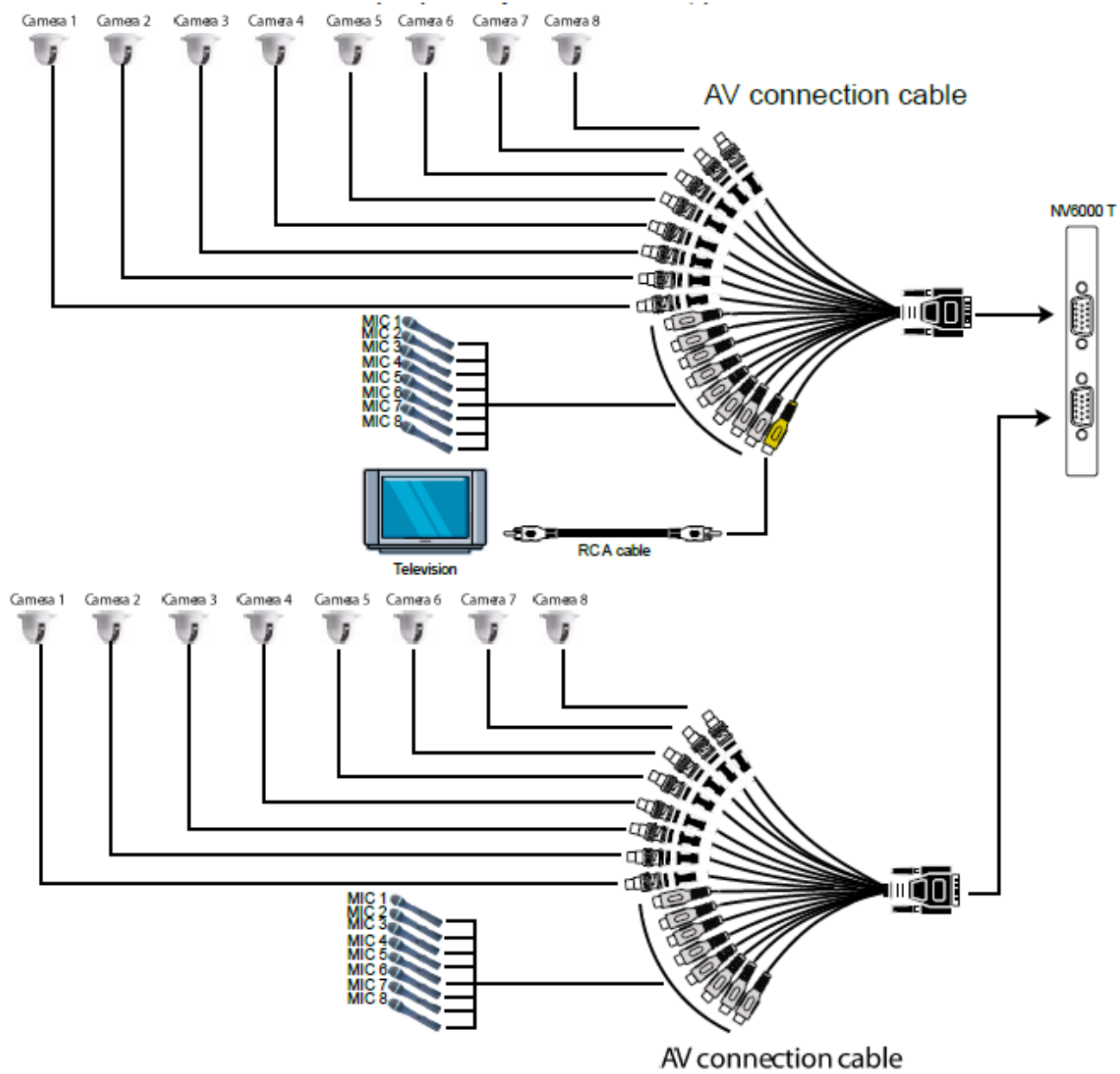
1. 保存先へ先ほどフォーマット或いはパーティション済みの HDD を追加することができます ([第 4.1 章 システム設定](#)を参照)。

2.2 ハードウェアの接続

PC の背面の I/O カード 1 と I/O カード 2 が I/O 接続用の端子です
32ch 仕様では入力 8 点、出力 8 点の使用ができます。
ピン番号は上から 1, 2, 3・・・20となっております。



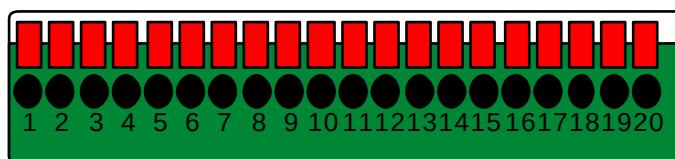
音声出力用の3.5mm コネクター



2.2.1 センサー/リレーデバイスのピンホールの割当

1つの I/O カードでは、4 個のセンサー入力と 4 個のリレー出力を接続することができます。I/O カードのピンホールに、外部センサーやリレーのピンを直接接続してください。どのピンホールがセンサー入力やリレー出力に割り当てられているかは、下表で確認してください。取り付け姿勢は1が上になっています。

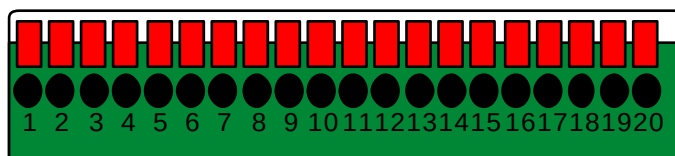
I/O カード1



センサー（赤外線センサー、煙感知器、近接センサー、ドアセンサーなど）からの信号は、I/O カードに送信され、それによってシステムが反応し、リレーデバイス（アラームや電話など）に信号が送信されます。

ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	センサー入力信号 1+	11	リレー常時閉接点 1
2	センサー出力信号 1-(アース)	12	リレー共通接点 2
3	センサー入力信号 2+	13	リレー常時開接点 2
4	センサー出力信号 2-(アース)	14	リレー常時閉接点 2
5	センサー入力信号 3+	15	リレー共通接点 3
6	センサー出力信号 3-(アース)	16	リレー常時開接点 3
7	センサー入力信号 4+	17	リレー常時閉接点 3
8	センサー出力信号 4-(アース)	18	リレー共通接点 4
9	リレー共通接点 1	19	リレー常時開接点 4
10	リレー常時開接点 1	20	リレー常時閉接点 4

I/O カード2



ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	センサー入力信号 5+	11	リレー常時閉接点 5
2	センサー出力信号 5-(アース)	12	リレー共通接点 6
3	センサー入力信号 6+	13	リレー常時開接点 6
4	センサー出力信号 6-(アース)	14	リレー常時閉接点 6
5	センサー入力信号 7+	15	リレー共通接点 7
6	センサー出力信号 7-(アース)	16	リレー常時開接点 7
7	センサー入力信号 8+	17	リレー常時閉接点 7
8	センサー出力信号 8-(アース)	18	リレー共通接点 8
9	リレー共通接点 5	19	リレー常時開接点 8
10	リレー常時開接点 5	20	リレー常時閉接点 8

第3章 DVR ソフトウェアの使用法

3.1 ユニートを初めて使用する

PCの電源を入れるとWINDOWS が立ち上がった後自動的にDVRのソフトウェアが起動します。

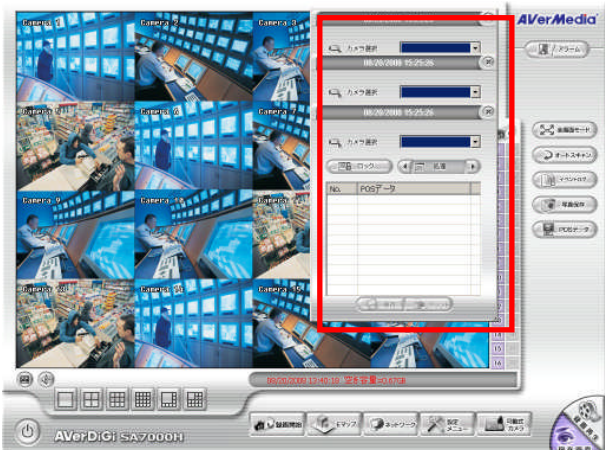
DVRソフトウェアを終了すると WINDOWS7のデスクトップ画面になります。再びDVRのソフトウェアを起動する場合は画面左側にあるDVRのショートカットをダブルクリックします。

3.2 高度/プレビューモードでの機能ボタン



名称	機能
(1) 終了	ログアウトダイアログボックスを表示させます。 ログアウトダイアログボックスでは次の各操作を行うことができます。 ログアウト ユーザー admin レベル システム管理者 終了 ログイン 最小化 コンパクト ゲスト キャンセル バージョン - DVR プログラムを閉じるには終了をクリックします。 - 別のアカウントに切り替えるには ログイン をクリックします。 - コンパクトモードに切り替えるには コンパクト をクリックします。 - ゲスト: ゲストモードに切り替わります。ゲストモードでは、リモートコントローラー (第 2.1.3.1 章も参照) および DVR のコントロールパネル (第 1.4.3 章も参照) でしか DVR をコントロールできません。このときプレビュー機能と再生機能のみに限定されます。DVR の完全機能が必要な場合には、管理者としてログインしてください。 - ログアウトダイアログボックスを終了するにはキャンセル をクリックします。 - パッチをアップデートしたりソフトウェア情報を見るには バージョン情報 をクリックします。
(2) 音量	適当な音量になるように調整します。

名称	機能
(3) 分割画面モード	6 種類の分割画面モードを選択できます。以下のアイコンのいずれかをクリックして分割画面モードを選択してください。 ☐ 単一カメラ表示 ☐ カメラ分割画面表示 ☐ 9 カメラ分割画面表示 ☐ 16 カメラ分割画面表示 ☐ 8 カメラ分割画面表示 ☐ 13 カメラ分割画面表示
i - カメラが 4 台しか接続されていない場合、9、16、13 の各カメラ分割画面表示に切り替えることはできません。 - DVR アプリケーションを閉じる際に、DVR システムは現在の作動モード(分割画面モード、自動スキャン、フル画面、コンパクトモード状態)を記憶しており、次回ログインする際には、そのモードが適用されます。 - 単一画面表示モードでは、拡大したい部分の四角を右クリックしてドラッグすると、拡大することができます。 - 複数画面表示モードでは、カメラのビデオ画面を右クリックしてドラッグすると、希望の場所に再配置することができます。複数画面表示モードどれか一つの画面だけを表示させたい場合には、表示させたい画面を左クリックします。	
(4) 録画	 をクリックすると録画が開始されます。録画中はこのボタンの色が紫になります。もう一度クリックすると、録画が停止します。
(5) E マップ	 をクリックすると、BMP または JPG フォーマットで、最大 8 個の 希望の電子地図をロードすることができ、カメラやセンサーやリレーを希望の位置に配置することができます。
(6) ネットワーク	 をクリックすると、インバウンド接続が行えます。この機能が起動すると、このボタンの色が紫になります。もう一度クリックすると、インバウンド接続が停止します。
(7) 設定	初めてユニットを設定する際には、パスワードテキストボックスに「admin」とタイプしてアクセスしてください。 権限 ID 及びパスワードを入力してください。 ユーザーID admin パスワード OK キャンセル  Click  ボタンをクリックすると、カメラ、録画、ネットワーク、スケジュール、バックアップ、センサー、リレー、アラーム、ユーザー認定の各設定のコンフィギュレーションを行うことができます。
(8) PTZ	 をクリックすると、PTZ 設定ダイアログが表示され、指定 PTZ カメラのコンフィギュレーションを行うことができます。
(9) プレビュー	プレビュー / 詳細モードに切り替わります。実況カメラ表示を行うことができます。ctrl + F を押すと、実況プレビュービデオ画面を静止させることができます。このとき、スナップショットをクリックすると、静止したビデオ画面を保存することができます。
(10) 再生	再生モードに切り替わります。録画したビデオファイルを再生することができます。(第 3.3 章を参照)
(11) 状態バー	現在の時刻およびディスクの残リスペースを表示します。
(12) カメラ ID	希望のアイコンをクリックすると、希望のチャンネルが再生されます。アイコンをクリックすると、アイコンは黄色に変化します。分割表示モードを指定してカメラ番号を指定すると、カメラのアイコングループ全体が黄色になります。

名称	機能
(13) iPOSLive	チャンネルのリアルタイム iPOS データが表示されます。iPOSLive をクリックすると、リアルタイム iPOS データウィンドウが表示されます。  iPOS ウィンドウの各チャンネルを、適切な位置へ、別々に移動させることができます。IPOSLive のマルチチャンネル(システム設定の iPOS Pro 設定も参照)を起動しなかった場合、一度に 1 つのチャンネルしか表示できません。 別のチャンネルに切り替えるには、カメラを選択ドロップダウンリストをクリックして、希望のチャンネルに切り替えます。iPOS データを一時的に静止させるには、フリーズをクリックします。静止を解除するには、トランザクションをクリックします。 
(14) スナップショット	録画画面を静止して、BMP または JPG ファイルで保存します。
(15) イベントログ	これをクリックするとイベントログビューアーダイアログボックスが表示され、イベント、作動、POS (販売時点情報管理)、システム、ネットワークの各ログを確認することができます。希望の日付とログ項目を選択すると、表にログデータがすべて表示されます。
(16) 自動スキャン	これをクリックすると自動スキャンが開始されます。

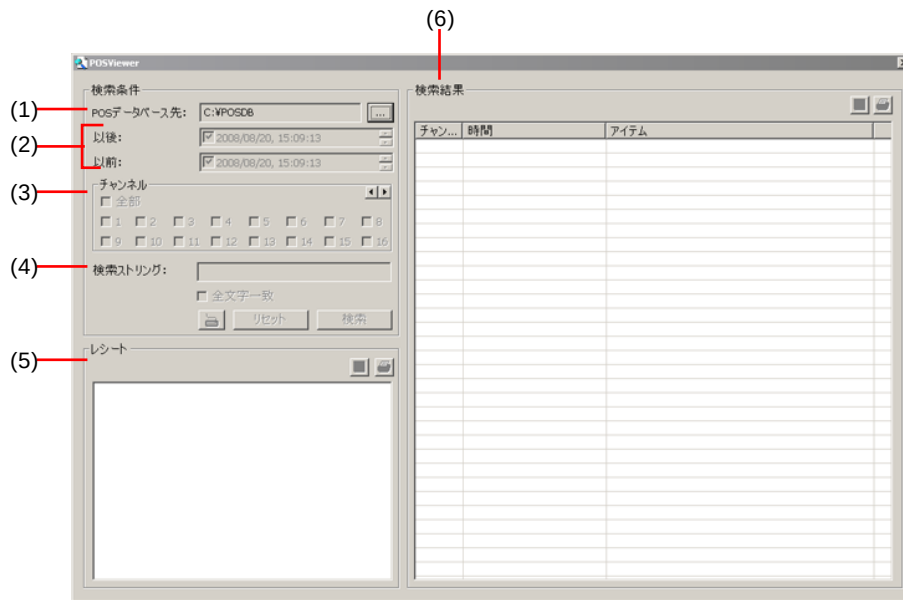
名称	機能
(17) フル画面	画面全体にビデオのみが表示されます。マウスの右ボタン、キーボードのESC、または矢印アイコンを押すと、元の画面に戻ります。  矢印アイコンをクリックするとフル画面表示モードが終了します。 複数画面モードでフル画面に切り替えた場合、左クリックすると、複数画面モードのビデオのいずれか一つ、またはそれら全部に、切り替えることができます。
(18) アラーム	 をクリックすると、アラームの状態または高度アラーム情報が表示されます。
(19) オンスクリーンキーボード	外部キーボードが使用できない場合、バーチャルキーボードを使用することができます。

3.2.1 イベントログビューアーの使用法

システム内の活動記録が表示されます。



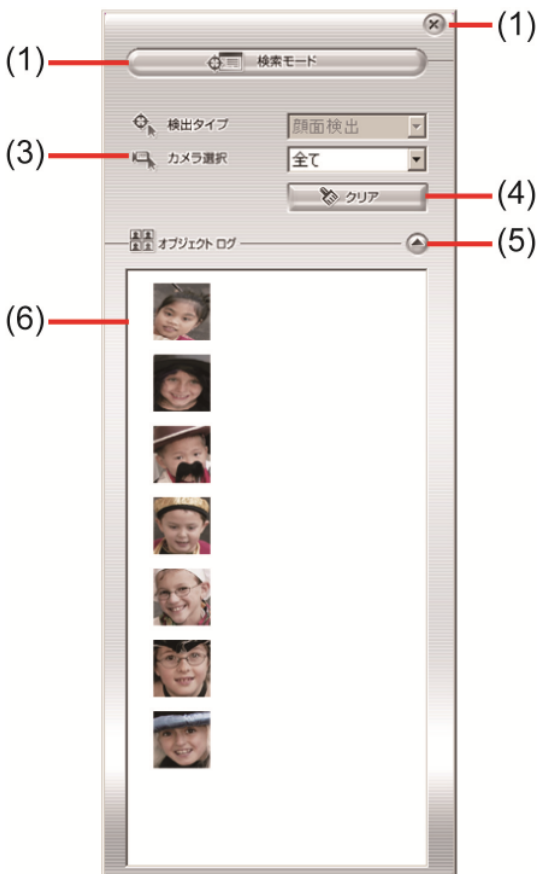
1. DVR システムメインインターフェースでイベントログボタンをクリックすると、イベントログビューアーウィンドウが開きます。
2. 見たい日付を選択するか、キーワードで特定のイベントログを検索します。テキストを検索カラムにキーワードを入力し、検索ボタンをクリックします。
3. 記録をフィルターするには、選択ボタンを選択してクリックすると、「イベント」、「システム」、「作動」、「ネットワーク」、「すべて」が表示されます。
4. 画面に表示されたイベントリストは、テキストファイルフォーマットで保存できます。イベントリストを保存するには、保存ボタンをクリックします。
5. POS イベントログを表示するには、POS ビューアーバーをクリックして POS イベントログウィンドウを呼び出します。



名称	機能
(1) POSDB パス	POS イベントログの保存パス。  をクリックすると、保存パスを変更することができます。
(2) 前/後	POS イベントログの前と後の期間を設定します。
(3) チャンネル	チャンネルの POS イベントログを選択します。
(4) 文字列の検索	特定のキーワードまたは文字列を入力して、POS イベントログを検索します。POS イベントログで完全に一致したキーワードや文字列を検索する場合には、「完全に一致する語を検索」ボックスにマークを入れてください。
(5) フルレセプション	検索結果ウィンドウから選択された POS イベントログの詳細が表示されます。  をクリックすると POS イベントログが保存されます。  をクリックすると POS イベントログが印刷できます。
(6) 検索結果	検索結果の POS イベントログが表示されます。  をクリックすると検索結果が保存されます。  をクリックすると検索結果が印刷できます。

3.2.2 オブジェクトビューアーの使用法

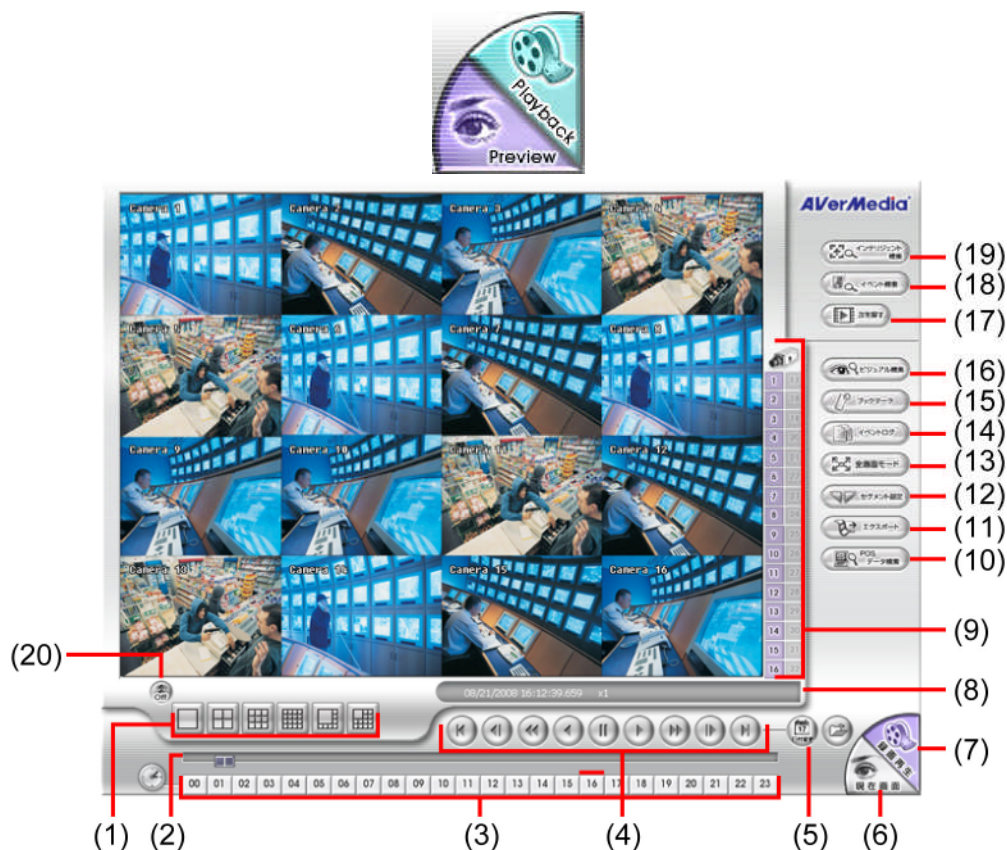
オブジェクトビューアーをクリックするとフェイスファインダーイベントログを表示して検索できます。



名称	機能
(1) 終了	これをクリックするとオブジェクトログビューアーウィンドウが閉じます。
(2) 検索モード	顔オブジェクトログ検索モードに切り替わります。
(3) カメラ選択	表示するカメラに切り替えたり、全部のカメラを表示します。
(4) クリア	オブジェクトログリストのオブジェクトログをすべてクリアします。
(5) クローズアップ	これをクリックするとオブジェクトログリストがクローズアップされます。
(6) オブジェクトログリスト	顔オブジェクトログが表示されます。32 個のオブジェクトログを表示できます。リストが一杯の場合には、オブジェクトログの最初の行が入れ替わります。

3.3 再生モードの機能ボタン

再生モードに切り替えるには、詳細/プレビューモードユーザーインターフェースの右下にある再生ボタンをクリックします。



名称	機能
(1) 分割画面モード	全カメラの録画済みビデオファイルを再生する際に、6種類の分割画面から選択したり、一つのカメラ画面の上に別の画面を重ねたり、一つの画面上に横に並べることができます。32チャンネルを表示させる場合、16分割画面ボタンをクリックしてチャンネル表示を切り替えます。
i (2) 進行バー	カメラが4台しか接続されていない場合、9、13、16の各カメラ分割画面表示に切り替えることはできません。画面上の一部分を拡大するには、拡大したい部分の四角を右クリックしてドラッグしてください。
(3) 時間ボタン	再生中のビデオの進行状況を表示します。バーを動かせば、トラック内のどの位置にでも移動して検索することができます。
i (4) 再生コントロールボタン	これを選択してクリックすると、特定の時間枠で録画されたビデオファイルを再生することができます。
	時間ボタンは、24時間時計を表示します。時間ボタンの上にある青いバーは、その時間内にビデオが録画されていることを表しています。赤いバーは、その部分の録画済みビデオファイルが現在再生中であることを示しています。
	開始: 録画済みビデオファイルの最初まで戻ります。 コマ戻し: 以前のフレームに戻ります。 スロー再生: 録画済みビデオファイルの再生速度を1/2x、1/4x、1/8xに遅くします。 巻き戻し: 録画済みビデオファイルを巻き戻します。 一時停止: 録画済みビデオファイルの再生を一時停止します。 再生: 録画済みビデオファイルを再生します。 早送り: 録画済みビデオファイルの再生速度を2x、4x、8x、16x、32x倍速度で再生します。 コマ送り: 次のフレームに進みます。 終了: 録画済みビデオファイルの最後に進みます。

名称

機能

(5) 日付

録画済みビデオファイルの再生を開始する日付や時刻を、それぞれ、カレンダー、および、00 から 23 までの数字で選択します。

i

00 から 23 までの数字は、24 時間時計を表わしています。01 から 16 までの数字は、カメラ ID です。青いカラムは、その時間内にビデオが録画されていることを表しています。赤いカラムは、録画済みビデオファイルの再生が始まる場所を示しています。

(6) プレビュー

プレビュー/再生モードに切り替わります。

(7) 再生

再生モードに切り替わり、録画済みビデオファイルを見ることができます。

(8) 状態バー

録画した日付、時間、再生速度が表示されます。

(9) カメラ ID

現在表示されているカメラの番号を示します。単一画面モードの場合、カメラ ID 番号をクリックすると、別のカメラに切り替わります。

(10) iPOS 検索

キーワード或いは期間を入力して、iPOS のイベントを検索します。

POSOB 先: iPOS データの保存先

開始時間: 検索開始の日時を選択します。

終了時間: 検索終了の日時を選択します。

カメラ選択: 検索したい iPOS イベントのカメラを選択します。

キーワード: キーワードを入力して、iPOS のイベントを検索します。

- 全文字一致: キーワードに 100%一致する iPOS のイベントを検索します。

検索結果は検索結果ウィンドウに表示します。特定の iPOS イベントをクリックすることで、レシートウィンドウに iPOS の詳細内容が表示されます。

検索結果を保存するには、保存ボタンを押します。検索結果を印刷したいときは、印刷ボタンを押します。

選択した iPOS の検索レシートを保存するには、保存ボタンを押します。選択した iPOS イベントの詳細内容を印刷したい時は、印刷ボタンを押します。

Search Condition

POSOB Path: C:\Program Files\DVR\DVR Server\POS

Start Time: 2008/03/24 00 : 00 : 00

End Time: 2008/03/24 23 : 59 : 59

Select Camera: ---- Select ----

Keyword:

☐ Match whole words exactly

Search

Search Result

Camera	No.	Time	POS Data
9	1	2008/03/24, 11:01:0...	Tea 500...
1	1	2008/03/24, 11:01:0...	Tea 500...
5	1	2008/03/24, 11:01:0...	Tea 500...
2	1	2008/03/24, 11:01:0...	Tea 500...
24	1	2008/03/24, 11:01:0...	Tea 500...
19	1	2008/03/24, 11:01:0...	Tea 500...
18	1	2008/03/24, 11:01:0...	Tea 500...
22	1	2008/03/24, 11:01:0...	Tea 500...

Save

Print

Search Receipt

No.	POS Data
1	Tea 500ml (1) 1 \$15
2	CokeCola 350ml (1) 1 \$20
3	Cheese Cake (1) 1 \$35
4	OREO (1) 1 \$25
5	Tea 500ml (1) 1 \$15
6	CokeCola 350ml (1) 1 \$20
7	CokeCola 350ml (1) 1 \$20
8	OREO (1) 1 \$25
9	Cheese Cake (1) 1 \$35

Save

Print

(11) エクスポート

エクスポートには、スナップショット、印刷、ビデオクリップ出力、バックアップ機能が含まれ

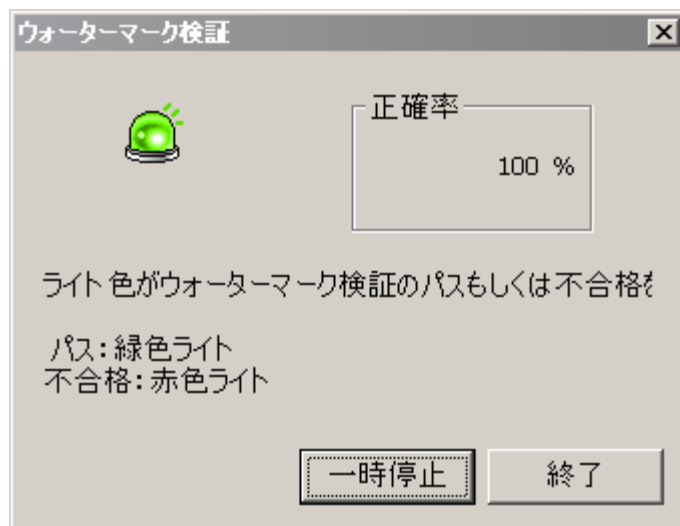
名称	機能
	ます。 ■ スナップショット: *.jpg または *.bmp フォーマットで、画面ショットを捕獲して保存します。 ■ 印刷: 画面ショットを印刷します。 ■ ビデオクリップ出力: *.mpg、*.avi または *.dvr フォーマットで、セグメント化したファイルを保存します(第 3.7 章も参照)。 ■ バックアップ: 再生ファイルを USB デバイスまたは DVD-ROM ディスクに保存します(第 4.6 章バックアップの設定も参照)。
(12) セグメント	録画済みにもビデオの一部分を保存します(第 3.7 章も参照)。
(13) フル画面	画面全体にビデオのみが表示されます。マウスの右ボタンを押すか、キーボードの ESC を押すか、矢印アイコンを押すと、元の画面に戻ります。  矢印アイコンをクリックするとフル画面表示モードが終了します。 複数画面モードでフル画面に切り替える際に、左クリックすると、複数画面モードのビデオのいずれか一つ、またはそれら全部に、切り替えることができます。
(14) イベントログ	システムのアクティビティの記録を表示します。記録をフィルターするには、オプションボタンを選択してクリックすると、イベント、システム、作動、ネットワーク、POS のみが表示されます。
(15) ブックマーク	録画済みにもビデオファイルの再生中に、後でもう一度見たい箇所があったら、参照ポイントマークを付けることができます。これを設定するとファイルを保護することもできます(第 3.8 章も参照)。
(16) ビジュアル検索	特定のカメラで、日付、時刻、分、10 秒、秒で検索します(第 3.9 章も参照)。
(17) 次を検索	次のイベントまたは動作検知器フレームの変更を検索します。インテリジェント検索やイベント検索機能でもこれを使用することができます。
(18) イベント検索	システムで記録されたアクティビティ(センサー、動作、ビデオ消失、POS など)を検索します(第 3.10 章も参照)。
(19) インテリジェント検索	動作検知器フレームの変更を検索します。(第 3.11 章も参照)。
(20) インターレース除去	ビデオの画質を改善します。キャプチャーした画像が動きのない画像のときにはインターレース除去モードを#1 に、動きの多い画像のときには#2 に設定してください。

ウォーターマークの確認

SA DVR では、再生ビデオが真正であることを識別するために、ウォーターマークの確認機能がサポートされるようになりました。SA DVR プログラムでは、フル画面再生モードで一つのチャンネルが再生されているときにのみ、ウォーターマークを確認することができます。



再生されているビデオが改変されていないことを確認します。🔍 をクリックすると、再生されているビデオが真正であるか確認できます。次のようなウォーターマーク確認ウィンドウが表示されます。



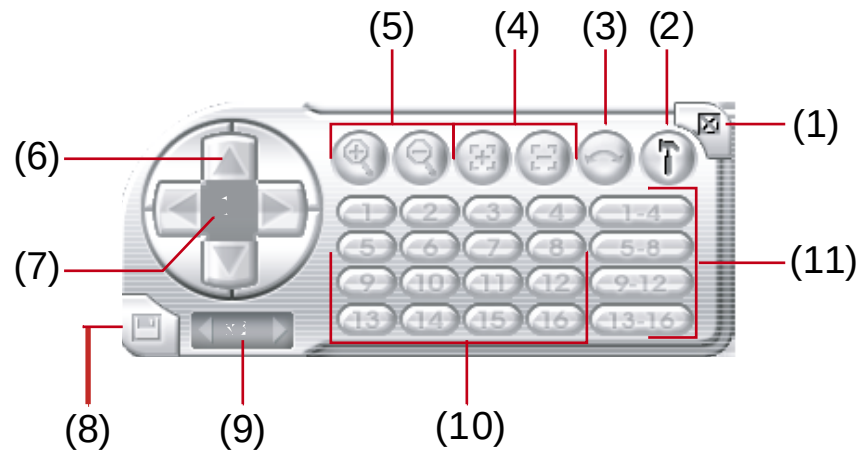
3.4 コンパクトモードの機能ボタン

コンパクトモードで見ると、終了ボタンをクリックします。ログアウトダイアログボックスでコンパクトをクリックしてください。



Name	Function
(1) 分割画面モード	全カメラを表示する 7 種類の分割画面から選択したり、一つのカメラ画面の上に別の画面を重ねたり、一つの画面上に横に並べることができます。
i	- カメラが 4 台しか接続されていない場合、9、16、13 の各カメラ分割画面表示に切り替えることはできません。 - 単一画面表示モードでは、拡大したい部分の四角を右クリックしてドラッグすると、拡大することができます。 - 複数画面表示モードでは、カメラのビデオ画面を右クリックしてドラッグすると、希望の場所に再配置することができます。複数画面表示モードでどれか一つの画面だけを表示させたい場合には、表示させたい画面を左クリックします。
(2) 自動スキャン	ビデオ画面サイクルスイッチをオン/オフします。
(3) アラーム	警告情報を表示して警告を発します。
(4) 再生	再生モードに切り替わり、録画済みにもビデオファイルが再生されます(第 3.3 章を参照)。
(5) 高度	プレビュー / 詳細モードに切り替わります。

3.5 PTZ カメラコントローラーの機能ボタン



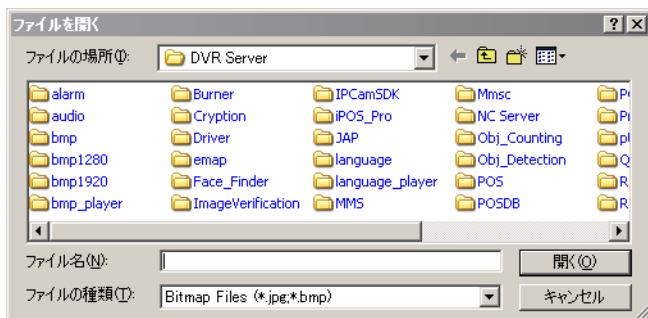
名称	機能
(1) 終了	PTZ カメラコントローラーを終了します。
(2) 設定	PTZ カメラをコンフィギュレーションします(第 3.11 章を参照)。
(3) 自動パン	選択されたカメラグループプリセット位置番号に従って PTZ カメラを操作します。
(4) ピント +/-	画像がはっきりに写るように、手動でピントを合わせます。
(5) ズーム +/-	画像を拡大または縮小します。
(6) 方向ボタン	PTZ カメラの焦点を調整して配置します。
(7) カメラ ID 窓	現在使用中の PTZ カメラ番号を表示します。
(8) カメラプリセット位置の保存	PTZ カメラプリセット位置番号を保存します。カメラを選択して、プリセット位置番号をクリックして保存してください。
(9) カメラレンズ速度コントローラー	PTZ カメラレンズの移動速度を調整します。
(10) カメラプリセット位置番号	PTZ カメラをプリセット位置へ移動させます。
(11) グループ自動パン	全 PTZ カメラを一つのグループとして自動的に作動させます。

3.6 E マップの設定と使用法

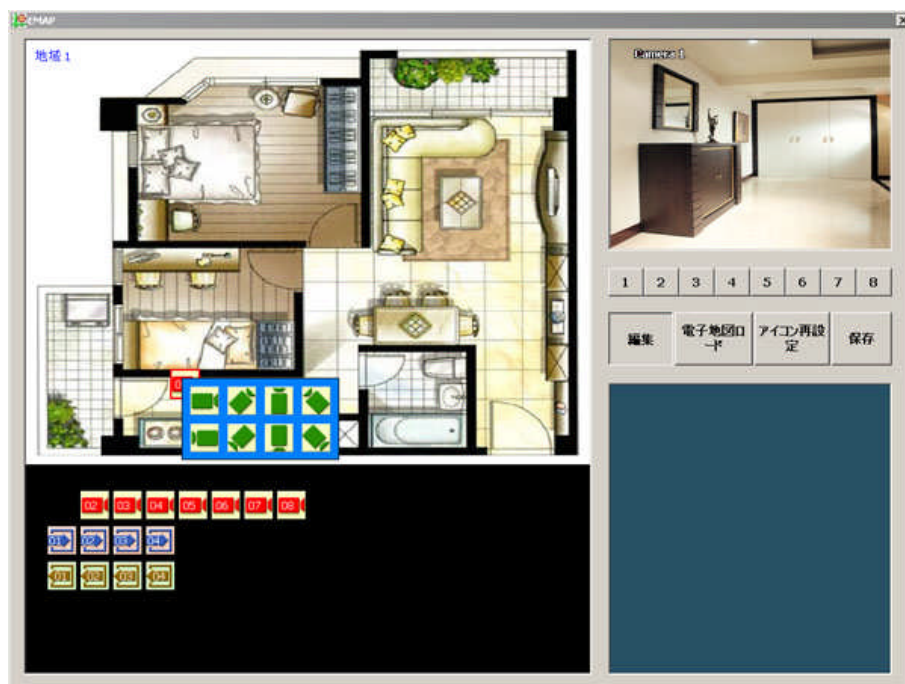
E マップは、*.bmp または *.jpg フォーマットで、最大 8 個のマップを保存することができます。電子地図内にカメラやセンサーやリレーを配置させることができます。

3.6.1 E マップの設定

1. E マップをクリックします
2. E マップ画面が表示されたら、マップを挿入したい場所のエリア番号(1 から 8 までのボタン)をクリックします。
3. マップのロードをクリックしてマップを挿入します。「開く」ダイアログボックスが表示されたら、電子地図を選択して、開くをクリックします。



4. 挿入した電子地図が E マップ画面に表示されたら、編集をクリックします。すると、カメラやセンサーやリレーのアイコンを、マップ上の各場所にドラッグすることができます。アイコンは、マップ上でどこでも配置できます。カメラアイコンを右クリックすると、8 種類の角度のうちから、カメラの角度を選択することができます。アイコンを電子地図上の別のエリアに配置しようとする場合、アイコンを、E マップ画面下の黒い窓へドラッグしてから、アイコンを配置したいエリアに切り替える必要があります。
全部のアイコンを E マップ画面下の黒い窓へ戻すには、アイコンのリセットをクリックします。.

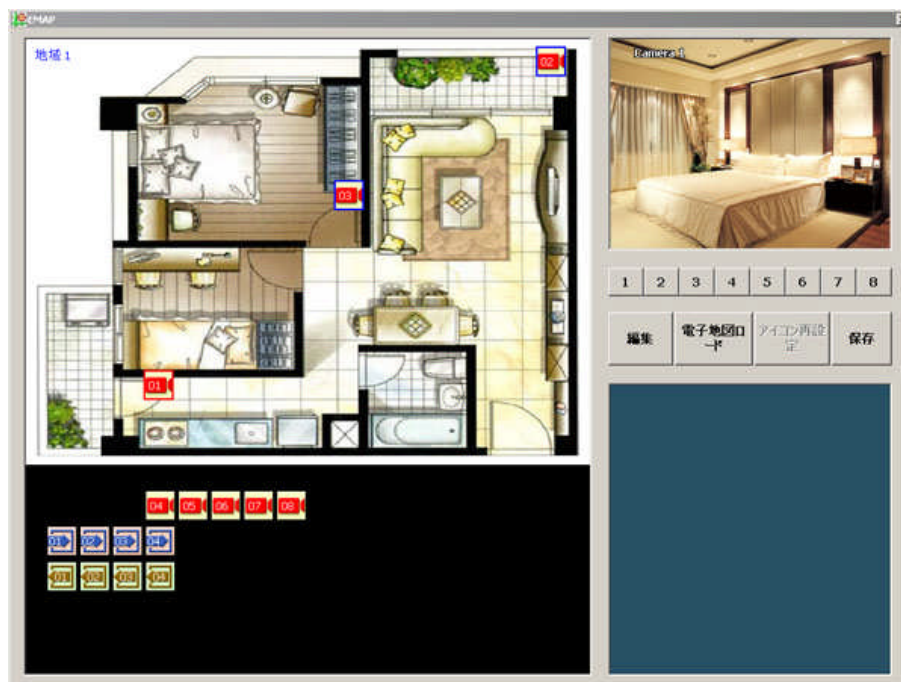


5. 作業が完了したら、編集ボタンをクリックして新しい設定を保存します。E マップ 画面を閉じるには、終了をクリックします。

3.6.2 E マップの使用方法

E マップ を使用するには、次の手順に従ってください。

1. E マップ をクリックします。
2. E マップ 画面で、カメラアイコンをクリックし、マップ上でカメラが配置されているエリアに切り替えると、E マップ画面の右上にビデオが表示されます。E マップ画面の右下に、警告メッセージがすべて列記されます。



3. 終了をクリックして E マップ画面を閉じます。

3.7 録画済みビデオで希望の部分を切り取って保存する

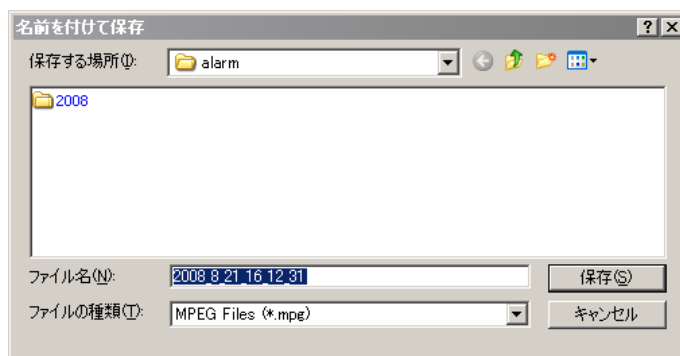
1. 再生コントロールボタンを使用するか、再生進行バー上のバーをドラッグして、切り取りを開始したい場所で一時停止させます。次に、**セグメント**をクリックして開始マークを設定します。



2. 再生コントロールボタンを使用するか、再生進行バー上にバーをドラッグして、切り取りを終了したい場所で一時停止させます。次に、**セグメント**をクリックして終了マークを設定します。分割をキャンセルする場合や分割を初めからやりなおしたい場合には、もう一度**セグメント**ボタンをクリックします。



3. **出力**ボタンをクリックすると、必要な部分が保存されます。
4. 「名前を付けて保存」ダイアログボックスでファイルを保存したいフォルダを見つけて、ファイル名を入力し、ビデオフォーマットを選択します。



3.8 ビデオの一部にブックマークを付ける

1. **ブックマーク**をクリックします。ブックマークボタンを押すと、ビデオの再生が停止します。
2. ブックマークダイアログボックスでは、以下の操作を行うことができます。
 - **追加**で、ブックマークリストに参照マークを追加することができます。このときファイル保護を可能にしたり解除することができます。
 - **編集**で、マークの説明を変更したり、ファイル保護を可能にしたり解除することができます。
 - **削除**で、リスト中で選択した参照マークを削除することができます。
 - **すべて削除**で、リスト中の参照マークをすべて削除することができます。
 - **終了**で、ブックマークダイアログボックスが閉じます。

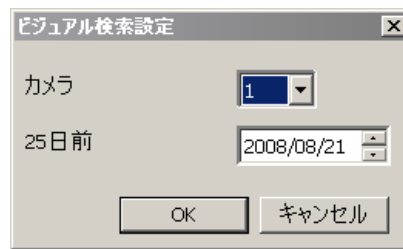


- ブックマークが保護されていると、ファイルを上書きすることはできません。
- システム設定で **録画済みデータを削除**を選択すると、保護されているブックマークファイルが削除されます([4.1 システム設定](#)も参照のこと)。

3. ブックマークのいずれかを選択してクリックすると、ファイルを見ることができます。

3.9 ビジュアル検索を使用して検索する

1. ビジュアル検索をクリックします。
2. ビジュアル検索設定ダイアログボックスで、カメラ番号と日付を選択し、OK をクリックします。

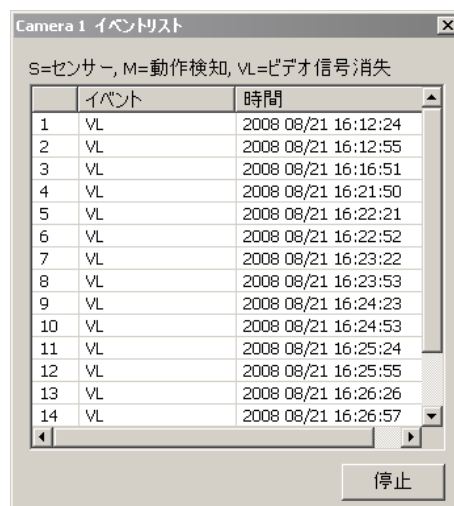


3. 日付順に一連のフレームが表示されているときに、フレームをクリックすると、別の一連のフレームが表示されますので、1日のうちで1時間ごとに、その1時間内で1分ごとに、その1分間で10秒ごとに、その10秒間で1秒ごとに、検索を行います。前に戻るには をクリックします。選択したフレームから表示させたり、イベント検索を終了するには、 をクリックします。



3.10 イベント検索を使用して検索する

1. ビデオ画面上で、検索したい部分をクリックします。
2. イベント検索をクリックします。画面の左下に、イベント検索テキスト(赤)が表示されます。
3. イベント検索設定ダイアログボックスで、検索したい条件タイプにチェックマークを入れます。POS を選択した場合、「テキストの検索」ボックスにテキストをタイプし、OK をクリックすると検索が開始されます。条件に一致したフレームでビデオ検索が停止します。検索を継続するには、 をクリックします。
4. 検索を行って検索結果を列記させることもできます。その場合は、出力イベントリストボックスにチェックマークを入れてください。「検索期間」セクションで、開始時刻、終了時刻、検索間隔を設定し、OK をクリックすると検索が開始されます。



5. イベントリストが表示されたら、表示させたい項目を選択してクリックしてください。

3.11 インテリジェント検索を使用して検索する

1. ビデオ画面上で、検索したい部分をクリックします。
2. **インテリジェント検索**をクリックします。画面の左下に、インテリジェント検索テキスト(赤)が表示されます。
3. インテリジェント検索設定ダイアログボックスと動作検知器フレームが表示されたら、感度バーと動作検知器フレームサイズとその位置を調整することができます。動作検知器フレームサイズとその位置を設定するには、左クリックして画面内へドラッグします。次に **OK** をクリックすると検索が開始されます。条件に一致したフレームでビデオ検索が停止します。検索を継続するには、 をクリックします。
4. 検索を行って検索結果を列記させることもできます。その場合は、リストボックスにチェックマークを入れてください。「検索期間」セクションで、**開始時刻**、**終了時刻**、**検索間隔**を設定し、**OK** をクリックすると検索が開始されます。



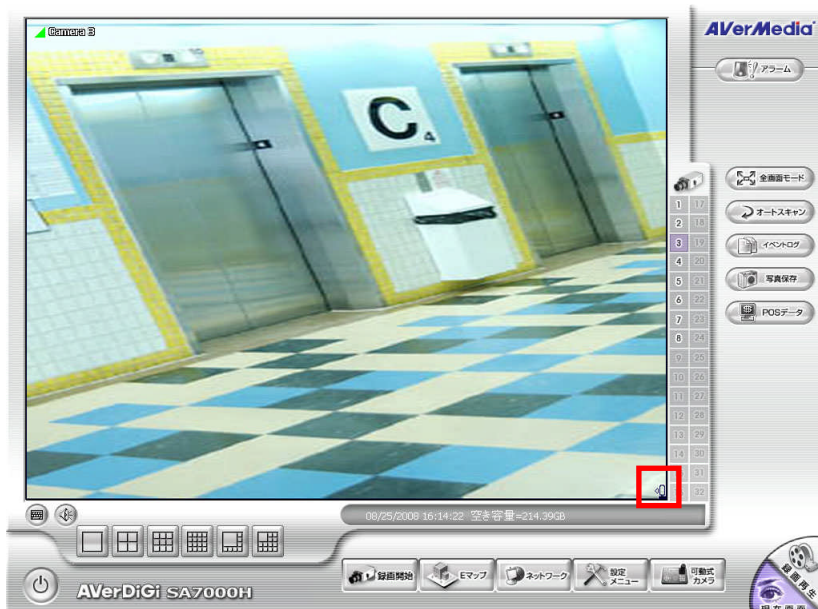
3.12 PTZ/IP PTZ カメラの設定方法

3.12.1 PTZ カメラの設定

1. PTZ コントロールパネルで**設定**をクリックします。
2. PTZ 設定ダイアログボックスが表示されたら、カメラ番号を選択して、PTZ 使用ボックスにチェックマークを入れてください。



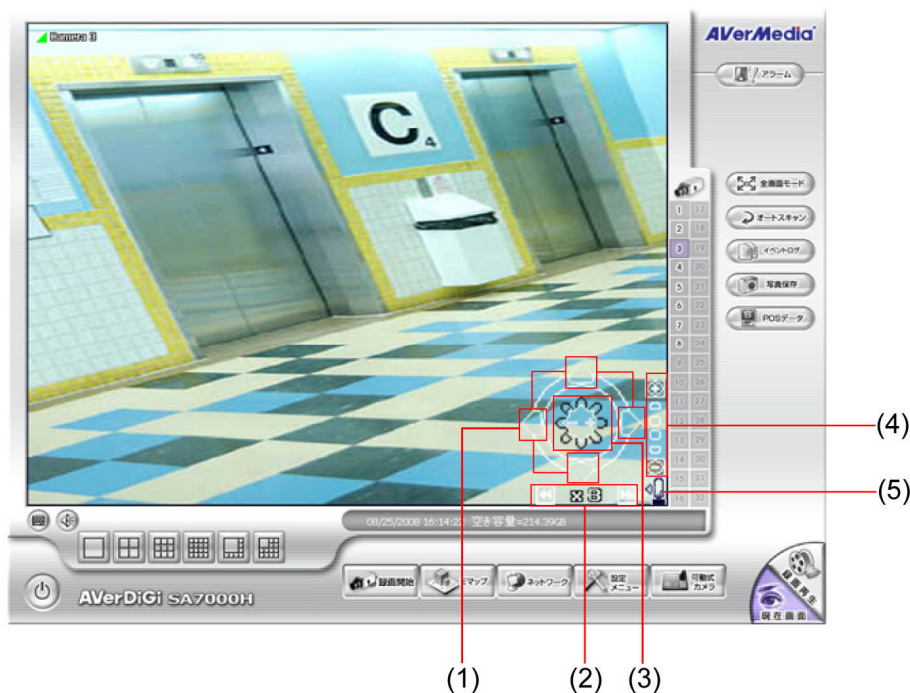
3. 「接続設定」セクションで、PTZ カメラが接続されている COM ポートと、PTZ ID 番号と PTZ カメラプロトコルを選択します。次に**保存**をクリックして、設定を保存します。
4. PTZ コントロールパネルを使用して、PTZ カメラの位置を調整します。
5. **プリセット設定**セクションでプリセット番号を選択して、PTZ カメラの現在位置にプリセット番号を割り当てます。PTZ カメラが次の位置に移動するまでその位置にとどまっている時間として、**滞留時間** (1-60 秒)を設定します。説明を追加したい場合、**プリセット名表示**ボックスと**プリセット名**テキストボックスにチェックマークを入れ、テキストをタイプしてください。作業が終了したら**保存**をクリックすると設定が保存されます。
6. 別の PTZ カメラ位置を保存したい場合には、上記ステップ 4 と 5 を繰り返します。
7. **オートパン復元時間**: PTZ カメラを動かした後で、自動パス機能を復元するための時間を設定します。チェックボックスにマークを入れ、秒で時間を設定してください。
8. 作業が終了したら **OK** をクリックすると設定が保存されます。**キャンセル**をクリックすると、新しい設定を保存せずに、終了します。
9. IP PTZ カメラが SA DVR システムに接続されている場合には、オンスクリーン PTZ コントローラーが作動状態になっています。このとき、チャンネル画面の右下に、小さな PTZ コントローラーアイコンが表示されます。



10. オンスクリーン PTZ コントローラーアイコンをクリックすると、コントロールパネルが表示されます。



- PTZ コントローラーは、画面上のどの部分にも移動させることができます。
- オンスクリーン PTZ コントローラーは、一度に一つのチャンネル画面にしか表示されません。



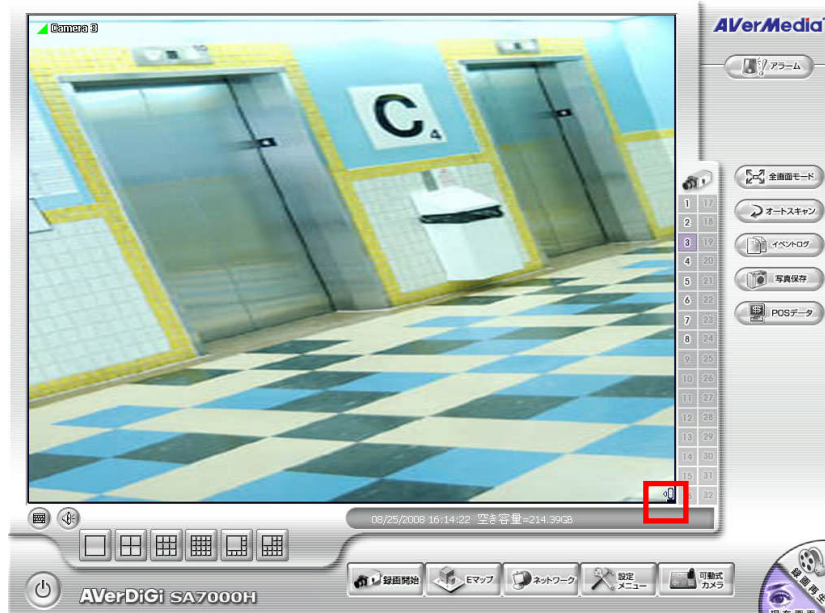
名称	機能
(1) 調整矢印	カメラレンズを上下左右に移動させます。
(2) 高速/低速	カメラレンズの動きを速くしたり遅くすることができます。
(3) ピント +/-	画像がはっきりに写るように、手動でピントを合わせます。
(4) ズーム +/-	画像を拡大または縮小します。
(5) オンスクリーン PTZ コントローラーアイコン	オンスクリーン PTZ コントローラーを表示させたり閉じることができます。

3.12.2 IP PTZ カメラの設定

1. PTZ コントロールパネルで**設定**をクリックします。
2. PTZ 設定ダイアログボックスが表示されたら、**IP PTZ** タブをクリックします。
3. カメラ番号を選択して、**PTZ の使用**ボックスにチェックマークを入れてください。

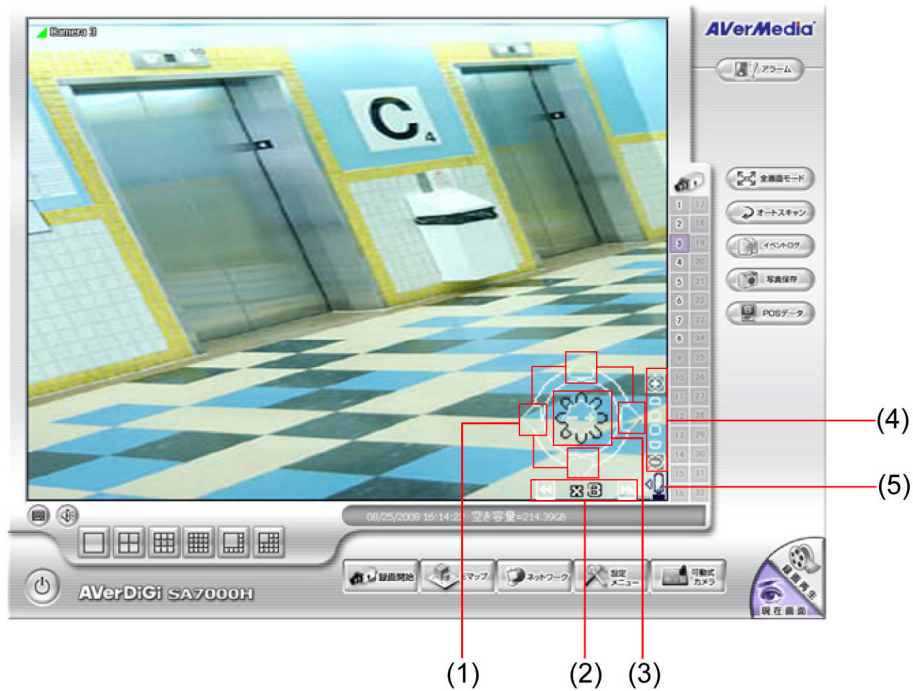


4. 「接続設定」セクションで、PTZ カメラが接続されている**プロトコル**と、IP または IP カメラの URL がある IP カメラサイトを選択します。次に**保存**をクリックして、設定を保存します。
5. IP PTZ コントロールパネルを使用して、IP PTZ カメラの位置を調整します。
6. **プリセット設定**セクションでプリセット番号を選択して、IP PTZ カメラの現在位置にプリセット番号を割り当てます。IP PTZ カメラが次の位置に移動するまでその位置にとどまっている時間として、**滞在時間**(1-60 秒)を設定します。説明を追加したい場合、**プリセット名の表示**ボックスと**プリセット名**テキストボックスにチェックマークを入れ、テキストをタイプしてください。作業が終了したら**保存**をクリックすると設定が保存されます。
7. 別の PTZ カメラ位置を保存したい場合には、上記ステップ 4 と 5 を繰り返します。
8. **オートパン復元時間**: IP PTZ カメラを動かした後で、自動パス機能を復元するための時間を設定します。チェックボックスにマークを入れ、秒で時間を設定してください。
9. 作業が終了したら **OK** をクリックすると設定が保存されます。**キャンセル**をクリックすると、新しい設定を保存せずに、終了します。
10. IP PTZ カメラが NX DVR システムに接続されている場合には、オンスクリーン PTZ コントローラーが作動状態になっています。このとき、チャンネル画面の右下に、小さな PTZ コントローラーアイコンが表示されます。



11. オンスクリーン PTZ コントローラーアイコンをクリックすると、コントロールパネルが表示されます。

- PTZ コントローラーは、画面上のどの部分にも移動させることができます。
- オンスクリーン PTZ コントローラーは、一度に一つのチャンネル画面にしか表示されません。



名称	機能
(1) 調整矢印	カメラレンズを上下左右に移動させます。
(2) 高速/低速	カメラレンズの動きを速くしたり遅くすることができます。
(3) ピント +/-	画像がはっきりに写るように、手動でピントを合わせます。
(4) ズーム +/-	画像を拡大または縮小します。
(5) オンスクリーン PTZ コントローラーアイコン	オンスクリーン PTZ コントローラーを表示させたり閉じることができます。

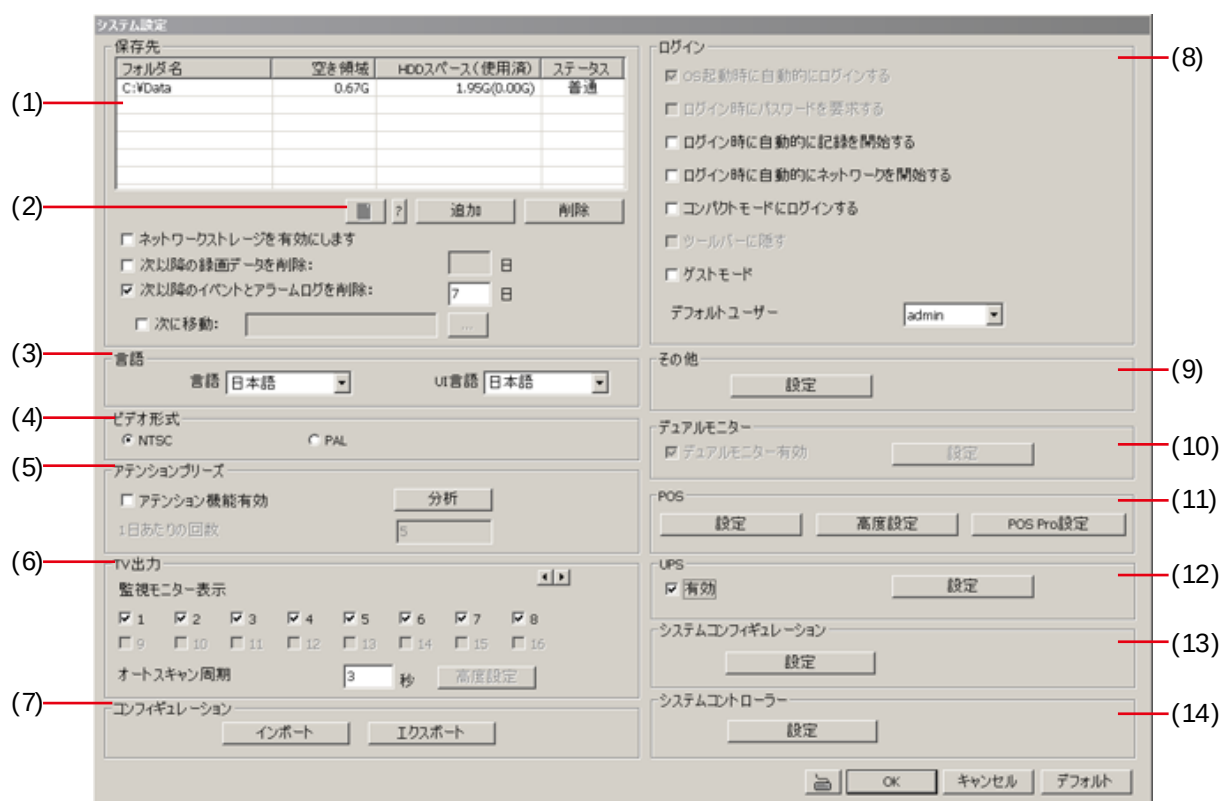
第4章 DVR システムのカスタム化

プレビュー/詳細画面モードで  ボタンをクリックすると DVR システムをカスタム化することができます。DVR コンフィギュレーション設定選択肢が表示されたら、設定を変更したいボタンを選択してクリックします。



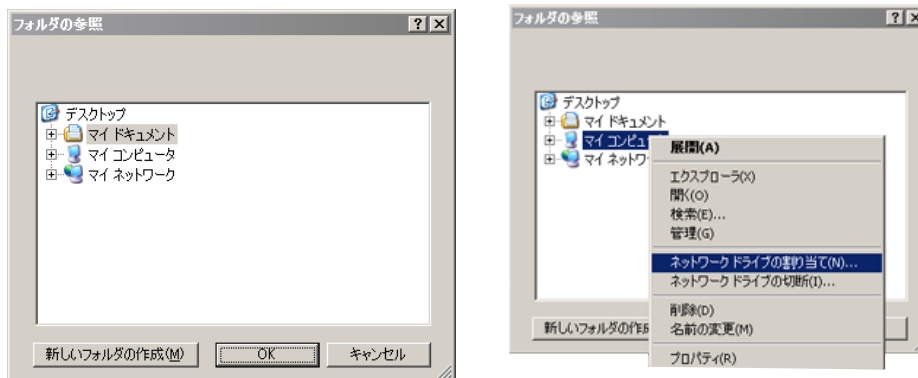
4.1 システム設定

システム設定ダイアログボックスで、OK をクリックすると新しい設定が保存され、キャンセルをクリックすると設定を保存せずに終了し、初期設定をクリックすると工場設定に戻ります。

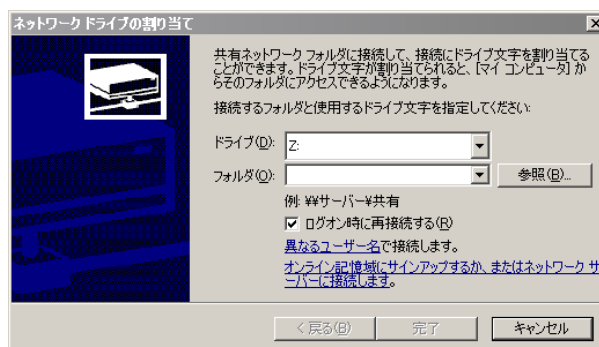


(1) 保存先

データを保存したいディレクトリを設定します。1 時間分のデータを保存するための十分なスペースがない場合、システムは自動的に一番古いデータを削除して新しいデータを保存します。保存パスが 2 つ以上ある場合には、システムは自動的に、次の保存パスにデータを保存します。きわめて大きな保存容量が必要な場合には、ネットワーク接続式ストレージ(NAS)を追加することができます。「ネットワークストレージを作動」チェックボックスにマークを入れ、録画済みビデオをネットワークストレージに送ってください。ネットワークストレージを追加するには、インターネットストレージドライブ/フォルダを DVR サーバーのネットワークドライバーとしてマッピングしなければなりません。まずネットワークストレージを作動状態にしてから、「追加」をクリックします。フォルダのブラウザウィンドウでドライブ C を選択し、マウスボタンを右クリックして、ネットワークドライブをマッピングするオプションを選択します。



判明している場合には、マップネットワークドライブウィンドウで、ドライブを選択して、フォルダカラムにネットワークドライブを記入します。もしくは、ブラウズをクリックして、フォルダを見つけます。終了をクリックすると、ネットワークドライブのマッピングが完了します。ネットワークドライブを追加したら、ネットワークストレージ用フォルダを作成する必要があります。フォルダのブラウズウィンドウでネットワークドライブを選択し、マウスボタンを右クリックして新しいフォルダを追加します。次に OK をクリックします。保存パスリストに新しい保存フォルダが表示されるはずです。

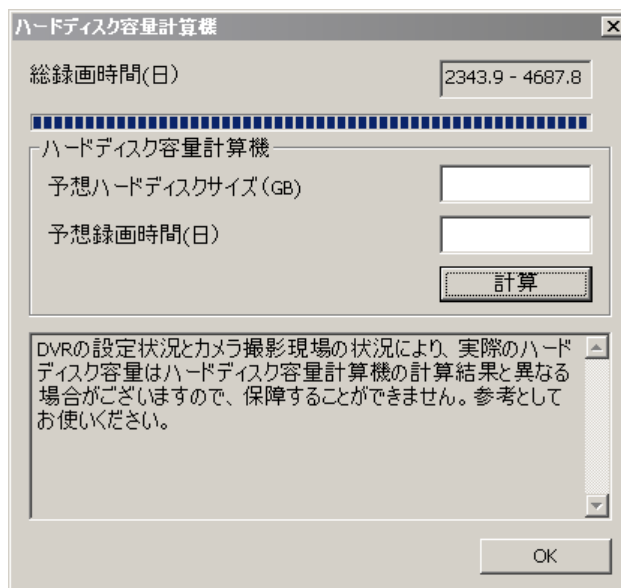


初期設定では、データは C:\Data に保存されます。別の保存パスを挿入するには、追加をクリックします。選択したパスを削除するには、削除をクリックします。ある日数後にシステムにデータを自動的に削除させたい場合、…日後に記録したデータを削除するチェックボックスにマークを入れ、日数テキストボックスに日数を入力します。ある日数後にシステムにイベントやアラームログを自動的に削除させたい場合、…日後にイベントとアラームログを削除するチェックボックスにマークを入れ、日数テキストボックスに日数を入力します。ログの保存先を変更するには、移動先を作動状態にして、新しい保存先を選択します。

(2)ハードディスク計算機

ハードディスクの容量を算出します。計算結果は概数値ですので目安にしかありません。ハードディスクの記録容量は実際の録画の質や、ビデオ内のシーンがどの程度複雑な画像であるかによって異なります。

■をクリックすると、ハードディスク計算機ウィンドウが表示されます。総録画時間は、現在のハードディスク録画容量を示しています。予想ハードディスクサイズまたは予想録画時間にハードディスクサイズの予想値や予想録画時間を入力し、計算ボタンをクリックします。OK をクリックすると、ハードディスク計算機ウィンドウが閉じます。ハードディスクの計算は、録画設定や現在のハードディスクの設定に基づいて行われます。

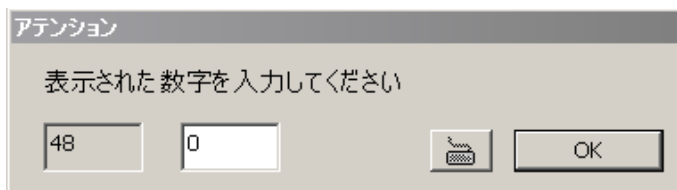


(3) 言語

選択した言語でツールのヒントやダイアログを表示するように、システムをカスタム化することができます。初期設定言語は日本語です。

(4) ビデオシステムの設定

使用しているカメラビデオシステムに応じてビデオシステムを選択して変更することができます。ビデオシステムの設定が間違っていると、画面が正しく表示されません。



(5) アテンションブリーズ

システムの監視者がどの程度注意を払っているか確認することができます。1日の回数テキストボックスで、1日にアテンションダイアログボックスを表示させる回数を設定することができます。監視者がどのくらいすばやく反応するか示したグラフを表示するには、分析をクリックします。

この機能を作動させると、アテンションダイアログボックスが表示されます。システムの監視者は、左のテキストボックスに表示されているのと同じ数字を右のボックスに記入して、OK をクリックしなければなりません。

(6) TV 出力

TV に表示させたいカメラを選択し、次のカメラに切り替わるまでの時間として、3～10 秒の時間ギャップを設定します。

- 詳細ボタン (詳細機能は SA6000E シリーズと SA6000E Pro のみ使用可能)

TV に表示させたいチャンネルとカメラを選択します。

詳細モードでは、自動スキャンまたは固定レイアウトの 2 種類の表示を選択できます。

オートスキャン

(1) ドロップダウンリストからビデオカードチャンネルを選択します。コンピューターに 1 台のキャプチャーカードしかインストールされていない場合には、1 つのビデオカードチャンネルしか選択できません。

(2) 表示モードとしてオートスキャンを選択します。

(3) プレビュー画面: 実況カメラビデオはここに表示されます。

(4) ビューモード: 画面に表示させたいビューモードを選択します。システムは、順々に次のチャンネルに自動的に切り替えます。



固定レイアウト

(1) ドロップダウンリストからビデオカードチャンネルを選択します。コンピューターに 1 台のキャプチャーカードしかインストールされていない場合には、1 つのビデオカードチャンネルしか選択できません。

(2) 表示モードとして固定レイアウトを選択します。

(3) プレビュー画面: 実況カメラビデオはここに表示されます。

(4) ビューモード: TV 出力表示の分割モードを選択します。

(5) カメラ: 画面に表示させたいカメラを選択することができます。画面には選択されたチャンネルのみが表示されます。また、カメラは、選択した順序で表示されます。



(7) コンフィギュレーション

全設定のコピーをバックアップして、同じ設定状態に戻すために使用します。現在の設定を保存するには、**エクスポート**をクリックします。保存しておいた設定と入れ替えるには、**インポート**をクリックします。

(8) ログイン

システムに自動的に実行させたいログインセクションを選択します。

- **ログイン時の自動録画**
DVR システムを実行したときに、自動的にビデオ録画を開始します。
- **コンパクトモードへのログイン**
DVR システムを実行したときに、直接コンパクトモードに切り替えます。
- **初期設定ユーザー**

DVR システムを実行したときに、選択された初期設定ユーザーに自動的にログインします。

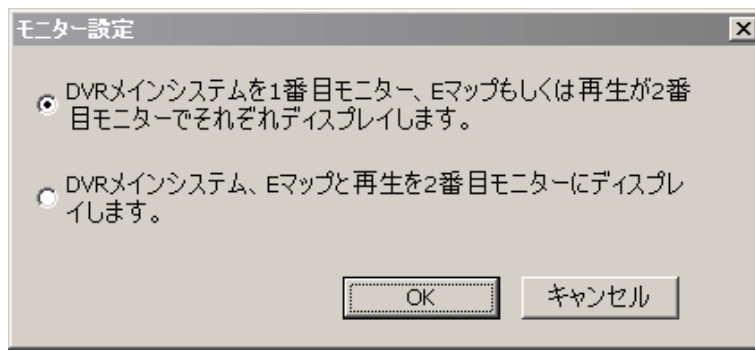
(9) その他

その他セクションで、システムにどんな状態を実行させたいか、選択することができます。

- **状態レポート**
イベントやアテンション分析レポートを毎日送信します。Eメール設定を変更するには**設定**をクリックしてください。
- **信号がない場合のビープ音**
ビデオ信号が消失すると、警告音が出ます。
- **再生モード**
ビデオの再生モードを選択します。
日付と時刻の選択: 再生させたい日付と時刻を選択します。
最後のファイルを再生: 最後の 1 時間分のビデオを自動的に再生します。
インスタント再生: たった今録画したビデオを再生します。
- **日付フォーマット**
日付と時刻の選択再生モードで表示させたい日付フォーマットを選択します。
- **自動スキャン時間**
自動スキャン機能の時間的ギャップを、3 秒から 10 秒の間で設定します。設定した時間ギャップに応じて、自動的に次のビデオに順々に切り替わります。
- **オーバーレイ作動**
ビデオの画質を改善するためにビデオ信号を強化します。

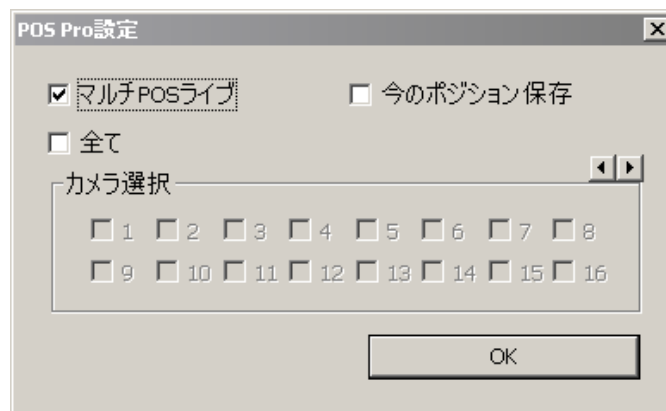
(10) デュアルモニター

デュアルモニター表示を作動または解除します。**設定**をクリックして、デュアルモニター表示を選択してください。



(11) POS

どのカメラ画面から POS 装置のデータを表示させるか、設定します。**設定**をクリックして、POS コンソール設定を選択してください。テキストフローやカラーフォーマットを設定するには、**詳細**をクリックします(第 4.1.1 章も参照)。リアルタイム iPOS のマルチチャンネルを設定するには、**iPOS Pro 設定**をクリックします。リアルタイム iPOS データのマルチチャンネルを表示させるには、**マルチ iPOS 実況**を作動させます。ユーザー情報に iPOS データウィンドウポジションのリアルタイムを保存するには、**現在のポジションを保存**にマークを付けます。全チャンネルを選択するには、**すべて**チェックボックスにマークを入れます。各チャンネルに一つずつマークを付けても構いません。OK をクリックすると選択が保存され、POS Pro 設定ウィンドウが閉じます。



(12) UPS (無停電電源装置)

電源サージや電圧低下などからシステムを保護します。これによって、バッテリー容量がパーセントレベル設定以下になってバッテリーバックアップ電源がシャットダウンに達すると、自動的に DVR システムを適切な方法で終了する程度の時間が与えられます。コンピューターに UPS 装置が接続されていなければなりません(第 4.1.2 章も参照)。

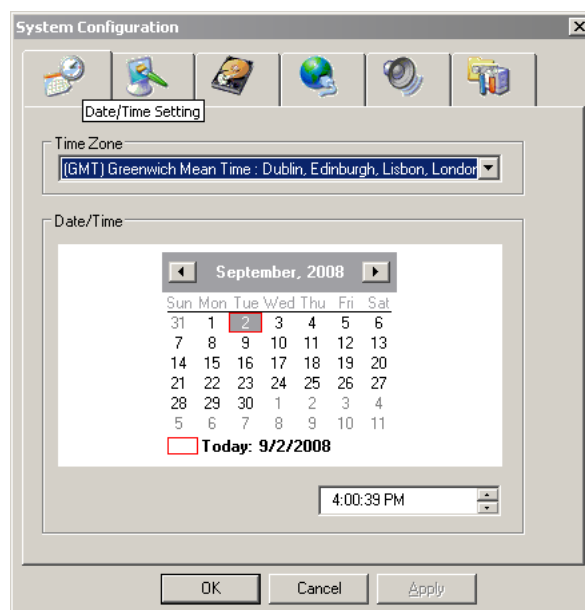


UPS アプリケーションが Windows 2000 または Windows XP システムの条件を満足していなければなりません。

(13) システムコンフィギュレーション

DVR システムの日付と時刻、および、IP アドレスをコンフィギュレーションします。

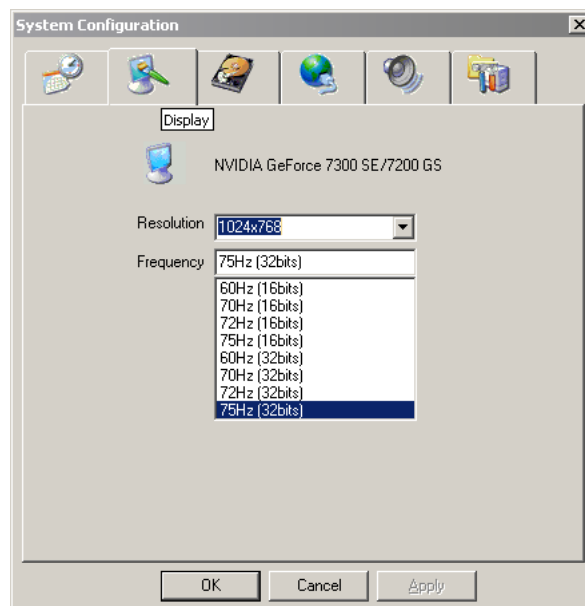
日付と時刻の設定



1. DVR システムが設置されている場所の**時間ゾーン**を選択します。
2. **月と日**を選択します。矢印ボタンをクリックすると別の月に変更されます。
3. スピンボックス矢印ボタンで**時刻**を設定します。
4. **OK** をクリックするとコンフィギュレーションが保存されます。

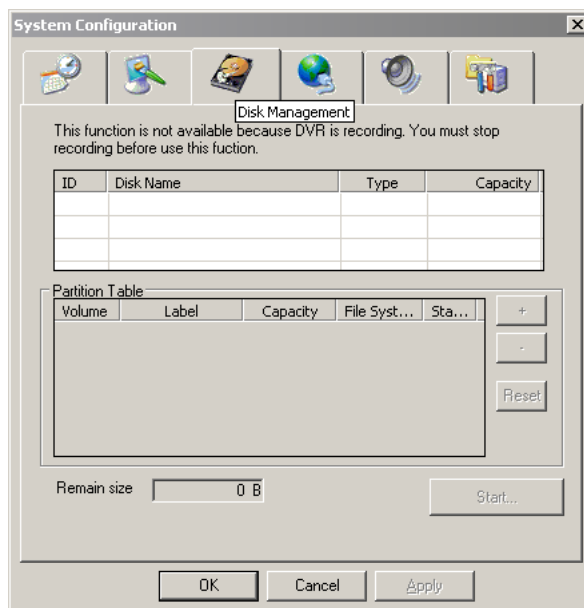
表示

画面の解像度を選択します。



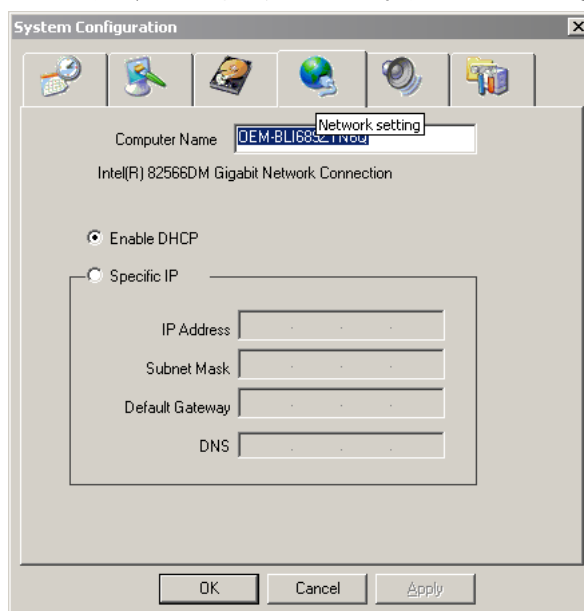
ディスク管理

ハードディスクを管理とフォーマットします。[第 2.1.1 章](#)を参照しながら、ハードディスクをフォーマット及びパーティションしてください。



ネットワークの設定

ネットワーク設定 (IP アドレス、サブネット、DNS など)のコンフィギュレーションを行います。



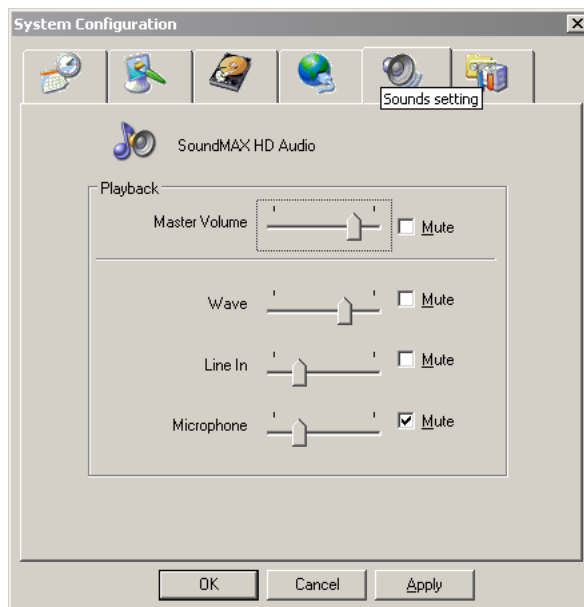
- 自動的に IP を得る(DHCP): DVR サーバーに IP アドレスを割り当てる DHCP サーバーを使用します。
- 次の IP アドレスを使用する: DVR サーバーに固定 IP アドレスを割り当てます。
- IP アドレス: ISP から DVR に与えられる実際の IP アドレスである、一定の IP アドレスを割り当てます。

i DVR に 1.0.0.0 ネットワークセグメントを割り当てないでください。1.0.0.0 IP セグメントを識別できないため、DVR がインターネットにアクセスできません。

- マスク: サブネットワークを識別し、いくつかのビットによってホストアドレスに余裕が与えられるかの識別に使用されるビットマスクです。DVR システムに割り当てた IP アドレスのサブネットマスクを入力します。
- ゲートウェイ: インターネットへのパスウェイの役目をもつネットワークデバイス。ネットワークゲートウェイの IP アドレスを入力します。
- DNS:ドメインネームサーバーは、ドメインネーム (www.abb.com.tw など) を IP アドレスに翻訳します。DNS の IP アドレス(あれば)を入力してください。

音声の設定

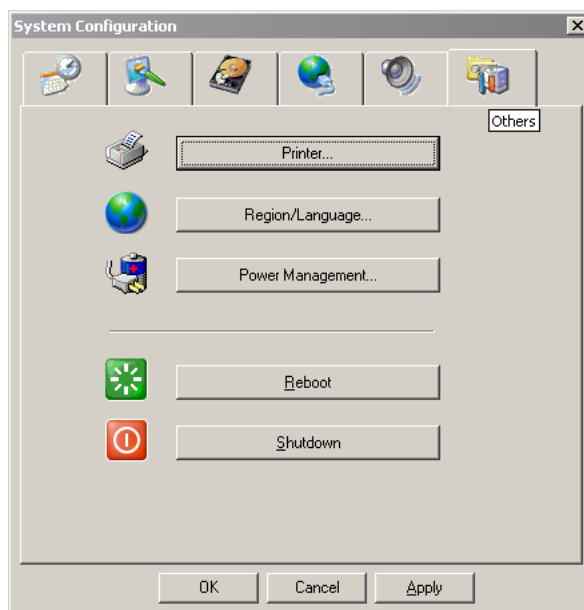
システムの音量を調整します。



その他

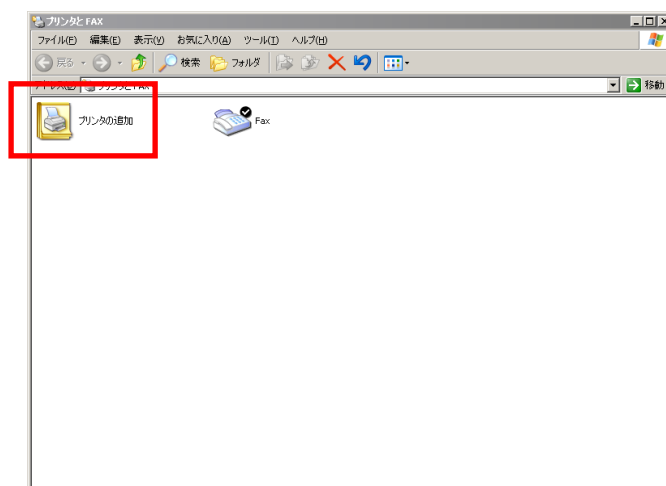
Reboot(再起動): DVR を再起動します。

Shoutdown(シャットダウン): DVR の電源をシャットダウンします。



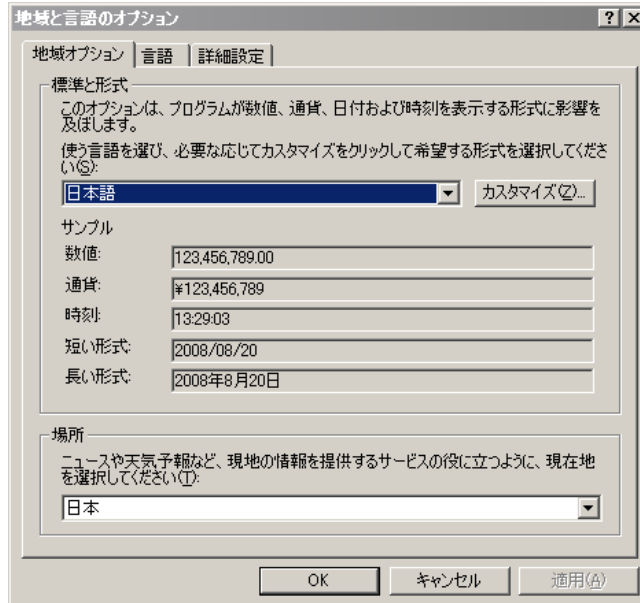
プリンターの設定

プリンターを追加をクリックして、ウィザードに従ってプリンターをインストールしてください。



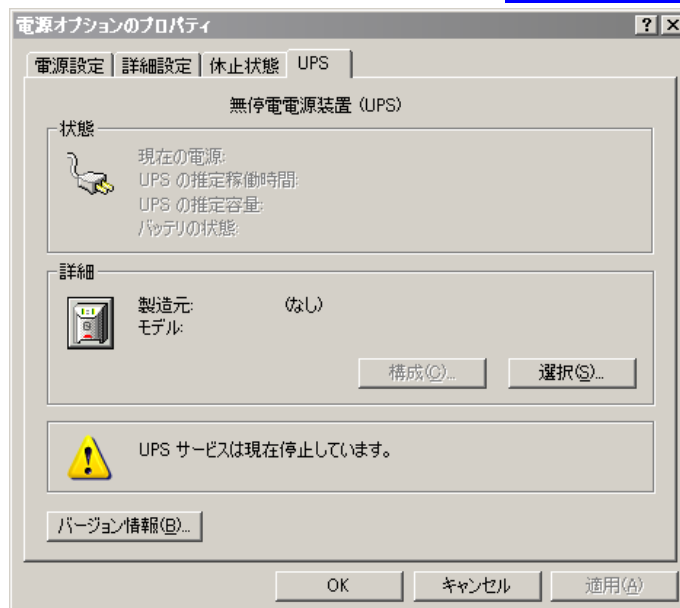
地域と言語の設定

DVR アプリケーションで英語以外のユーザー情報言語を使用する場合、ユーザー情報ディスプレイが正しく表示されるように、それに対応する地域と言語を選択することができます。



電源の管理

UPS コンフィギュレーションを設定します。詳細については、[第 4.1.2 章 UPS の接続](#)を参照してください。



(14) システムコントローラー設定

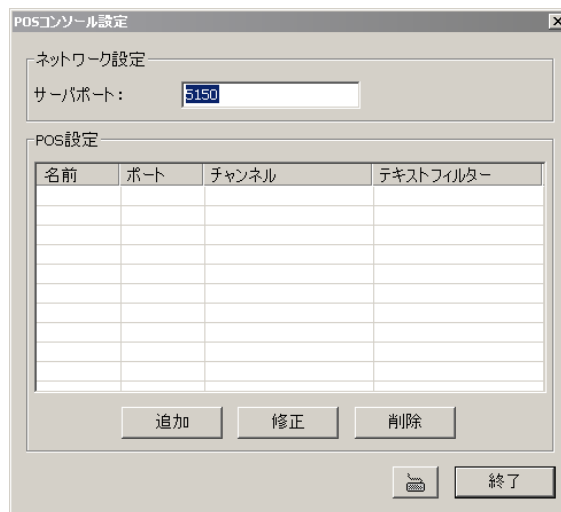
システムコントローラー(オプションのアクセサリ)の通信できるようにパラメーターを設定します。また、システムコントローラーの取扱説明書もご参考ください。



4.1.1 POS を設定する

システム設定ダイアログボックスの POS セクションで、**設定**をクリックします。テキストフローやカラーフォーマットを設定するには、**詳細**をクリックします。

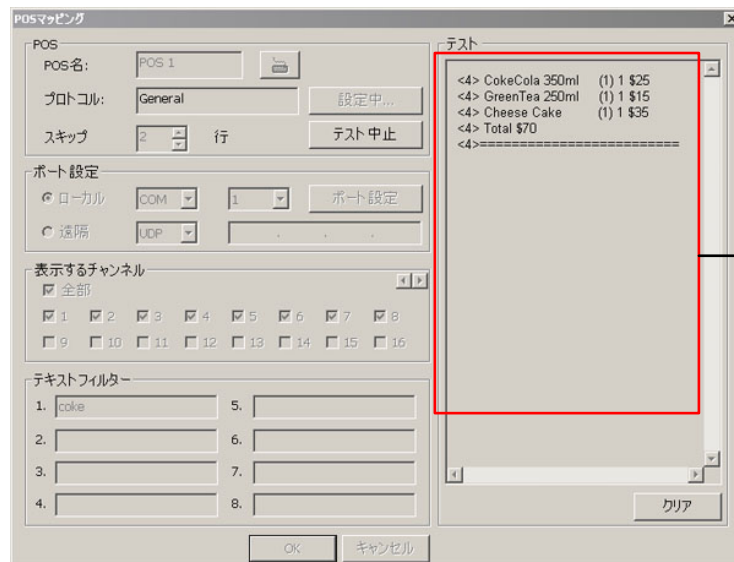
1. POS コンソール設定ダイアログボックスで**追加**をクリックすると新しい POS を設定でき、**変更**をクリックすると POS 設定を変更でき、**削除**で選択した POS 設定が削除されます。**OK**をクリックすると、保存されて POS コンソールが終了します。



2. POS マッピングダイアログボックスで **OK** をクリックすると設定が保存され、**キャンセル**をクリックすると新しい設定を保存せずに終了します。



- (1) POS 名 : POS を識別する名前を入力します。
- (2) プロトコル : プロトコルを選択するには、**設定**ボタンをクリックします (POS プロトコルの設定を参照)。
- (3) スキップ : 削除したい行の数を設定します。
- (4) テスト開始 : POS 設定をテストする際にクリックします。POS マッピングウィンドウの右側にテスト結果が表示されます。



- (5) 設定… : COM プロパティを設定します。不明な場合は、POS サービスプロバイダーにお問い合わせください。



- (6) ポート設定 : 接続されているローカルまたはリモートポートを選択します。
 ローカル - 接続されている COM ポート番号を選択します。
 リモート - POS システムがインターネットにブロードキャストできる場合には、リモート接続用 UDP プロトコルを使用します。リモートステーションの IP アドレスを入力します。
- (7) チャンネルへのマップ: トランザクションテキストを表示するカメラ番号を選択します。
- (8) テキストフィルター: 表示したくない文字を入力します。

POS デバイスの設定

4 個の初期設定 POS デバイスがあります。初期設定以外の POS デバイスを使用する場合、新しい POS デバイスと規則を追加することができます。初期設定 POS デバイスを含めて、最大 50 個の POS デバイスを追加することができます。

グループ	タイプ	データ	ス...
Page End	Hex	0C	1
Page End	Hex	1D 56	3
Page End	Hex	1B 69	2
Page End	Hex	1B 6D	2
Line End	Hex	0A	1
Skip Cmd	Hex	0D	1
Skip Cmd	Hex	1B 7A	3
Skip Cmd	Hex	1B 70	5
Skip Cmd	Hex	1B 76	2
Skip Cmd	Hex	1B 20	3
Skip Cmd	Hex	1B 21	3
Skip Cmd	Hex	1B 64	3
Skip Cmd	Hex	1B 61	3
Skip Cmd	Hex	1B 63	4
Skip Cmd	Hex	1B 74	3
Bill End	Ascii	Total	

標準 POS デバイスの設定

- 新しい POS デバイスの追加

- 追加をクリックします。
- 名前カラムに POS デバイス名を入力します。
- タイプとして、標準を選択します。
- OK をクリックすると保存されます。
- 既存のデバイスを変更するには、そのデバイスをダブルクリックします。
- 初期設定をクリックすると、元の設定に戻ることができます。

名前: New Device

タイプ: ☒ Standard ☐ XML

OK キャンセル

- 規則の追加

- デバイスリストから POS デバイスを選択します。
- 規則セクションで追加をクリックします。
- 規則設定ウィンドウでグループを選択します。各グループでは、回数が限定されています。規則設定ウィンドウで「最大」と「リマインダー」の情報を参照してください。行末、ページ末、請求書末の各グループは、1 回しか設定できません。
 - 行末: 各行を分割する規則を設定します。
 - ページ末: 改ページの規則を設定します。
 - スキップコマンド: 文字列や文字を無視する規則を設定します。
 - 含める: 行に文字列や文字を表示する規則を設定します。
 - 除外する: 行で文字列や文字を隠す規則を設定します。
 - 請求書末: 各トランザクションを分割する規則を設定します。

4. **タイプ**の選択 - Ascii または XML を選択します。
5. **データ**カラムに、文字列や文字を入力します。最大長は 31 文字です。
6. **OK** をクリックします。
7. **保存** をクリックします。コンフィギュレーションは保存されずに失われます。
8. 既存の入替え規則を変更するには、その規則をダブルクリックします。

• 文字の入れ替え

POS データで文字や語を入れ替える規則を設定します。入替え回数は最大 8 回です。

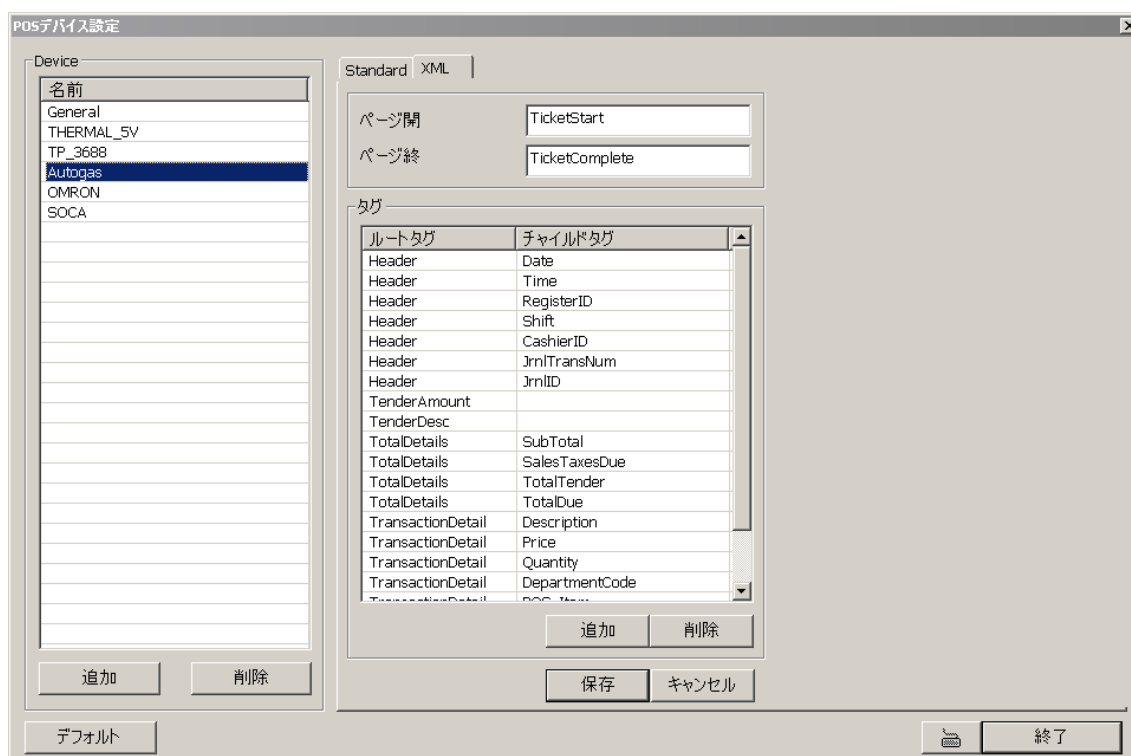
1. デバイスリストから POS デバイスを選択します。
2. 入替えセクションで**追加**をクリックします。
3. **古いデータ: タイプ**(Ascii または XML)を選択し、入れ替えたい文字列や文字を入力します。
4. **新しいデータ: タイプ**(Ascii または XML)を選択し、旧データと入れ替える文字列や文字を入力します。
5. **OK** をクリックします。
6. **保存** をクリックします。コンフィギュレーションは保存されずに失われます。
7. 既存の入替え規則を変更するには、その規則をダブルクリックします。

• 規則の優先順位の調整

規則グループの優先順位を設定することができます。グループを選択して、上/下矢印ボタンをクリックし、優先順位レベルを移動させます。上に行くほど優先順位は高くなります。

XML POS デバイスの設定

XML は、XML フォーマットで送信される POD データでのみ作業を行うことができます。



POSデバイス設定

Device

名前

General

THERMAL_5V

TP_3688

AutoGas

OMRON

SOCA

追加

削除

デフォルト

Standard XML

ページ開 TicketStart

ページ終 TicketComplete

タグ

ルートタグ	チャイルドタグ
Header	Date
Header	Time
Header	RegisterID
Header	Shift
Header	CashierID
Header	JrnlTransNum
Header	JrnlID
TenderAmount	
TenderDesc	
TotalDetails	SubTotal
TotalDetails	SalesTaxesDue
TotalDetails	TotalTender
TotalDetails	TotalDue
TransactionDetail	Description
TransactionDetail	Price
TransactionDetail	Quantity
TransactionDetail	DepartmentCode

追加

削除

保存

キャンセル

終了

- ✓ **デバイス:** 新しいデバイスを選択または追加できます。ここでは、XML をサポートするデバイスのみがコンフィギュレーションされます。追加をクリックしてデバイスを追加します。デバイス名を入力し、タイプとして XML を選択します。初期設定デバイスを含めて、最大 50 個の POS デバイスを追加することができます。



デバイス名設定

名前

New Device

タイプ

☒ Standard ☐ XML

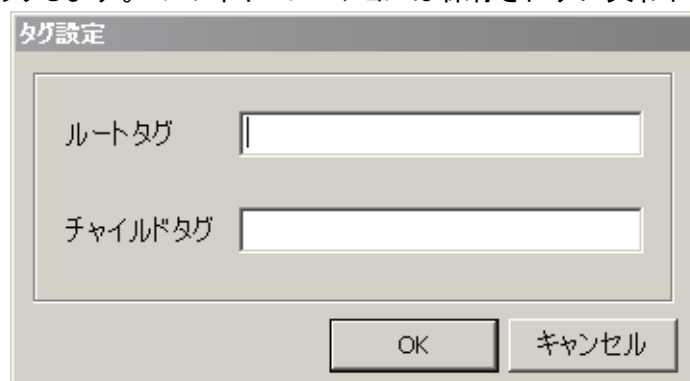
OK

キャンセル

ページの初め: トランザクション用データの初め

ページの終わり: トランザクション用データの終わり

タグ: DVR サーバーへのデータトランザクション範囲として、ルートタグとサブタグを選択します。追加をクリックしてタグを設定します。保存をクリックします。コンフィギュレーションは保存されずに失われます。



タグ設定

ルートタグ

チャイルドタグ

OK

キャンセル

詳細については次の例を参照してください。

<TicketStart> → **ページの初め**

<Header> → **ルートタグ**

<MessageVersion>1.0</MessageVersion>

<Date>20060317</Date>

<Time>164216</Time>

<RegisterID>3</RegisterID>

<Shift>4</Shift>

<CashierID>000000009</CashierID>

<JrnlTransNum>3</JrnlTransNum>

<JrnlID>0</JrnlID>

</Header>

</TicketStart>

<Item>

<SaleTotals>

<Item>

<SaleTotals>

<Item>

<SaleTotals>

<TenderEvent>

<TicketComplete> → **ページの終わり**

→ **サブタグ**

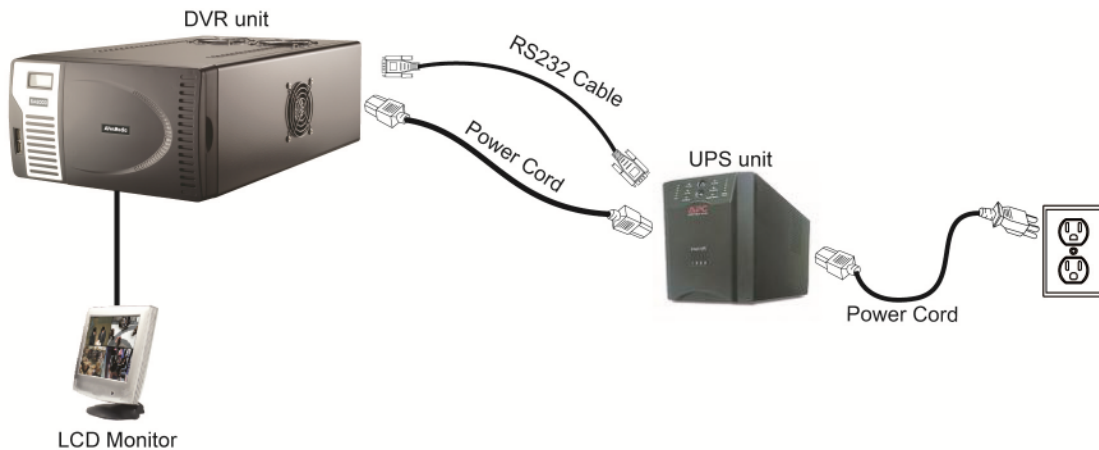
タグ	
ルートタグ	チャイルドタグ
Header	Date
Header	Time
Header	RegisterID
Header	Shift
Header	CashierID
Header	JrnlTransNum
Header	JrnlID
TenderAmount	
TenderDesc	
TotalDetails	SubTotal
TotalDetails	SalesTaxesDue
TotalDetails	TotalTender
TotalDetails	TotalDue
TransactionDetail	Description
TransactionDetail	Price
TransactionDetail	Quantity
TransactionDetail	DepartmentCode
TransactionDetail	POS Item

追加 削除

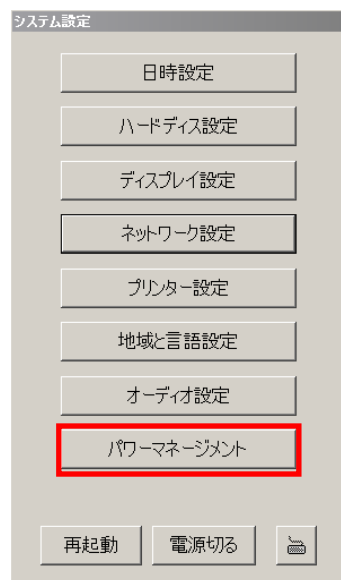
4.1.2 UPS の接続

DVR システムに UPS を接続するには、次の手順に従ってください。

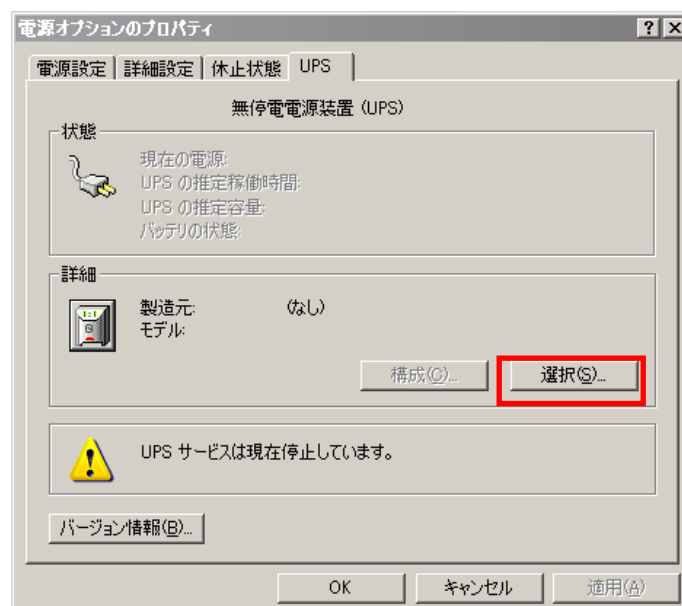
1. DVR システムと UPS を接続するには、下図を参照してください。



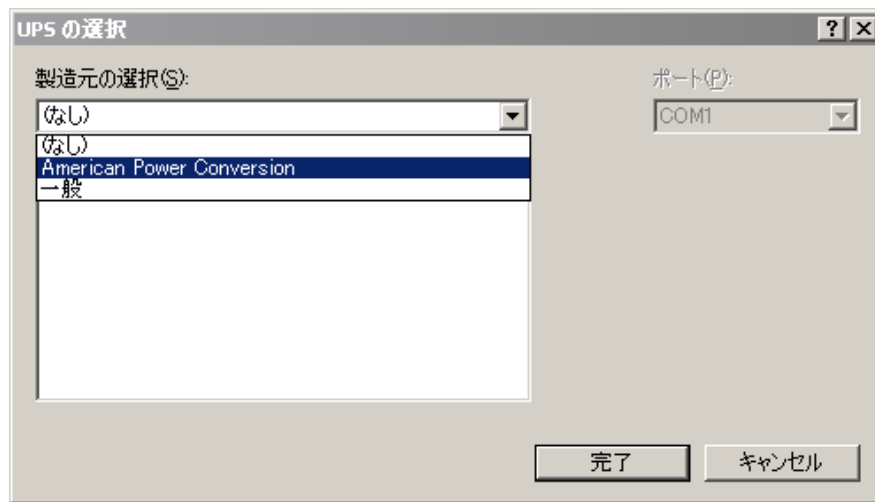
2. DVR ユニットと UPS に電源を入れます。
3. F8 を押して、コントロールメニューモードに切り替えます。



4. パワーマネージメントをクリックします。
5. 電源オプションプロパティダイアログで**選択...**をクリックします。



6. UPS ユニットのメーカーとモデルと COM ポートを選択し、**終了**をクリックします。



- i** COM ポート番号を確認するには、DVR アプリケーション → 設定 → システム → POS 詳細 → 追加 → ポート設定 → ローカル COM と進んでください。



7. 適用をクリックして UPS 設定が正しいことを確認します。
8. 次に OK をクリックして、UPS 設定を完了します。
9. UPS を起動させて、DVR アプリケーションがシャットダウンする容量パーセントレベルを設定する必要があります(DVR アプリケーションのシステム設定で、[\(12\) UPS \(無停電電源装置\)](#)も参照のこと)。

4.2 カメラの設定

カメラ設定ダイアログボックスで、OK をクリックすると新しい設定が保存され、キャンセルをクリックすると保存せずに終了し、初期設定 1/ 初期設定 2 をクリックすると元の工場設定に戻ります。



(1) カメラアイコン

ビデオ設定を調整したいカメラ番号を選択します。全部のカメラを選択するには、すべてチェックボックスにマークを入れます。2台以上のカメラを選択する場合、カメラアイコンを右クリックします。カメラを1台だけ選択する場合、カメラアイコンを左クリックします。選択されると、カメラアイコンが赤くなります。

(2) 有効

選択したカメラを起動または解除に設定します。カメラにビデオソースがない場合、システムがビデオ消失エラーを検出しないように、そのカメラを解除するようお勧めします。

(3) カメラ

- 表示

ビデオの表示を作動または解除します。選択されたカメラのビデオが隠されていても、それを録画して、再生モードでプレビューすることができます。

- 名前

カメラの名前を変更します。

- 説明

短いコメントを追加します。

(4) 画質調整

選択されたカメラの明るさ、コントラスト、彩度、色合いを調整します。

(5) ノイズリダクション

不要なビデオ信号部分を削除して、画質を向上させます。



ノイズリダクションでは、多くの CPU リソースを使用するので、本当に必要な場合にのみ使用してください。

(6) AGC 機能

明るさを自動的に調整します。

(7) ナイトビュー

特に撮影現場が暗いときに露出を自動的に調整して、画像が見やすくなるようにします。この機能は、明るさの自動調整が作動しているときにのみ、起動することができます。

(8) インターレース除去有効化

映像画質を向上します。

(9) 物体流量計算

画面上の2つの部分を選択すると、システムは、一方の部分ともう一方の部分との間で、物体の個数を数えます(第4.2.1章も参照)。

(10) 顔面検出

実況画面または録画済みビデオで人間の顔を捕獲するために設定します(第 4.2.2 章も参照)。

(11) ビデオ画面

選択されたカメラのビデオを表示します。

(12) 入力

使用中のビデオカメラのタイプを選択します。

- アナログカメラ

ビデオソースは、SA シリーズ DVR の BNC コネクタに接続されているカメラから直接送られてきます。

- リモート DVR

ビデオソースは、別の DVR サーバーから送られてきます。リモート DVR ダイアログボックスに、サーバーIP、ポート番号、ユーザーID、パスワードを入力し、カメラ番号を選択します。

サーバーIP やポート番号が不明な場合には、ネットワーク設定で DVR サーバーの IP アドレスを確認してください。

- IP カメラ

ビデオソースは、ネットワークカメラまたは IP カメラから送られてきます。IP カメラ設定ダイアログボックスで、プロトコルまたは URL を使用した接続を選択し、必要な情報を入力します。ユーザーID を必要とする場合には、**認証**チェックボックスにマークを入れ、ユーザーID とパスワードを入力します。

プロトコルまたは URL が不明な場合には、IP カメラの取扱説明書を参照するか、お近くの IP カメラの代理店にお尋ねください。

カメラ設定ダイアログボックスで、**OK** をクリックすると新しい設定が保存され、**キャンセル**をクリックすると保存せずに終了し、**初期設定 1 / 初期設定 2** をクリックすると元の工場設定に戻ります。

4.2.1 物体計数を設定する

1. **詳細**をクリックして、物体計数設定ウィンドウを開きます。



2. ディスプレイセクションで、**検出区域**を作動させます。すると、画面上に物体計数情報が表示されます。**移動物体**を作動させると、画面上に物体サイズフレームが表示されます。
3. **区域 1** をクリックして、マウスの左ボタンを押し、物体を数えたい区域をドラッグします。次に**区域 2** をクリックして、マウスの左ボタンを押し、物体を数えたい別の区域をドラッグします。これらの選択された区域は、異なる色でマーキングされます。システムはこれら 2 つの区域の間で移動する物体の数を数えます。
4. **物体サイズ**をクリックして、検出される物体の大きさを定義します。マウスの左ボタンを押し、画面上にドラッグします。画面上に物体サイズフレームを表示させるには、ディスプレイセクションで**移動物体**を起動してください。
5. 物体検出感度を調整します。
6. 設定をテストするには、テストしたい方向(入/出)にマークを付け、**開始**をクリックします。テストセクションにテスト結果が表示されます。
7. **OK** をクリックすると設定が保存され、**キャンセル**をクリックすると保存せずに終了します。

8. 物体計数情報は、画面の上部に表示されます。



4.2.2 フェースファインダーを設定する

セキュリティのために実況画面や録画済みビデオで人の顔の検出を設定します。詳細をクリックして、フェースファインダー設定ウィンドウを開きます。初期設定に戻すには、初期設定ボタンをクリックします。



- 顔の検出角度は、顔の正面から左右方向に 30～45°、上下方向に 25～30° です。
- 顔の検出結果が改善される位置に光が当たるように、カメラを取り付けてください。



- **オブジェクトインデックスにデータを保存:** これにマークを入れると、顔を検出して、顔オブジェクトログに顔の画像を保存することができます。フェースファインダーを起動するとこの機能が作動するように、初期設定されています。
- **詳細検出:** システムは、顔を識別するだけでなく、目の検出も行います。
- **検索区域:** 顔検出条件や顔検出区域を選択することができます。
 - **移動物体:** 顔が動いているときにのみ、システムが顔を検出して捕獲します。
 - **区域選択:** 顔を検出する区域を設定します。システムは選択された区域内に顔があるときのみ検出します。プレビュー画面で、マウスを使用して検索を行いたい区域をドラッグしてください。このとき、フェースファインダー設定ウィンドウに、青いフレームが表示されます。検出区域を複数選択することもできます。選択さ

れた区域を解除するには、マウスボタンを右クリックして、選択した区域をドラッグするとクリアされます。もしくは、**クリア**をクリックしてもクリアされます。

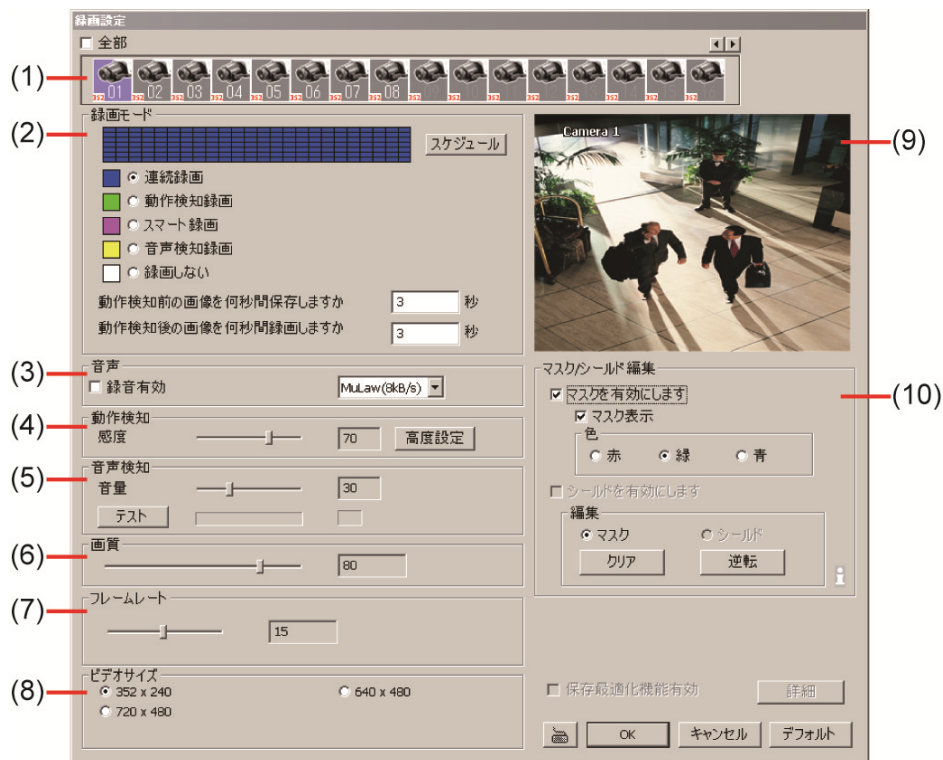
- **検出感度:** 顔検出の感度を設定します。感度を上昇させると、顔の差が簡単に検出されるようになります。
- **最小顔サイズレベル:** 顔の検出を最小サイズに設定します。システムは、最小顔サイズと同じか、それより大きい顔のみを検出します。このとき、フェイスファインダー設定ウィンドウに、緑のフレームが表示されます。
- **起動条件設定:** センサーやリレーデバイスなどの外部デバイスで顔検出を起動させるための条件を設定します。
 - **起動:** 起動条件設定にマークを入れると起動します。
 - **開始メッセージ:** 顔検出を起動するセンサーレベルを設定します。初期設定は高レベルです。
 - **停止メッセージ:** 顔検出条件をリセットするセンサーレベルを設定します。初期設定は低レベルです。
 - **デバイス起動:** リレーデバイスの起動レベルを設定します。顔検出条件が**起動ディレイ**の条件を満足すると、リレーが信号を発し、システムは顔オブジェクトログを送信します。このログは、顔オブジェクトログで見ることができます。
 - **起動ディレイ:** DVR システムにログを送信するためにリレーデバイスを起動する際の条件を設定します。ドロップダウンメニューから、時間(秒)と回数(顔が検出された回数)を選択します。
 - **…秒後にデバイス状態をリセット:** 起動したデバイスを通常状態にリセットするまでの時間を設定します。これは、起動条件がトリガーされたときのみ作動します。

設定後、**テストを開始**をクリックすると、コンフィギュレーション結果をテストすることができます。システムが顔を検出すると、画面上に赤いフレームが表示されます。テスト結果は、下図のように、顔ログリストウィンドウに表示されます。



4.3 録画の設定

録画ダイアログボックスで、OK をクリックすると新しい設定が保存され、キャンセルをクリックすると保存せずに終了し、初期設定をクリックすると元の工場設定に戻ります。



(1) カメラアイコン

録画設定を行いたいカメラ番号を選択します。全部のカメラを選択するには、すべてチェックボックスにマークを入れます。2 台以上のカメラを選択する場合、カメラアイコンを右クリックします。カメラを 1 台だけ選択する場合、カメラアイコンを左クリックします。選択されると、カメラアイコンが赤くなります。

(2) 録画モード

00 から 23 までのブロックは、24 時間時計の各時間を表しています。24 時間全部にわたって録画するには、録画モードを選択して、⓪ ボタンをクリックします。特定の時間だけを録画したい場合には、録画モードの横にある色の付いたブロックをクリックしてから、時間ブロックをクリックします。システムが録画を開始すると、画面の左上に赤い三角マークが表示されます。録画モードは以下の通りです。

- **常時録画**
選択されたカメラからビデオを常時録画して、指定の保存パスに保存します(第 4.1 章#1 も参照)。
- **動作検知録画**
システムが動きを検知したときにのみ、選択されたカメラからビデオの録画が開始されます。
- **スマート録画**
動きを検知すると、自動的に最大フレームレート設定に切り替わり、動きがないと、最小フレームレート設定で録画されます。(7) [フレームレート](#) セクションで、最大および最小フレームレートを設定してください。
- **音声検知録画**
DVR システムは、音声の大きさが音声検知設定の強度値を上回ると音声を録音します。
- **録画しない**
システムは録画を行いません。

(3) 音声起動

選択されたカメラの音声チャンネルを割り当てるよう選択します。1 台のカメラソースには一つの音声チャンネルしか割り当てられません。これで音声とビデオの両方が記録されます。



この機能には、音声 I/O カードが必要です。

(4) 動作検知

動作検知器の感度を調整します。この値が高いほど高い感度で検出されます。システムが動きを検出すると、画面の左上に緑の三角マークが表示されます。

(5) 音声検知

音声検出器の感度を調整します。音声検出設定の強度値を上回ると、システムは音声を録音します。

(6) 画質

ビデオの画質を調整します。この値が高いほど圧縮レベルが低くなり、ハードディスクの使用スペースが増加します。

(7) フレームレート

動きがある場合と動きがない場合の録画における、最大および最小フレームレートを設定します。フレームレートは、NTSC では 1 から 30 まで、PAL では 1 から 25 まで設定できます。フレームレートが多いほど、ハードディスクの使用量が増加します。

(8) ビデオサイズ

ビデオサイズを選択して⓪ボタンをクリックします。サイズが大きいほど、大きいファイルが作成されます。インターレース解除を作動させると画質が向上します。動きがない画面を捕獲する場合にはインターレース解除を作動モードを#1 に設定し、動きをたくさんある画面を捕獲する場合には、インターレース解除を作動モードを#2 に設定してください。

(9) ビデオ画面

選択されたカメラのビデオを表示します。

(10) マスク/シールド編集

マスク: これは動きを無視したいエリアにマークを付ける機能で、マークのないエリアでのみ監視が行われます。シールド: これは画面上のエリアをカバーする機能で、カバーされたエリアは画面上で見ることができなくなり、録画もされません(第 4.3.1 章と 4.3.2 章も参照)。

(11) 圧縮タイプ

高度 MPEG4 を使用すると、パスワードを知っている者だけが録画済みビデオを解読して鮮明な画面でビデオを見ることができます。このときファイルサイズは 10% ないし 30% 大きくなります。ビデオ暗号化チェックボックスにマークを入れると、パスワードを入力するようプロンプトが出て、確認のためにもう一度パスワードを入力するようにプロンプトが出ます。パスワードがないとビデオを解読できないので、パスワードを忘れないようにしてください。

暗号化ビデオの場合、画面の右上に🔒記号が表示されます。実況録画中でもビデオを見ることができます(第 4.3.3 章も参照)。

ビデオ暗号化

パスワード入力:

パスワード再確認:

☐ パスワード表示

警告: パスワードを紛失しないください。
パスワードなしでは映像の暗号化を解除
できません。

OK キャンセル



SA7000H は、暗号化機能をサポートしません。



4.3.1. 画面上のエリアをマスク/シールドする

1. マスク/シールド編集セクションでマスク/シールド編集チェックボックスにマークを入れます。
2. 編集セクションでマスクまたはシールドを選択して⊙ボタンをクリックします。
3. (9) ビデオ画面でフレームをクリックしてドラッグすると、マスクまたはシールドエリアが作成できます。

 SA7000H は、シールド機能をサポートしません。

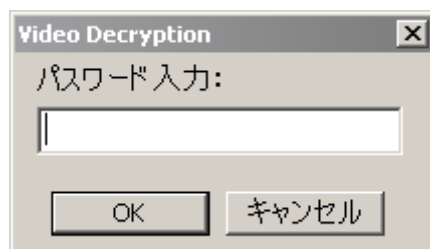
4.3.2. マスクを表示する色を変更する

1. マスクを表示するチェックボックスにマークを入れます。
2. カラーセクションで色を選択して⊙ボタンをクリックします。

4.3.3. 暗号化されたビデオを再生する

再生、ウェブビューアー、遠隔コンソールの各ビデオ画面で、記号をクリックして、正しいパスワードを記入すると、ビデオが解読されて再生されます。

録画済みビデオをもう一度暗号化するには、記号をクリックして、**間違っ**たパスワードを記入してください。



 権限のない者がビデオを見ることができないように、必ずもう一度暗号化してください。

4.4 ネットワーク設定

ネットワーク設定ダイアログボックスで、OK をクリックすると新しい設定が保存され、キャンセルをクリックすると保存せずに終了し、初期設定をクリックすると元の工場設定に戻ります。

The screenshot shows the 'ネットワーク設定' (Network Settings) dialog box. It is divided into several sections:

- (1) サーバー名**: A text field for the server name.
- (2) 送信カメラ**: A section with a '全部' (All) button and a grid of checkboxes for cameras 1 through 16.
- (3) 主要のコンフィギュレーション**: A section containing 'サーバのIP' (Server IP) set to 127.0.0.1 and '遠隔コンソールポート' (Remote Console Port) set to 5550.
- (4) DDNS**: A section for Dynamic DNS with fields for 'ドメイン名' (Domain Name), 'パスワード' (Password), 'DDNSサーバー名' (DDNS Server Name) set to ddns.avers.com.tw, and 'DDNSサーバーポート' (DDNS Server Port) set to 1053. There is also a 'テスト開始' (Start Test) button.
- (5) 遠隔管理サーバー**: A section with a checked '有効' (Enabled) checkbox and a 'ポート' (Port) field set to 5555.
- (6) ネットワークビデオコンフィギュレーション**: A section with sliders for '品質' (Quality) and 'フレームレート' (Frame Rate), both set to 3.
- (7) ウェブビューアーのコンフィギュレーション**: A section with a '匿名にログインします' (Login anonymously) checkbox, a 'ウェブビューアーポート' (Web Viewer Port) field set to 80, and a 'ウェブビューアーのデジタル署名更新' (Update digital signature of web viewer) button.
- (8) ボイスフォン**: A section with a checked 'ウェブクライアントと会話をします' (Talk with web client) checkbox and a 'ポート' (Port) field set to 9999.
- (9) ネットワーク時刻同期**: A section with a '時間サーバー' (Time Server) field, an '自動同期化' (Automatic synchronization) checkbox, and a '今すぐ時刻を同期します' (Synchronize time now) button.
- (10) その他のコンフィギュレーション**: A section with checkboxes for 'UPnP', 'オリジナルセキュリティプロトコル有効' (Original security protocol enabled), 'ホワイトリスト有効' (White list enabled), 'ハンディビューアー有効' (Handheld viewer enabled), and 'ネットワーク回線容量制限' (Network bandwidth limit). There are '詳細' (Details) buttons for the last three options.

At the bottom of the dialog are buttons for 'OK', 'キャンセル' (Cancel), and 'デフォルト' (Default).

(1) サーバー名

DVR ユニットに名前を割り当てます。英数字のみが使用できます。

(2) 送信するカメラ

送信するカメラセクションで、ウェブビューアー、遠隔コンソール、PDA ビューアー、ハンディビューアー（静止画像）を使用して、インターネットを介してアクセスさせたいカメラの番号を選択してクリックします。全部のカメラを選択するには、すべてチェックボックスにマークを入れます。

(3) サーバー IP

サーバーIPと遠隔コンソールポート番号を設定します。システムは自動的にサーバーIPアドレスを検出します。これは、遠隔地からインターネットを介して DVR サーバーにアクセスするときに必要です。

(4) ダイナミック DNS (ドメイン名解決システム)

ドメイン名とパスワードを入力します。この機能を使用するには、<http://ddns.avers.com.tw> にアクセスして登録する必要があります（付録 A も参照）。CD キー番号、製品名、パスワード、ユーザー情報を入力します。インターネットに接続するたびに IP アドレスが変更される場合に、このサービスを利用します。

(5) リモートコントロールサーバー

リモートアプリケーション（CM3000 など）からリモートコントロールを作動または解除します。ポートカラムにリモートアクセスポートを入力します。初期設定値は 5555 です。



この機能を手動で実行することもできます。実行するには、**スタート > プログラム > DSS > ツール > リモートコントロールサーバー**とクリックしてください。リモートコントロールサーバーが使用可能になると、タスクバーにリモートコントロールサーバーアイコン が表示されます（第 11 章も参照）。

(6) ネットワークビデオコンフィギュレーション

リモートプログラムに送信したり、ビデオを見る際の、ビデオ画質とフレームレートを設定します。調整バーをスクロールして、画質レベルとフレームレートレベルを設定します。

(7) ウェブビューアーポート

パスワードなしで DVR サーバーにリモートアクセスするには匿名ログイン作動を起動させます。また、クライアントとサーバーとの間でマイクロホンを使ってインターネットを介して会話できる双方向トーク機能を使用するには、ウェブクライアントトークを起動させます。この機能を起動する前に、マイクロホンとスピーカーが作動することを確認して

ください。ウェブクライアントトークを解除すると、ウェブビューアー双方向トークボタンを押したときに、DVR サーバー側にいる人のみがクライアント側の人の声を聞くことしかできません(第 7.1 章 #6 も参照)。

- i** ウェブビューアーデジタル署名を必ず毎年更新してください。さもないと、DVR ウェブビューアーから DVR サーバーにアクセスできなくなります。ウェブビューアーデジタル署名を更新またはダウンロードするには、ウェブビューアーデジタル署名の更新をクリックしてください。コンピューターがインターネットに接続されていることを確認してください。

(8) 音声電話

ウェブクライアントトークは、クライアントとサーバーとの間でマイクロホンを使ってインターネットを介して会話できる双方向トーク機能です。この機能を起動する前に、マイクロホンとスピーカーが作動することを確認してください。ウェブクライアントトークを解除すると、ウェブビューアー双方向トークボタンを押したときに、DVR サーバー側にいる人のみがクライアント側の人の声を聞くことしかできません(第 7.1 章 #6 も参照)。

- i** ウェブビューアーデジタル署名を必ず毎年更新してください。さもないと、DVR ウェブビューアーから DVR サーバーにアクセスできなくなります。ウェブビューアーデジタル署名を更新またはダウンロードするには、ウェブビューアーデジタル署名の更新をクリックしてください。コンピューターがインターネットに接続されていることを確認してください。

(9) ネットワーク時間同期化

DVR システム時間をネットワーク時間サーバーと同じになるように調整します。時間サーバーの IP アドレスかドメイン名を記入してください。自動同期化を選択すると、毎日、自動時間同期化が設定されます。もしくは、今すぐ時間を同期化をクリックすると、直ちに時間が調整されます。

(10) その他のコンフィギュレーション

- UPnP

UPnP 機能を起動すると、ローカルネットワークのポート設定が自動的にコンフィギュレーションされます。この機能は、同じネットワークに UPnP デバイスがあるときに利用できます。これは、ルーターまたはその他のネットワークデバイスに、DVR ポート情報を書き込みます (付録 G を参照)。

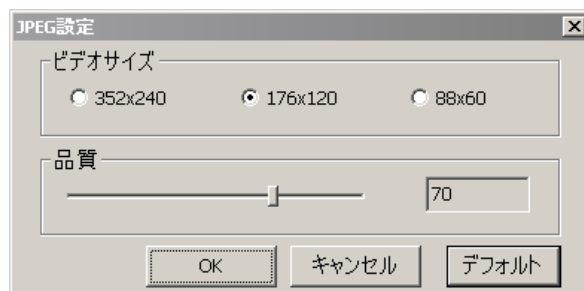
- ホワイトリストの起動

DVR サーバーがリモートアクセスできるためのアクセス許可リストです。IP アドレスを入力して追加をクリックします。もしくは、IP アドレスの範囲を入力して追加をクリックします。リストから IP を削除するには、IP を選択して削除ボタンをクリックします。入力をリセットするには、クリアボタンをクリックします。



- ハンディビューの起動

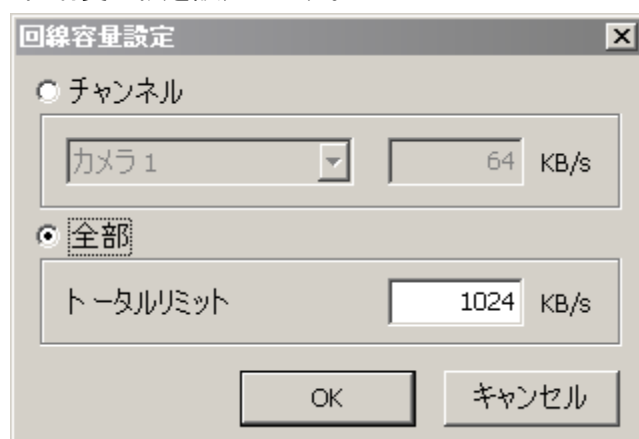
リモートユーザーが PDA または携帯電話を使って VDR サーバーにアクセスしたり、ビデオサイズや画質を選択できるようにする機能です(第 7.5 章 および 7.6 章も参照)。



- ネットワークバンド幅の上限

チャンネルごと: チャンネルごとにネットワークバンド幅を設定します。

すべて: ネットワークバンド幅の総消費上限を設定します。



The image shows a dialog box titled "回線容量設定" (Line Capacity Setting) with a close button (X) in the top right corner. It contains two radio button options: "チャンネル" (Channel) and "全部" (All). The "全部" option is selected. Under the "チャンネル" option, there is a dropdown menu showing "カメラ 1" and a text box showing "64 KB/s". Under the "全部" option, there is a text box labeled "トータルリミット" (Total Limit) showing "1024 KB/s". At the bottom, there are two buttons: "OK" and "キャンセル" (Cancel).

設定項目	設定値
チャンネル	カメラ 1
チャンネル	64 KB/s
全部 (選択済み)	トータルリミット: 1024 KB/s

4.5 スケジュールの設定

全部のカメラについて、1 週間単位または単発的に、録画やバックアップやネットワークの起動や再起動やアラームの解除のスケジュールを立てることができます。00 から 23 までの数字は、24 時間時計の各時間を表しています。一番左のカラムには、1 週間分の日が表示されます。

スケジュール設定

2008年8月 2008年9月 2008年10月

録画

☒ 週間スケジュール ☐ 一回有効

	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
08/17 日曜日																								
08/18 月曜日																								
08/19 火曜日																								
08/20 水曜日																								
08/21 木曜日																								
08/22 金曜日																								
08/23 土曜日																								

保存 クリア 全部 OK キャンセル

スケジュールの設定方法

1. カレンダーで日付を選択します。◀ と ▶ のボタンで、カレンダーを左右に移動させることができます。
2. ドロップダウンリストから、スケジュールに組み込みたい条件を選択します。
 - **録画**
録画設定に基づいて、全カメラで、設定時刻にビデオ録画を開始させます (第 4.3 章も参照)。
 - **バックアップ**
設定時刻に、指定のバックアップパスに全データの別コピーを保存します。DVR は、まだアーカイブに含まれていないデータのみを自動的に更新してバックアップします。バックアップパスを割り当てるには、 をクリックします。



バックアップフォルダと保存フォルダが同じドライブ内がないことを確認してください。

- **ネットワークの起動**
設定時刻に、DVR リモートシステムがアクセスできるように起動します。指定時刻以降は、ネットワーク機能は解除されます。ネットワーク機能が既に起動されている場合、指定時間が終了しても、ネットワーク機能は解除されません。
- **再起動**
指定時刻にコンピューターを再起動します。



ウィンドウズ OS を再起動する際にユーザー名やパスワードを入力する必要がないように設定してください。こうすれば、システムは、SA シリーズや SA6000E Pro DVR プログラムを実行することができます。

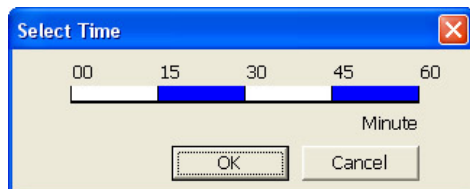
- **アラームの解除**
設定時刻に、アラームを一時的に解除させます。
- **起動するリレーの番号**
設定時刻にリレーを起動させます。リレーが接続されていない場合、「起動するリレーの番号」機能はドロップダウンリストに表示されません。リレー番号は、何個のリレーが接続されているかによって異なります。

3. 1 週間単位か単発的かを指定します。◎ ボタンをクリックして選択を行います。

4. ブロックをクリックしてスケジュールを設定します(第 4.5.1 章も参照)。もしくはすべてをクリックして全ブロックを選択します。設定を保存するには、保存をクリックします。設定を解除するにはクリアをクリックします。
5. スケジュールの設定を終了するには、OK をクリックすると設定が保存され、終了します。キャンセルをクリックすると、設定を保存しないで終了します。

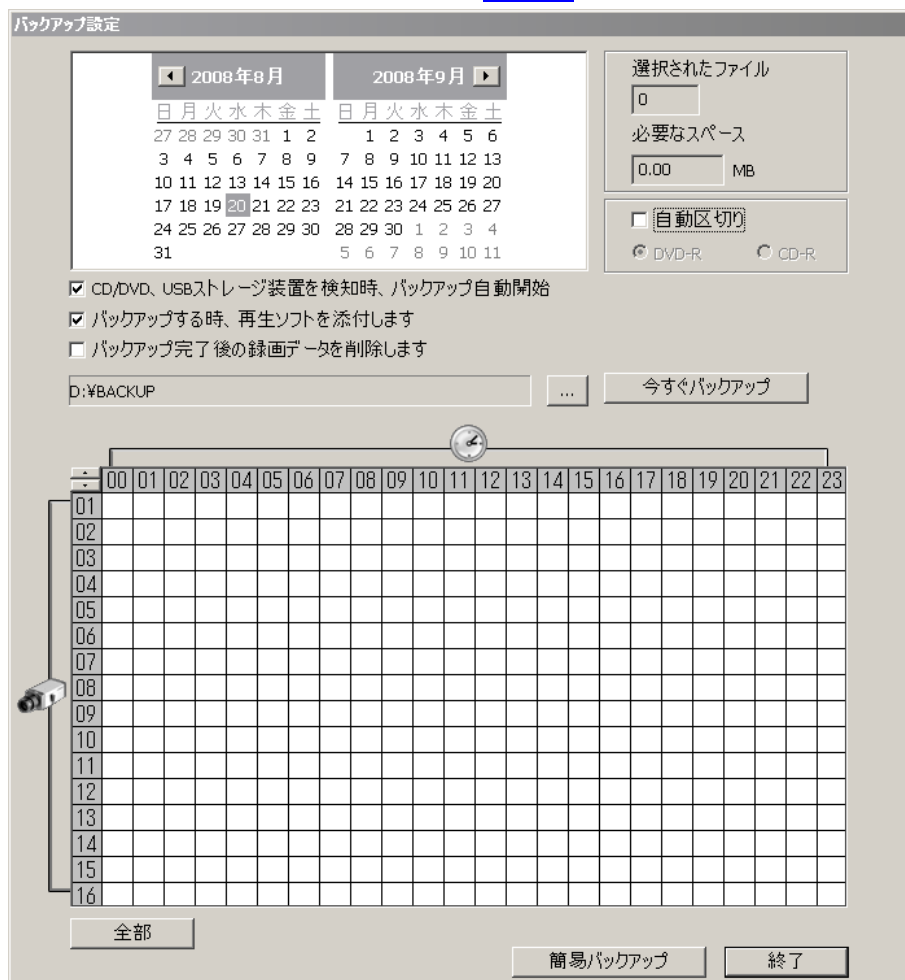
4.5.1. 1 時間内の一部分でスケジュールを設定する

1. 色の付いたブロックを右クリックします。
2. 時間選択ダイアログボックスでクリックして、設定したい部分を起動または解除します。
3. OK をクリックすると新しい設定が保存され、キャンセルをクリックすると保存せずに終了します。



4.6 バックアップの設定

バックアップ設定ダイアログボックスで、00 から 23 までの数字は、24 時間時計の各時間を表しています。01 から 16 までの数字は、カメラ番号を表しています。ファイルをバックアップする際には、バックアップフォルダに QLogViewer や Player アプリケーションが含まれていることがあります(第 5 章も参照)。



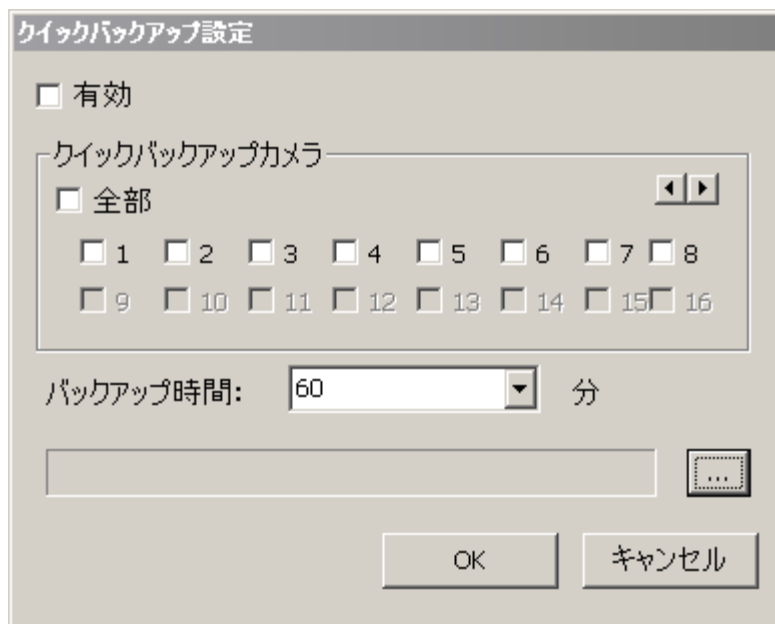
4.6.1. ファイルをバックアップする

1. カレンダーでバックアップしたい録画ファイルの日付を選択します。◀と▶のボタンで、カレンダーを左右に移動させることができます。
2. 下の表で、青いブロックをクリックして録画ファイルを選択します。選択すると青いブロックが赤くなります。白いブロックはデータがないことを示しています。特定の時刻を設定したい場合、選択されたブロックを右クリックし、開始時刻と終了時刻を入力します。
3. カレンダー横の情報を確認します。
選択されたファイル : 選択されたファイルの数を示す。
必要なスペース : 選択されたファイルのサイズ合計を示す。
4. 自動分割を起動して、ファイルのサイズを DVD-R または CD-R のどちらに収めたいか、選択します。DVR は、DVD-R または CD-R に焼くことができるように、自動的に分割します。
5. 保存フォルダに録画ファイルを保存したくない場合には、バックアップ後にファイルを削除するチェックボックスにマークを入れます。
6. [...] をクリックして、バックアップファイルを保存するパスを設定します。
7. [Backup Now] をクリックすると、選択されたファイルのバックアップが開始されます。
8. バックアップを中止したい場合、「処理中…」ダイアログボックスの中止を押します。バックアップが完了すると、バックアップパスリストに、バックアップされたファイルが列記されます。ファイルを CD に焼くには、コンピューターに NERO 6 またはそれ以降のバージョンがインストールされている必要があり、リストからファイルを選択して焼くをクリックします。後で焼く場合には、終了をクリックして手順を中止してください。
9. CD/DVD バックアップで、焼いた後に削除するチェックボックスにマークを入れると、焼いた後にバックアップファイルが削除されます。焼くをクリックすると焼く手順が開始され、終了をクリックするとこの手順が中止されます。

4.6.2. クイックバックアップの設定

すばやくバックアップするには、 を押して、クイックバックアップ規則を設定してください。

1. クイックバックアップをクリックします。
2. クイックバックアップ設定で起動にマークを付けます。
3. 次に、バックアップしたいチャンネルを選択します。
4. **バックアップするまでの時間:** バックアップするまでの時間を分で設定します。たとえば、「60 分前まで」とは、今から 60 分前までさかのぼって録画ファイルをバックアップすることを意味します。現在の時刻が 13:00 であった場合、クイックバックアップボタンを押すと、システムは、12:00 からの分のバックアップを開始します。



4.7 センサーの設定

この機能を使用するには、I/O デバイスをインストールしている必要があります。

1. ドロップダウンリストをクリックして、センサーの ID 番号を選択します。
2. センサー名を入力します。
3. I/O デバイスが利用可能な場合、**外部 IO** をクリックして、外部 I/O デバイスをコンフィギュレーションします。
([第 4.7.1 章](#)も参照)。
4. システムは自動的にセンサーを検出し、関連情報を入力します。内容セクションに、センサーの説明を入力してください。
5. テストセクションで、**テスト**をクリックして、センサーの状態を確認します。赤は高で、緑は低です。
6. **OK** をクリックすると新しい設定が保存されて終了し、**キャンセル**をクリックすると保存せずに終了します。

センサー設定

センサーID: センサー01

名前:

外部IO

内容

カード番号:

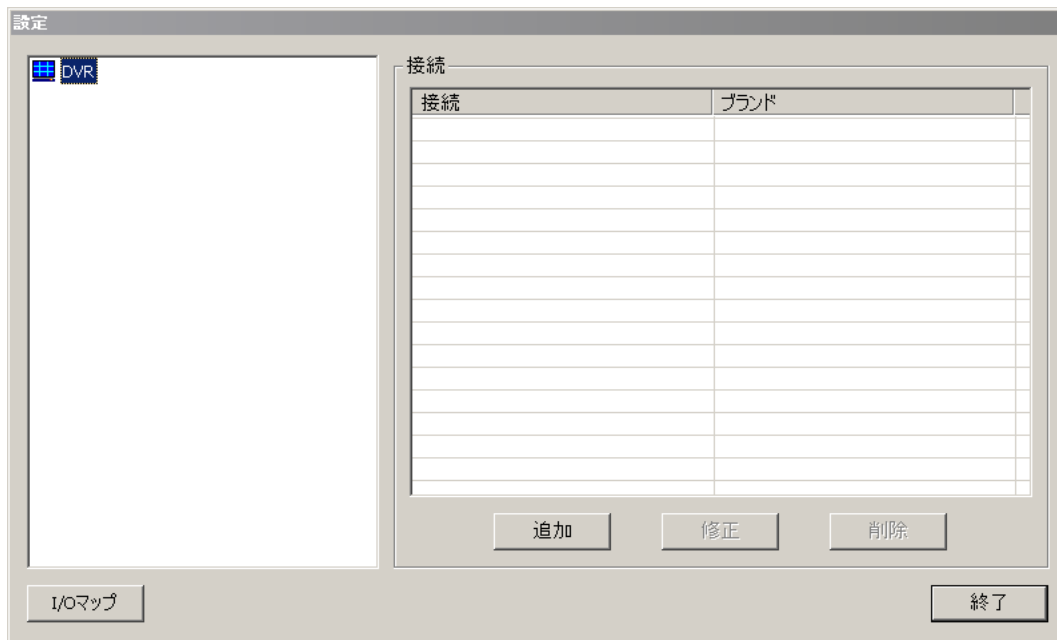
入力番号:

説明:

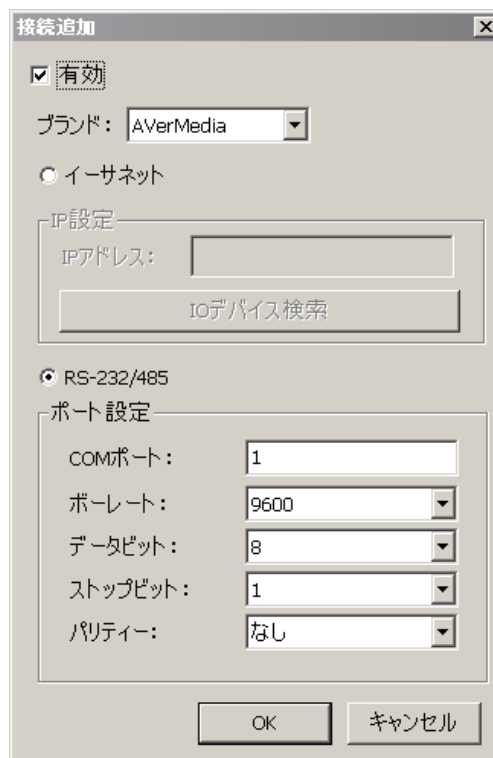
テスト

4.7.1. 外部 I/O ボックスを設定する

DVR システムには I/O デバイスの接続数を増やすために外部 I/O ボックスを接続することができます。



1. **追加**をクリックします。
2. **有効**ボックスにマークを入れ、この外部 I/O ボックスを起動させます。
3. ドロップダウンリストから外部 I/O ボックスの銘柄を選択します。
4. **ポート設定**では、I/O ボックスのモデルが異なると、ポートパラメーターも異なります。ポート設定の情報については、外部 I/O ボックスの取扱説明書を参照してください。外部 I/O ボックスを使用する際には初期設定値を使用してください。
5. **OK** をクリックして設定を保存します。
6. 2 台以上の外部 I/O ボックスを追加する場合には、**追加**をクリックして、上記ステップ 2～4 を繰り返します。



7. 外部 I/O ボックス設定ダイアログボックスには、追加された外部 I/O ボックスがすべて表示されます。追加された外部 I/O ボックスをクリックして、**追加**をクリックすると、接続されているリレーやセンサーがスキャンされます。
8. **モジュール追加** ウィンドウで、**スキャン**をクリックすると、外部 I/O ボックスに接続されているリレーやセンサーがスキャンされます。

4.8 リレーの設定

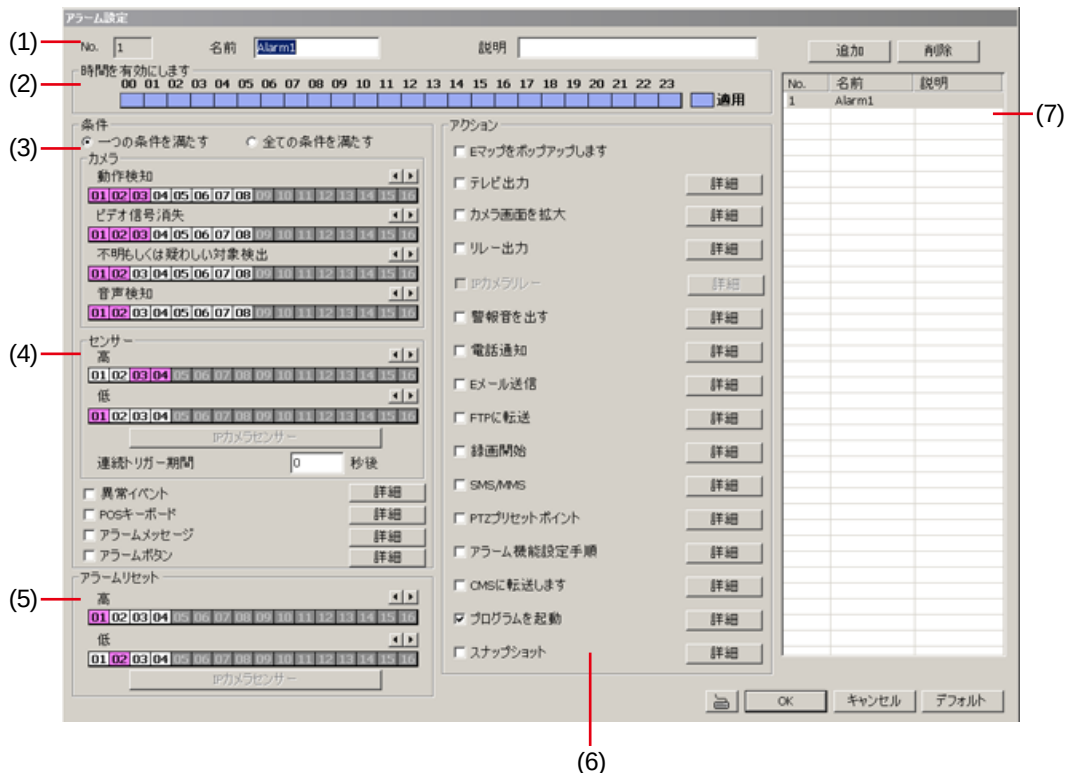
この機能を使用するには、I/O デバイスをインストールしている必要があります。

1. ドロップダウンリストをクリックして、リレーの ID 番号を選択します。
2. **有効**にマークを付け、選択したリレーを起動します。
3. 外部 I/O デバイスが利用できる場合には、**外部 I/O** をクリックして、外部 I/O をコンフィギュレーションします ([第 4.7.1 章](#)も参照)。外部 I/O が設定されると、ドロップダウンリストに表示され、選択することができます。
4. システムは自動的にカードと入力番号を検出します。内容セクションに、リレーの説明を入力してください。
5. テストセクションで、**テスト**をクリックして、リレーを起動させます。赤は高で、緑は低です。
1. OK をクリックすると新しい設定が保存されて終了し、**キャンセル**をクリックすると保存せずに終了します。

The image shows a 'Relay Configuration' (リレー設定) dialog box. At the top, there is a dropdown menu showing 'Relay-01' (リレー-01). Below this is a text field for 'Name' (名前). A group box contains a checkbox for 'Valid' (有効), a 'Apply to All' (全て適用) button, and an 'External I/O' (外部I/O) button. The 'Content' (内容) section has input fields for 'Card Number' (カード番号) and 'Input Number' (入力番号), both set to '1', and a larger text area for 'Description' (説明). The 'Test' (テスト) section features a small square indicator and a 'Test' button. The 'Continuous Operation' (持続作動) section includes a checkbox for 'Continuous Operation Valid' (持続作動有効), and input fields for 'Interval Time' (間隔時間) and 'Reset Time' (復元時間), both followed by 'seconds' (秒). At the bottom are buttons for a help icon, 'OK', and 'Cancel'.

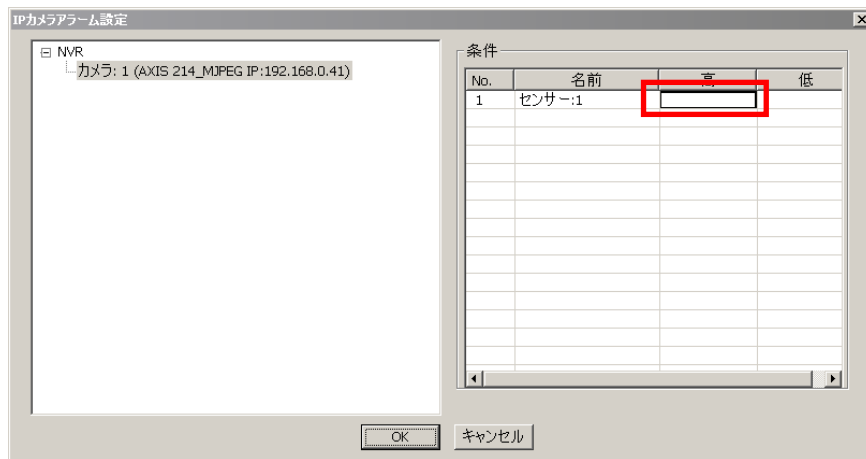
4.9 アラームの設定

アラームの設定ダイアログボックスでは、**追加**をクリックすると新しいアラーム設定が挿入されて設定され、**削除**をクリックすると選択したアラーム設定が削除され、**OK** をクリックすると設定が保存されて終了し、**キャンセル**をクリックすると選択したアラーム設定を保存せずに終了し、**初期設定**をクリックすると元の工場設定に戻ります。

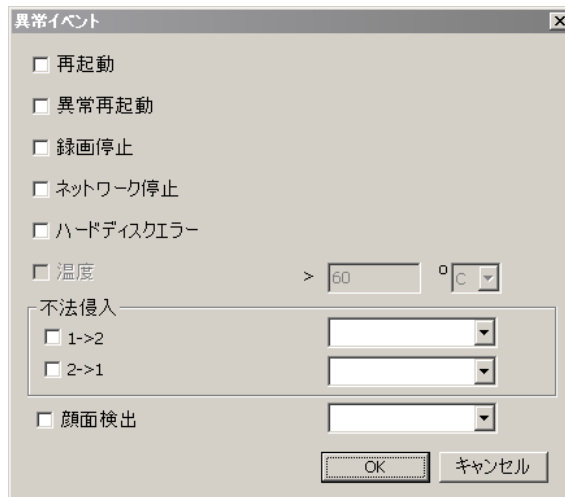


アラームの設定法

1. **追加**をクリックして、新しいアラーム設定を挿入して設定します。このアラーム設定を変更したい場合には (7) **アラーム設定リスト**で項目をクリックしてください。
2. (1) **アラーム設定番号/名称/説明**では、下のリストに、選択されたアラームの設定番号の項目が表示されます。アラームの名称と説明を記入してください。
3. (2) **起動時刻**では、00 から 23 までの数字は、24 時間時計の各時間を表しています。時刻を選択して、アラーム機能を起動または解除したいブロックをクリックしてください。解除されると、ブロックの色が白になります。
4. (3) **条件**では、「**いずれかが満足されたら起動**」を設定すると、条件のいずれかが満足されたときにアラームを起動させることができ、「**すべてが満足されたら起動**」を設定すると、条件がすべて満足されたときにアラームを起動させることができます。
 - カメラセクションでは、**動作検知**や**ビデオ消失**でカメラ番号(01 から 16)を選択してクリックすると、システムがアラームを起動する条件を設定することができます。
 - 「**物体が消失する、または疑わしい物体が検出される**」でカメラ番号(01 から 16)を選択してクリックして画面上の特定の物体を選択(詳細設定でカメラ番号を右クリックする)しておく、その特定の物体が消失したり疑わしい物体である場合、システムがアラームを起動させます(第 4.9.12 章も参照)。
 - **シーンの変更**で、カメラ番号(01 から 16)を選択してクリックしておく、そのカメラが動いたときにシステムがアラームを起動させます。
5. (4) **センサー**では、センサー番号(01 から 16)を選択してクリックして、システムがアラームを起動する条件を設定します。センサーの通常の状態が高である場合、センサー状態を低にしておいてください(第 4.7 章ステップ 4 を参照)。
IP カメラセンサーをクリックして、IP カメラの状態をコンフィギュレーションします。**高/低**をクリックして、センサー状態を高または低に設定します。



- 異常イベントチェックボックスを起動または解除して、システムがアラームを起動する条件を設定します。



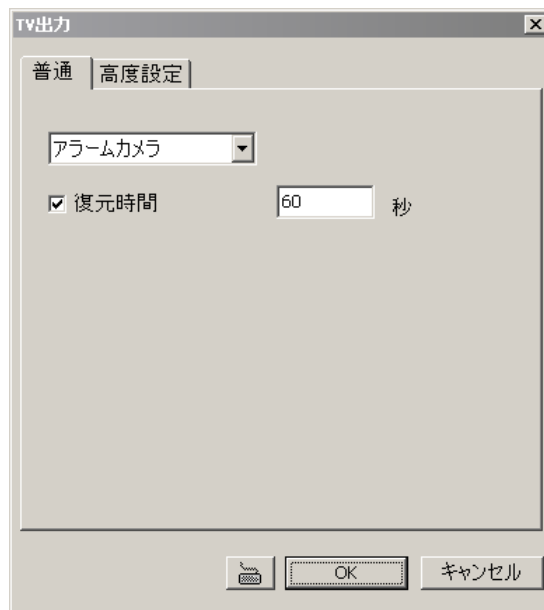
- **通常の再起動:** 異常な条件なしで DVR システムが再起動すると、システムが警告メッセージを送信します。
- **異常な再起動:** 異常な条件下で DVR システムが再起動すると、システムが警告メッセージを送信します。
- **録画スイッチが切れる:** 録画が停止した場合に、システムは警告メッセージを送信します。
- **ネットワークのスイッチが切れる:** DVR システムのネットワーク接続が消失した場合に、システムが警告メッセージを送信します。
- **ハードディスクの不具合:** ハードディスクが正常に作動しない場合に、システムが警告メッセージを送信します。
- **温度:** システムが警告メッセージを送信する温度の上限を設定します。DVR システムの温度が上限を上回ると、システムが警告メッセージを送信します。

i 温度設定は、SA6000E シリーズと SA6000E Pro のみがサポートされます。

- **不法侵入:** 物体計数セクション([第 4.2.1 章](#)を参照)で設定された選択区域の間で物体が移動した場合、システムが警告メッセージを送信します。入力値 (物体が区域 1 から区域 2 へ移動したか、または、区域 2 から区域 1 へ移動したか) と、システムアラーム検出用カメラを選択してください。

i 不法侵入で選択する場合には、物体計数で設定されたカメラのみが利用可能です。

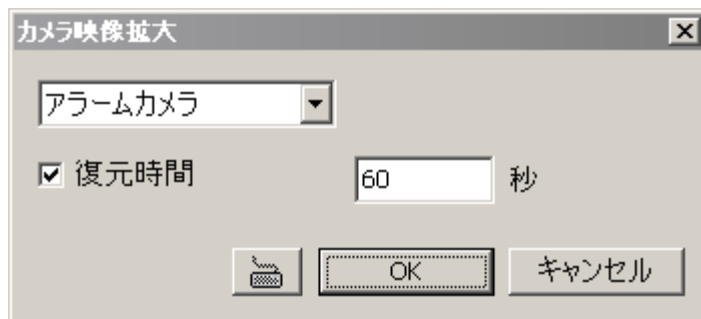
- POS キーワードチェックボックスにマークを入れると、POS からのデータがキーワードとマッチするか否かがスキャンされます([第 4.9.11 章](#)も参照)。
- アラームメッセージチェックボックスにマークを入れると、ユーザー自身のプログラムで外部アラームメッセージを起動させることができます。コンフィギュレーションの詳細については、最寄りの販売店にお問い合わせください。
- アラームボタンチェックボックスにマークを入れると、手動アラーム機能を起動させることができます。手動アラーム機能のアラームメッセージを設定するには、アラームボタンをクリックしてアラームボタン番号を選択し、アラームボタンの説明を記入してください。アラームボタンを設定すると、DVR アプリケーションユーザー情報にアラームボタンアイコンが表示されます。アラームボタンアイコンをクリックすると、予め定義されたアラームが起動します。



- カメラビューの拡大

アラームが起動した時点以降でプレビュー/詳細モードのビデオのみを表示するように、切り替えることができます。

- a. アラームが起動したときに画面でビデオを拡大させたいカメラを、ドロップダウンリストから選択します。
 - ◎ **アラームカメラ:** あるチャンネルでアラームが発せられると、アラームを発したチャンネルのビデオが拡大されます。
 - ◎ **カメラ番号(1~32):** アラームが発せられたときにビデオを拡大したいカメラチャンネルビデオを選択します。
- b. **復元時間:** システムが元のプレビューモードに切り替わるまでの待ち時間を設定します。取得時間にマークが付いていない場合、手動でプレビューモードに切り替わるまで、アラームビデオは拡大され続けます。取得時間は、3 秒～600 秒の範囲で設定できます。



- リレー出力

アラームが起動したときにリレー動作を起動または解除し、リレー動作が停止するまでの追加時間(秒)を延長するように設定します([第 4.9.1 章](#)も参照)。

- 警告音の作動

警告音を発します。設定するには、[詳細](#)をクリックしてください([第 4.9.2 章](#)も参照)。

- 電話をかける

リスト中の番号に電話をかけます。設定するには、[詳細](#)をクリックしてください([第 4.9.3 章](#)も参照)。この機能を使用するには、コンピューターに音声モデムが接続されている必要があります。サポートされる音声システムは、8KHz、16Bit モノラルだけです。

- Eメールを送る

電子テキストメッセージを送信します。設定するには、[詳細](#)をクリックしてください([第 4.9.4 章](#)も参照)。

- FTP を介したファイルの送信

FTP(ファイル転送プロトコル)を介してリモートコンピューターにファイルをアップロードします。設定するには、[詳細](#)をクリックしてください([第 4.9.5 章](#)も参照)。

- 録画の開始

選択されたカメラからビデオを録画します。設定するには、[詳細](#)をクリックしてください([第 4.9.6 章](#)も参照)。

- SMS (ショートメッセージサービス)/MMS (マルチメディアメッセージサービス)

SMS は、携帯電話にテキストメッセージのみを送信します。MMS は、ワイヤレスアプリケーションプロトコル(WAP) を使用して、ワイヤレスネットワーク上にテキストメッセージと画像を送信します。使用している携帯電話がこれらの機能をサポートしていて、コンピューターが GSM/GPRS モデムに接続されていることを確認してください。設定するには、[詳細をクリックしてください\(第 4.9.7 章も参照\)](#)。

- **PTZ プリセットポイント**

プリセットポイント設定に基づいて、PTZ カメラを配置します。設定するには、[詳細をクリックしてください\(第 4.9.8 章も参照\)](#)。

- **アラーム SOP(標準操作手順)**

アラームが起動した際の手順に関する指示を列記します。設定するには、[詳細をクリックしてください\(第 4.9.9 章も参照\)](#)。

- **CMS(中央管理システム)へ送信**

アラームが起動した際に、選択されたカメラに、CMS にビデオを送信させるよう、起動または解除させます([第 4.9.10 章も参照](#))。

- **プログラムの起動**

第 3 者によって供給される外部プログラムを呼び出します。[詳細をクリックし、...](#)をクリックして、プログラムパスを見つけます。複数回チェックボックスにマークを入れると、プログラムを同時に何回でも起動させることができます。

- **スナップショット**

アラームが起動したときにスナップショットを撮影します。

- カメラを選択:** アラームが起動したときにどのチャンネルのビデオでスナップショットを撮影するか設定します。
 - ◎ **アラームカメラ:** あるチャンネルでアラームが発せられると、DVR システムは、そのチャンネルのビデオのスナップショットを撮影します。
 - ◎ **カメラ番号(1~32):** アラームが発せられたときに、選択されたカメラでスナップショットが撮影されます。
- ビデオサイズ:** スナップショット写真のサイズを選択します。
- 写真の枚数:** 撮影する枚数を設定します。
- スナップショットの間隔:** 次のスナップショットを撮影するまでの時間間隔を設定します。
- 保存パス:** スナップショット写真の保存パスを設定します。

スナップショット

カメラ選択: アラームカメラ

ビデオサイズ: 352x240

画像ナンバー: 1

スナップショット間隔(秒): 30

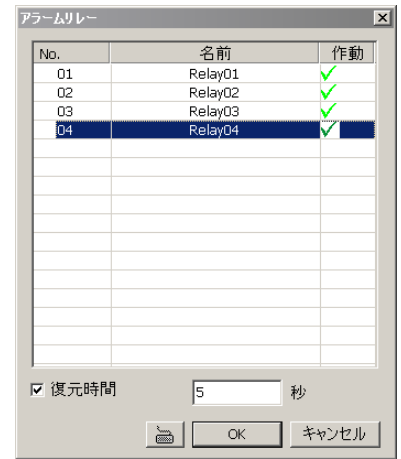
保存先: [空欄]...

☒ 次以降の映像削除 100 MB

OK キャンセル

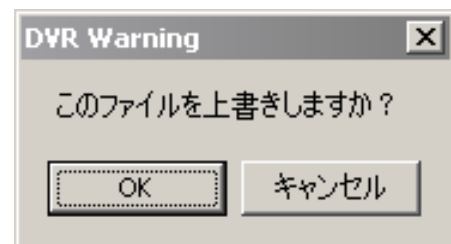
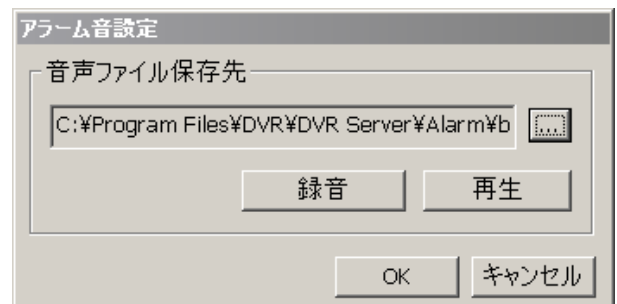
4.9.1 アラームリレーを設定する

1. リレー出力ボックスチェックボックスの横にある、**詳細**をクリックします。
2. アラームリレーダイアログボックスで、利用可能なリレーのリストと ON カラムで選択を行い、アラーム起動時のリレー作動を起動または解除します。
3. 取得時間チェックボックスでリレー作動時間延長を起動または解除できます。時間を秒で設定します。
4. **OK** をクリックすると設定が保存されて終了し、**キャンセル**をクリックすると設定が保存せずに終了します。



4.9.2 アラーム音を設定する

1. 警告音再生チェックボックスの横にある**詳細**をクリックします。
2. アラーム音設定ダイアログボックスでは、**...**をクリックすると、他のソースかフォルダから別の wav ファイルを選択することができます。**再生**で音を聞くことができ、**録音**でその音の新しいコピーを作成することができます。
3. **録音**をクリックすると、ファイルを入れ替えるかどうかを聞いてきます。継続するには **OK** をクリックし、終了するには**キャンセル**をクリックします。



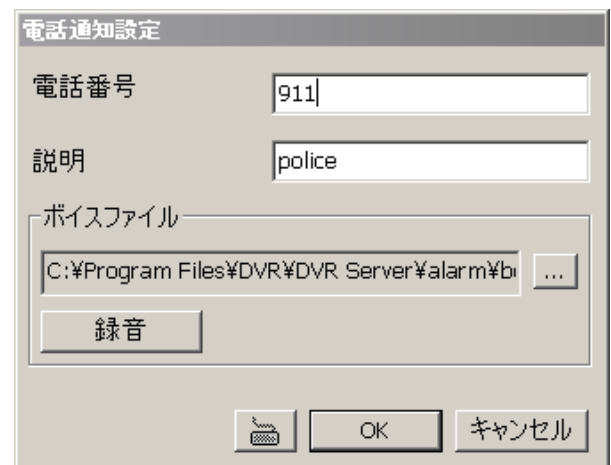
4. サウンドレコーダが表示されたら、録音コントロールパネルで録音、停止、再生、巻き戻し、早送りができます。既存のファイルを保存するには、**ファイル>名前を付けて保存**をクリックし、ファイル名を記入して**保存**をクリックします。コンピューターにマイクロホンが接続されていることを確認してください。



5. **OK** をクリックすると設定が保存されて作業が終了し、**キャンセル**をクリックすると設定が保存せずに終了します。

4.9.3 呼び出しリストを設定する

1. 「電話をかける」チェックボックスの横にある**詳細**をクリックします。
2. 呼び出しリストで、**追加**をクリックすると新しい連絡先番号が追加され、**変更**で選択された項目を編集し、**削除**で選択された項目が削除され、**テスト**で連絡先番号が作動状態であるか確認できます。
3. 呼び出し設定で、電話番号と説明を入力します。
をクリックして、既存のサウンド録音メッセージャーを選択するか、**録音**をクリックして新しいボイスメッセージを録音します。
4. サウンドレコーダが表示されたら、録音コントロールパネルで録音、停止、再生、巻き戻し、早送りができます。既存のファイルを保存するには、**ファイル > 名前を付けて保存**をクリックし、ファイル名を記入して**保存**をクリックします。コンピューターにマイクロホンが接続されていることを確認してください。
サポートされる音声システムは、8KHz、16Bit モノラルだけです。
5. **OK** をクリックすると設定が保存されて作業が終了し、**キャンセル**をクリックすると設定が保存せずに終了します。



4.9.4 E メールを設定する

E メール送信チェックボックスの横にある**詳細**をクリックします。E メール設定ダイアログボックスで、**OK** をクリックすると設定が保存されて作業が終了し、**キャンセル**をクリックすると設定が保存せずに終了します。

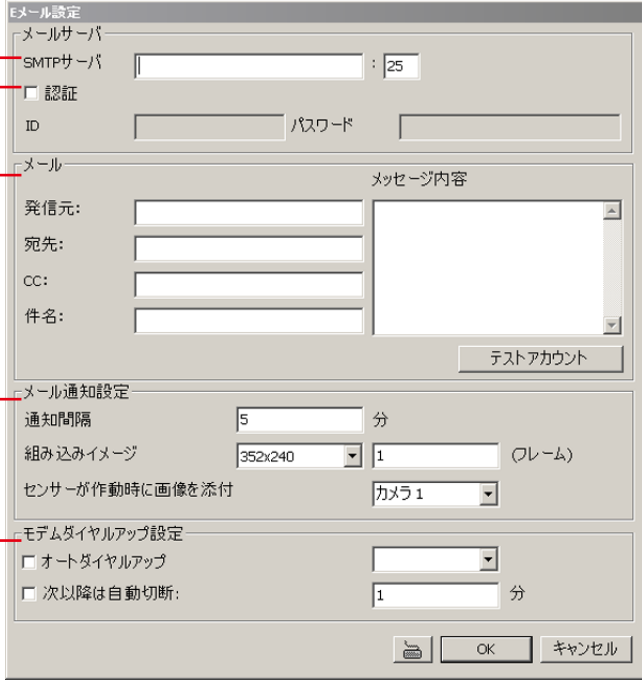


図4.9.4 Eメール設定ダイアログボックス

(1) メールサーバー
SMTPサーバ: [] : [25]
(2) 認証
ID: [] パスワード: []

(3) メール
発信元: []
宛先: []
CC: []
件名: []
メッセージ内容: []
テストアカウント

(4) メール通知設定
通知間隔: [5] 分
組み込みイメージ: [352x240] [1] (フレーム)
センサーが作動時に画像を添付: [カメラ1]

(5) モデムダイヤルアップ設定
オートダイヤルアップ: []
次以降は自動切断: [1] 分

OK キャンセル

(1) メールサーバー

SMTP サーバとポートを入力します。E メールシステムがユーザーID を必要とする場合、**承認**チェックボックスにマークを入れてユーザーID とパスワードを入力します。

(2) メール

作動するかどうかを確認するには、**テストアカウント**ボタンをクリックします。

送信元: 送信者の E メールアドレスを入力します。

受信者と CC: 受信者の E メールアドレスを入力します。複数の場合は、カンマまたはセミicolon(;)で区切ります。

件名: メッセージの件名を入力します。

メッセージ: メッセージの内容をタイプします。

(3) E メール通知設定

通知間隔 別の E メール通知を送信するまでの時間間隔を設定します。

画像添付 画像のサイズを選択し、フレーム数を設定します。

センサーが起動したときに画像を添付 センサーが起動すると、システムは画像を捕獲し、アラームメッセージと一緒に、指定の E メールアドレスに送信します。

(4) モデムダイヤルアップ設定

ダイヤルアップモデムを使用している場合、自動ダイヤルアップチェックボックスにマークを入れてモデム名を選択しておきます。また、**自動接続解除までの時間**チェックボックスにマークを入れ、時間を設定すると、自動的に接続解除する時間を設定することもできます。

4.9.5 FTP を設定する

1. FTP に転送チェックボックスの横にある**詳細**をクリックします。
2. FTP 設定ダイアログボックスに、FTP IP、ポート、ユーザーID、パスワードを入力します。
3. **写真の枚数**テキストボックスに、ファイルを送信する際に送りたい連続写真の枚数を入力します。
4. **センサーが起動したときに画像をアップロード**で、センサーが起動したときに画像を捕獲して送信するカメラを選択します。
5. **OK** をクリックすると設定が保存されて作業が終了し、**キャンセル**をクリックすると設定が保存せずに終了します。

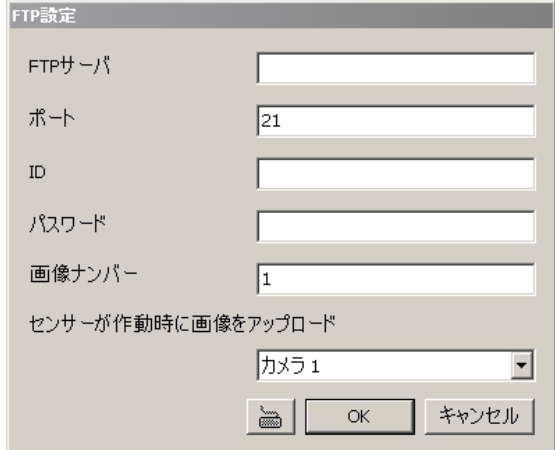


図4.9.5 FTP設定ダイアログボックス

FTPサーバ: []
ポート: [21]
ID: []
パスワード: []
画像ナンバー: [1]
センサーが作動時に画像をアップロード
[カメラ1]
OK キャンセル

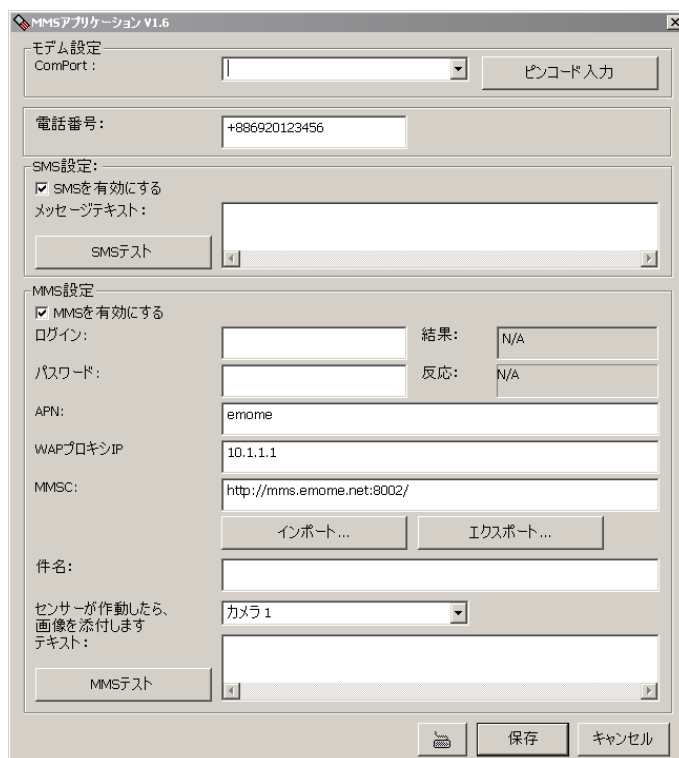
4.9.6 アラーム録画を設定する

- 録画開始チェックボックスの横にある**詳細**をクリックします。
- アラーム録画設定ダイアログボックスで、ビデオ録画を動作/解除するカメラを選択します。**すべて**をクリックすると、全部のカメラが選択されます。
- フレームレート選択で、**設定通り**を選択すると、録画設定に基づくフレーム枚数を録画し、**最大**を選択すると、利用可能な速度に基づく最大フレーム枚数を録画します。
- 録画終了時間**テキストボックスに、アラームが終了したあともプログラムが録画を継続する時間を秒で入力してください。
- OK をクリックすると設定が保存されて作業が終了し、**キャンセル**をクリックすると設定が保存せずに終了します。



4.9.7 SMS/MMS を設定する

この機能を使用するには、GSM/GPRS モデムが必要です。GSM/GPRS モデムをコンピューターのシリアル COM ポートに接続してください。SMS/MMS チェックボックスの横にある**詳細**をクリックします。COM ポートドロップダウンリストで、GSM/GPRS モデムを接続するポート番号を選択します。



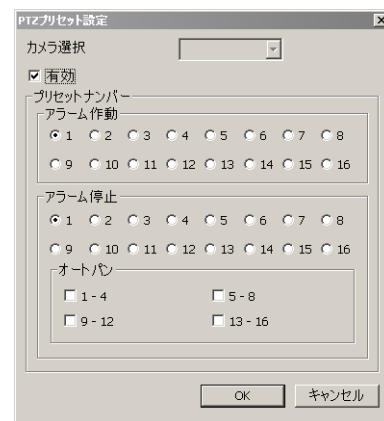
- モデム設定**ボタンをクリックすると、モデムボーレートが自動的に検出されます。
- 市内電話番号**テキストボックスに、GSM SIM カード電話番号を入力します。
- 電話番号**テキストボックスに、連絡先の電話番号を入力します。
- これで、SMS や MMS で送信するように設定されました。SMS 設定を起動した場合、テキストボックスにメッセージを記入するだけです。MMS 設定を起動した場合、APN 名、WAP IP、MMS アドレス、メッセージを記入します。不明な点があれば、携帯電話サービスプロバイダーにお問い合わせください。
- センサーが起動したときに画像を添付**で、センサーが起動したときに画像を捕獲して送信するカメラを選択します。
- OK をクリックすると設定が保存されて作業が終了し、**キャンセル**をクリックすると設定が保存せずに終了します。



ISP プロバイダーと携帯電話プロバイダーが、両方とも JPG ファイルフォーマットの送信をサポートしていることを確認してください。

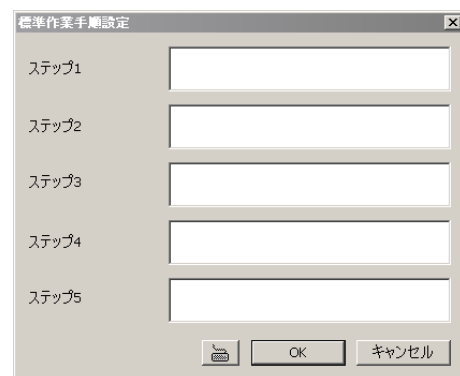
4.9.8 PTZ プリセットポイントを設定する

PTZ プリセットポイントチェックボックスの横にある**詳細**をクリックします。PTZ プリセット起動設定ダイアログボックスで、PTZ カメラ番号を選択してから、起動チェックボックスにマークを入れます。アラームが起動したときと終了したときの、PTZ カメラの位置を選択します。PTZ カメラ終了ポイントについては、プリセットポイントの一つを選択したり、プリセット位置グループ間の**自動パン**を選択することができます。



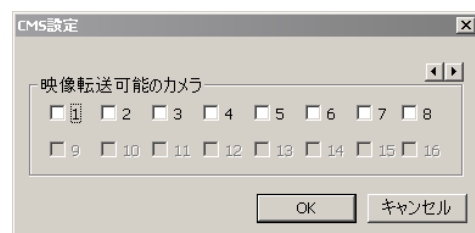
4.9.9 アラーム機能作業手順を設定する

アラーム SOP チェックボックスの横にある**詳細**をクリックします。ステップテキストボックスに、アラーム起動時の標準プロトコルをタイプします。アラームが起動すると標準操作手順ダイアログボックスが表示されます。**次へ**をクリックすると次の指示が表示され、**戻る**をクリックすると前の指示に戻り、**終了**をクリックすると終了し、**中断**をクリックすると手順が中断されます。



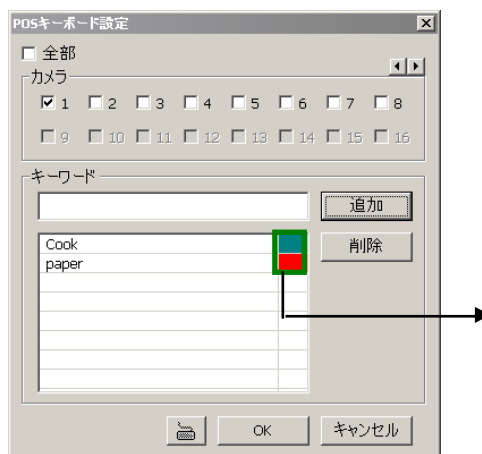
4.9.10 CMS を設定する

「CMS へ送信」チェックボックスの横にある**詳細**をクリックします。CMS 設定で、CMS にビデオを送信するカメラの起動または解除を選択します。**すべて**をクリックすると、全部のカメラが選択されます。次に **OK** をクリックすると設定が保存されて作業が終了し、**キャンセル**をクリックすると設定が保存せずに終了します。



4.9.11 POS キーワードを設定する

1. 「POS へ送信」チェックボックスの横にある**詳細**をクリックします。
2. POS キーワード設定で、キーワードのスキャンを作動/解除するカメラを選択します。**すべて**をクリックすると、全部のカメラが選択されます。
3. キーワードテキストボックスの下にテキストを入力します。追加をクリックすると、リストにキーワードが追加されます。リスト内で語を選択して削除をクリックすると、その語が削除されます。キーワードは 8 個しか追加できません。各キーワードに色を指定することができます。POD キーワードカラムの横のカラーパネルをクリックするとカラー選択パネルが表示されるので、好きな色を選択して **OK** をクリックし、色を設定してください。
4. **OK** をクリックすると設定が保存されて作業が終了し、**キャンセル**をクリックすると設定が保存せずに終了します。

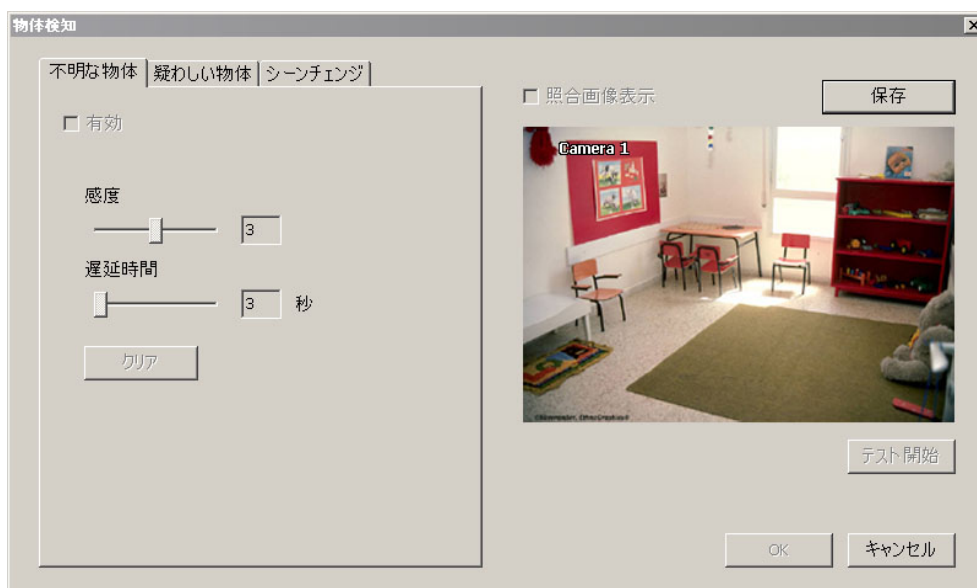


4.9.12 物体が消失する、疑わしい物体やシーンの変更が検出される

- 物体の消失

システムが検出できるように、画面上で特定の物体を選択します。その物体が消失したり移動すると、システムがアラームを発します。OK をクリックすると設定が保存されて作業が終了し、キャンセル をクリックすると設定が保存せずに終了します。設定条件をテストするには、テストの開始 をクリックします。

1. カメラの番号(0～16)を選択し、マウスの右ボタンをクリックすると、設定ウィンドウが表示されます。
2. 保存 をクリックして、最初に比較対象の参照画像を捕獲します。参照画像を表示チェックボックスにマークを入れると、捕獲した物体を表示させることができます。捕獲した物体が画面に表示されます。参照画像は、疑わしい物体やシーンの変更の各機能と共通に使用されます。
3. 起動チェックボックスにマークを入れて条件を設定します。
4. マウスを使用して、フレームをクリックし、画面内にドラッグします。2 個以上のフレームをドラッグすることができます。
5. 感度: システムの検出感度を設定します。
6. 遅延時間: システムが物体を検出し続ける時間を設定します。
7. 物体フレームをリセットするには、消去 をクリックします。物体フレームを消去するには、マウスの右ボタンをクリックし、消去したい物体フレームをドラッグしてください。

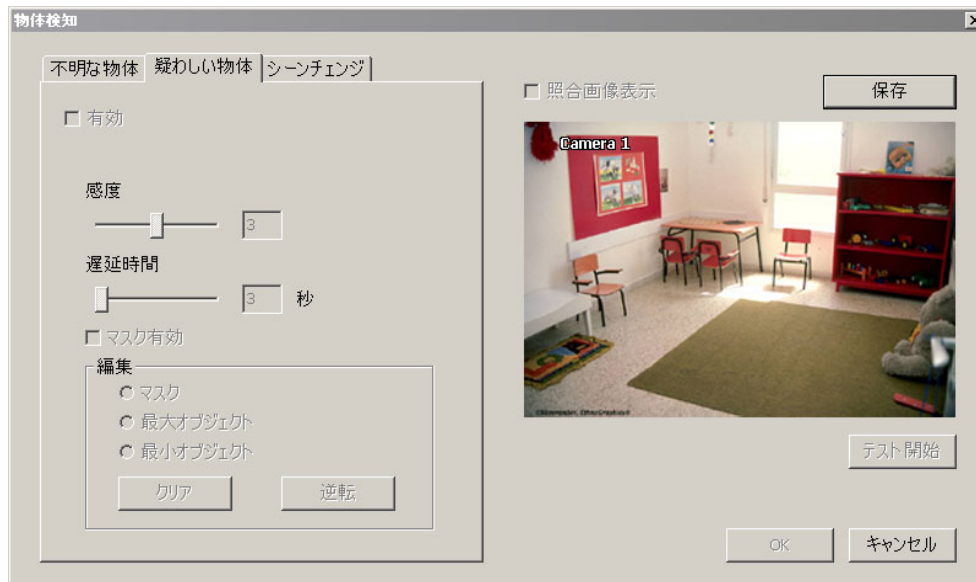


- 疑わしい物体

疑わしい物体には、画面から物体が消失したり、画面に疑わしい物体が現れたりする状況を含んでいます。OK をクリックすると設定が保存されて設定ウィンドウが終了します。設定条件をテストするには、テストの開始 をクリックします。

1. カメラの番号(0～16)を選択し、マウスの右ボタンをクリックすると、設定ウィンドウが表示されます。次に、疑わしい物体タブをクリックします。
2. 保存 をクリックして、最初に比較対象の参照画像を捕獲します。参照画像を表示チェックボックスにマークを入れると、捕獲した物体を表示させることができます。捕獲した物体が画面に表示されます。参照画像は、物体の消失やシーンの変更の各機能と共通に使用されます。
3. 起動チェックボックスにマークを入れて条件を設定します。
4. 感度: システムの検出感度を設定します。
5. 遅延時間: システムが物体を検出し続ける時間を設定します。
6. マウスを使用して、フレームをクリックし、画面内にドラッグします。
 - 最大物体: 最大検出サイズです。最大検出エリアの外にある物体は無視されます。マウスを使用して、フレームをクリックし、画面内にドラッグします。
 - 最小物体: 最小検出サイズです。最小検出エリアより小さい物体は無視されます。マウスを使用して、フレームをクリックし、画面内にドラッグします。
7. マスク有効
これは、動きを無視したい区域にマークを付ける機能で、マークのない区域でのみ監視が行われます。マスク有効チェックボックスにマークを付け、マスクフレームを画面上にドラッグしてください。
8. 物体フレームをリセットするには、消去 をクリックします。物体フレームを消去するには、マウスの右ボタンを

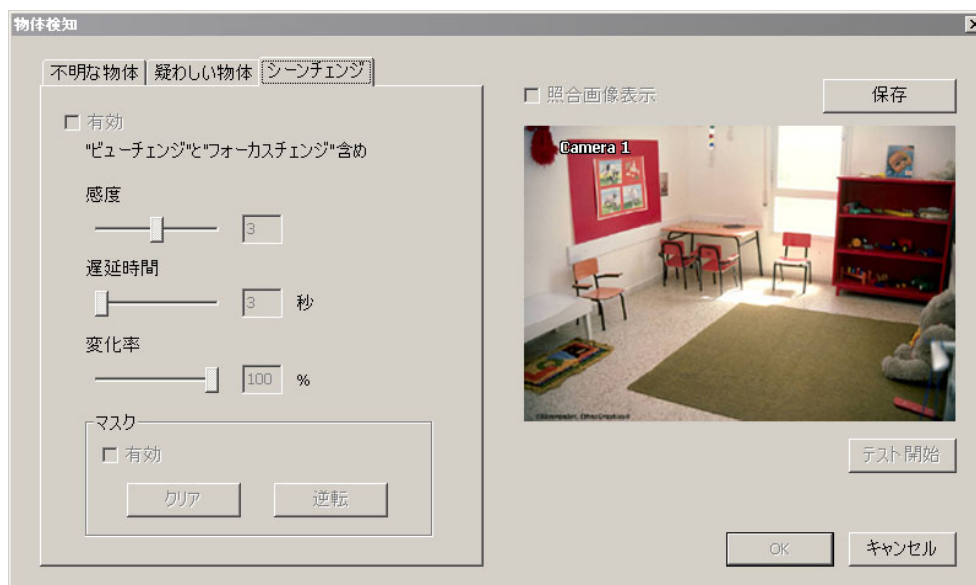
クリックし、消去したい物体フレームをドラッグしてください。



- シーンチェンジ

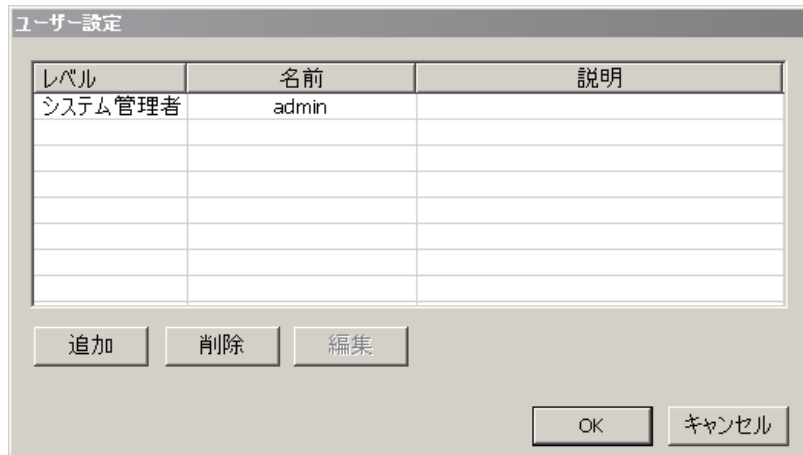
カメラが動かされたときに、システムがアラームを起動させます。

1. カメラの番号(0～16)を選択し、マウスの右ボタンをクリックすると、設定ウィンドウが表示されます。次に、**シーンの変更タブ**をクリックします。
2. **保存**をクリックして、最初に比較対象の参照画像を捕獲します。**参照画像を表示**チェックボックスにマークを入れると、捕獲した物体を表示させることができます。捕獲した物体が画面に表示されます。参照画像は、物体の消失や疑わしい物体の各機能と共通に使用されます。
3. **起動**チェックボックスにマークを入れて条件を設定します。
4. **感度**: システムの検出感度を設定します。
5. **遅延時間**: システムが動きを検出し続ける時間を設定します。
6. **変更範囲**: 元の位置と比較するために、カメラの移動範囲を設定します。
7. **マスク有効**
これは動きを無視したい区域にマークを付ける機能で、マークのない区域でのみ監視が行われます。**マスク有効**チェックボックスにマークを付け、マスクフレームを画面上にドラッグしてください。
8. 物体フレームをリセットするには、**消去**をクリックします。物体フレームを消去するには、マウスの右ボタンをクリックし、消去したい物体フレームをドラッグしてください。



4.10 ユーザー設定

管理者のみがユーザー設定にアクセスできます。ユーザー設定ダイアログボックスで、**追加**をクリックすると新しいユーザーが追加され、**削除**をクリックすると選択されたユーザーが削除され、**編集**をクリックするとユーザーの管理権を変更し、**OK** をクリックすると設定が保存されて作業が終了し、**キャンセル**をクリックすると設定が保存せずに終了します。

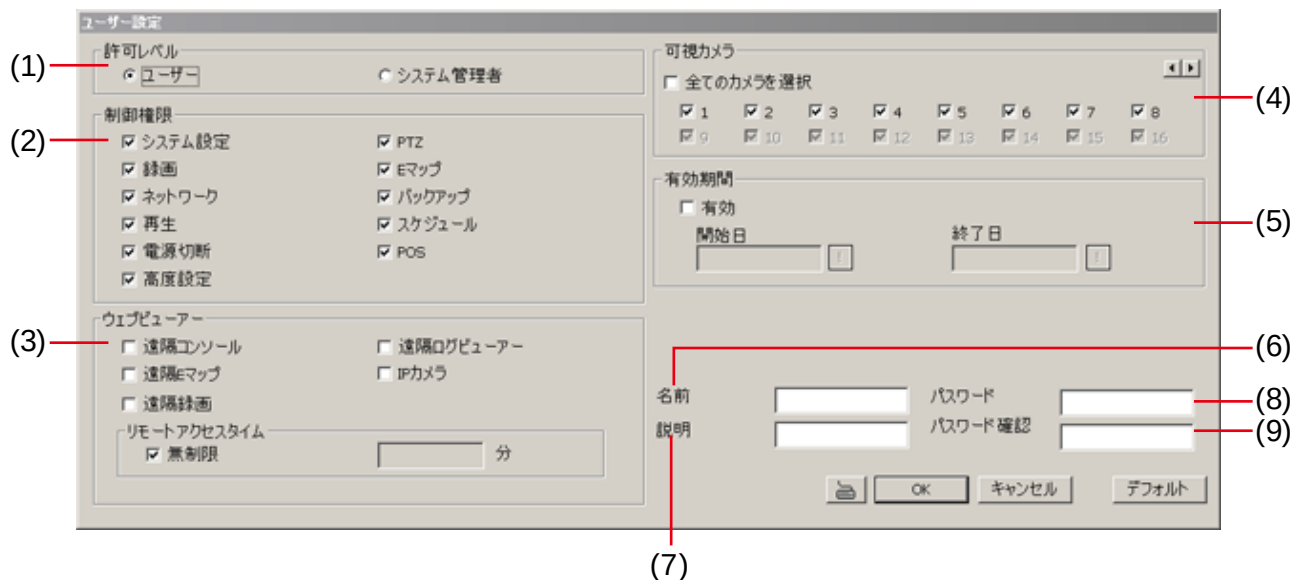


レベル	名前	説明
システム管理者	admin	

追加 削除 編集

OK キャンセル

追加または**編集**をクリックすると、ユーザー管理設定をカスタム化することができます。**OK** をクリックすると設定が保存されて終了し、**キャンセル**をクリックすると設定が保存せずに終了します。



(1) 許可レベル: ユーザー (選択済み) / システム管理者

(2) 制御権限:

- ☒ システム設定 ☒ PTZ
- ☒ 録画 ☒ Eマップ
- ☒ ネットワーク ☒ バックアップ
- ☒ 再生 ☒ スケジュール
- ☒ 電源切断 ☒ POS
- ☒ 高度設定

(3) ウェブビューアー:

- ☐ 遠隔コンソール ☐ 遠隔ログビューアー
- ☐ 遠隔Eマップ ☐ IPカメラ
- ☐ 遠隔録画
- リモートアクセスタイム: 分
- ☒ 無制限

(4) 可視カメラ: ☐ 全てのカメラを選択

☒ 1 ☒ 2 ☒ 3 ☒ 4 ☒ 5 ☒ 6 ☒ 7 ☒ 8

☒ 9 ☒ 10 ☒ 11 ☒ 12 ☒ 13 ☒ 14 ☒ 15 ☒ 16

(5) 有効期間: ☐ 有効

開始日: 終了日:

(6) 名前: (7) 説明:

(8) パスワード: (9) パスワード確認:

印刷アイコン OK キャンセル デフォルト

(1) 許可レベル

ユーザーのステータスを選択します。管理者レベルのユーザーのみがユーザー設定にアクセスでき、遠隔コンソールを使用してアラームの状態をリセットできます。

(2) 制御権限

ユーザーがアクセスできる項目を設定します。

(3) ウェブビューアー

ユーザーがインターネットエクスプローラを使用して遠隔地から操作することのできる、ウェブビューアーの制御権を起動または解除します。

- 遠隔コンソール

ユーザーが、遠隔地から SA DVR システム設定を変更することができるようになります。

- 遠隔ログビューアー

ユーザーが、遠隔地からイベントログを見ることができるようになります。

- 遠隔 E マップ

ユーザーが、遠隔地から SA DVR の電子地図を見ることができるようになります。

- IP カメラ

ユーザーがウェブビューアーを使用して、新しい IP カメラの追加を行えるようにしたり、その権利を解除します。

- リモートアクセスタイム

永遠起動チェックボックスにマークを付けると、時間制限なしに SA DVR にアクセスすることができます。時間

制限を付けたい場合、分テキストボックスに分を数字で記入します。

(4) 可視カメラ

ユーザーがアクセスしたり、見ることのできるカメラの番号を選択します。全部のカメラを選択するには、すべてチェックボックスにマークを入れてください。

(5) 有効期間

特定の期間内だけ DVR プログラムにログインできるアカウントをユーザーに与えたい場合、ユーザーアカウントにその時間を設定することができます。起動チェックボックスにマークを入れ、開始日と終了日を選択してください。

(6) 名前

ユーザー名を入力します。

(7) 説明

ユーザーに関する説明を入力します。

(8) パスワード

ユーザーパスワードを入力します。

(9) パスワード確認

確認のために、同じユーザーパスワードを入力します。

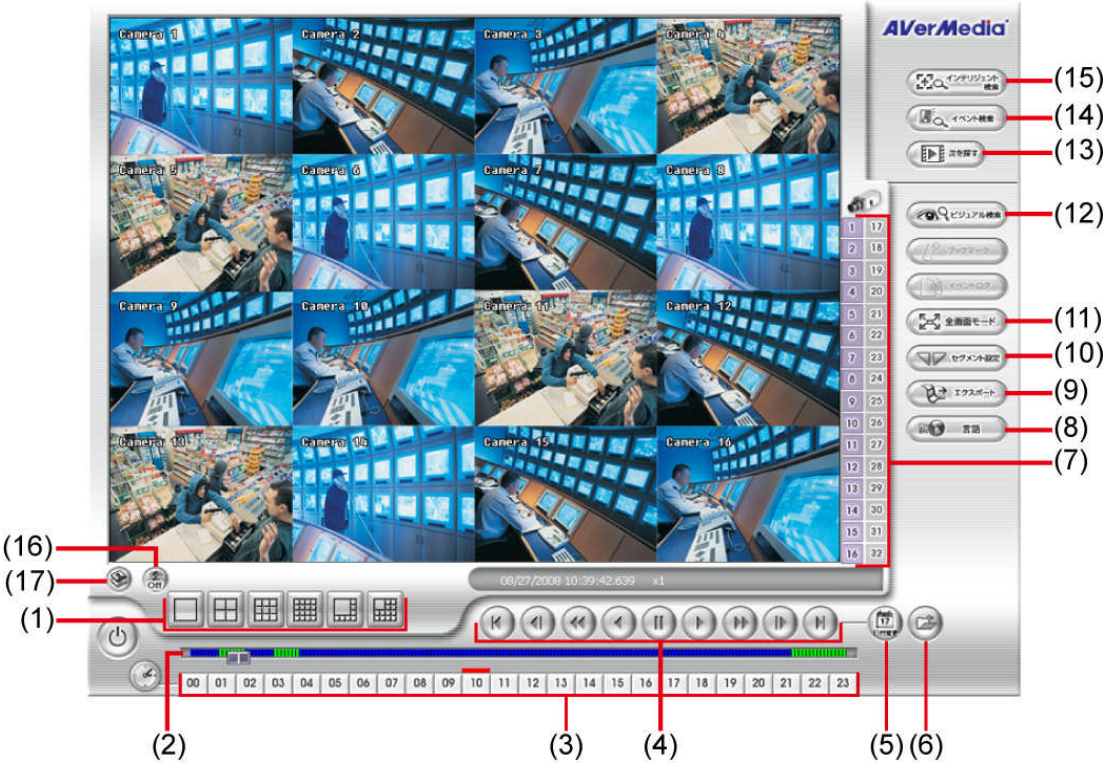
第5章 ビデオプレーヤーのバックアップ

QPlayer アプリケーションを使用してバックアップファイルを再生することができます。録画済みファイルをバックアップする際に、バックアップフォルダに QPlayer アプリケーションが自動的に添付されます。

QPlayer では、再生モードと同様に、同時にすべてのビデオを見ることができるよう、6 種類の分割画面がサポートされます。異なるユーザー情報表示言語を使用することもできます。唯一の相違点は、プレビューボタンと再生ボタンがないことです。

このアプリケーションを実行するには、バックアップフォルダに進んで QPlayer アイコンをダブルクリックしてください。

5.1 QPlayer の各ボタンについて



名称	機能
(1) 分割画面モード	全カメラの録画済みビデオファイルを再生する際に、6 種類の分割画面から選択したり、一つのカメラ画面の上に別の画面を重ねたり、一つの画面上に横に並べることができます。
	- カメラが 4 台しか接続されていない場合、9、13、16 の各カメラ分割画面表示に切り替えることはできません。 - 画面上の一部分を拡大するには、拡大したい部分の四角を右クリックしてドラッグしてください。
(2) 進行バー	再生中のビデオの進行状況を表示します。バーを動かせば、トラック内のどの位置にでも移動して検索することができます。
(3) 時間ボタン	これを選択してクリックすると、特定の時間枠で録画されたビデオファイルを再生することができます。
	時間ボタンは、24 時間時計を表示します。時間ボタンの上にある青いバーは、その時間内にビデオが録画されていることを表しています。赤いバーは、その部分の録画済みビデオファイルが現在再生中であることを示しています。
(4) 再生コントロールボタン	開始: 録画済みビデオファイルの最初まで戻ります。 コマ戻し: 以前のフレームに戻ります。 スロー再生: 録画済みビデオファイルの再生速度を 1/2x、1/4x、1/8x に遅くします。 巻き戻し: 録画済みビデオファイルを巻き戻します。 一時停止: 録画済みビデオファイルの再生を一時停止します。 再生: 録画済みビデオファイルを再生します。 早送り: 録画済みビデオファイルの再生速度を 2x、4x、8x、16x、32x 倍速度で再生します。 コマ送り: 次のフレームに進みます。 終了: 録画済みビデオファイルの最後に進みます。

名称	機能
(5) 日付	録画済みビデオファイルの再生を開始する日付や時刻を、それぞれ、カレンダー、および、00 から 23 までの数字で選択します。
i	00 から 23 までの数字は、24 時間時計を表わしています。01 から 16 までの数字は、カメラ ID です。青いカラムは、その時間内にビデオが録画されていることを表しています。赤いカラムは、録画済みビデオファイルの再生が始まる場所を示しています。
(6) 開く	バックアップビデオファイルにアクセスします。
(7) 状態バー	録画した日付、時間、再生速度が表示されます。
(8) カメラ ID	現在表示されているカメラの番号を示します。単一画面モードの場合、カメラ ID 番号をクリックすると、別のカメラに切り替わります。
(9) エクスポート	エクスポートには、スナップショット、印刷、ビデオクリップ出力、バックアップ機能が含まれます。 ■ スナップショット: *.jpg または *.bmp フォーマットで、画面ショットを捕獲して保存します。 ■ 印刷: 画面ショットを印刷します。 ■ ビデオクリップ出力: *.mpg、*.avi または *.dvr フォーマットで、セグメント化したファイルを保存します(第 3.7 章も参照)。
(10) セグメント	録画済みビデオの一部分を保存します(第 3.7 章も参照)。
(11) フル画面	再生コンパクトモードで表示されます。マウスの右ボタンを押すか、キーボードの ESC を押すか、矢印アイコンを押すと、元の画面に戻ります。
	 複数画面モードでフル画面に切り替える際に、左クリックすると、複数画面モードのビデオのいずれか一つ、またはそれら全部に、切り替えることができます。 矢印アイコンをクリックするとフル画面表示モードが終了します。
i	32 チャンネルのデュアルモニターの場合、フル画面モードでは、各モニターが 16 チャンネルに分割されます。
(12) ビジュアル検索	特定のカメラで、日付、時刻、分、10 秒、秒で検索します(第 3.9 章も参照)。
(13) 次を検索	次のイベントまたは動作検知器フレームの変更を検索します。インテリジェント検索やイベント検索機能でもこれを使用することができます。
(14) イベント検索	システムで記録されたアクティビティ(センサー、動作、ビデオ消失、POS など)を検索します(第 3.11 章も参照)。
(15) インテリジェント検索	動作検知器フレームの変更を検索します。(第 3.11 章も参照)。
(16) ウォーターマークの確認	SA DVR では、再生ビデオが真正であることを識別するために、ウォーターマークの確認機能がサポートされるようになりました。SA DVR プログラムでは、フル画面再生モードで一つのチャンネルが再生されているときにのみ、ウォーターマークを確認することができます。 再生されているビデオが改変されていないことを確認します。🔍 をクリックすると、再生されているビデオが真正であるか確認できます。次のようなウォーターマーク確認ウィンドウが表示されます。
(17) インターレース解除	ビデオの画質を改善します。捕獲した画像が動きのない画像のときにはインターレース解除モードを #1 に、動きの多い画像のときには #2 に設定してください。

第6章 機能キーの使用法

DVR システムではショートカットキーが使用できます。下表に、機能キーとその説明を示します。

機能キー	説明
Q	システムの終了
F1	システム情報の表示
F2	録画開始
F3	ネットワーク機能の起動
F4	システム設定へのアクセス
F5	再生モードへの切り替え
F6	E マップ設定への切り替え
F7	PTZ カメラコントロールパネルへの切り替え
F8	スナップショット
F9	フル画面への切り替え
F11	自動スキャンへの切り替え
CTRL + F	フリーズ機能
CTRL + B	クイックバックアップ
Ctrl + A	ハードウェア AGC 機能のオン/オフ

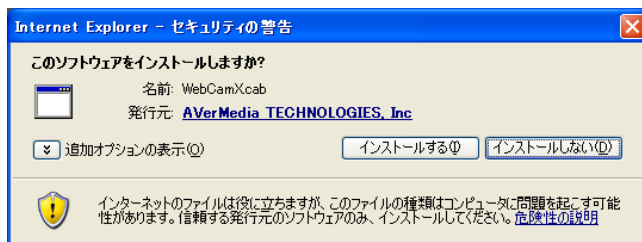
第7章 リモートプログラムの使用法

Microsoft Internet Explorer を使用し、IP アドレスまたはドメイン名を入力して、DVR サーバーにアクセスすることができます。この機能を使用するには、インターネットに接続され、ネットワーク機能が作動状態になっている必要があります。

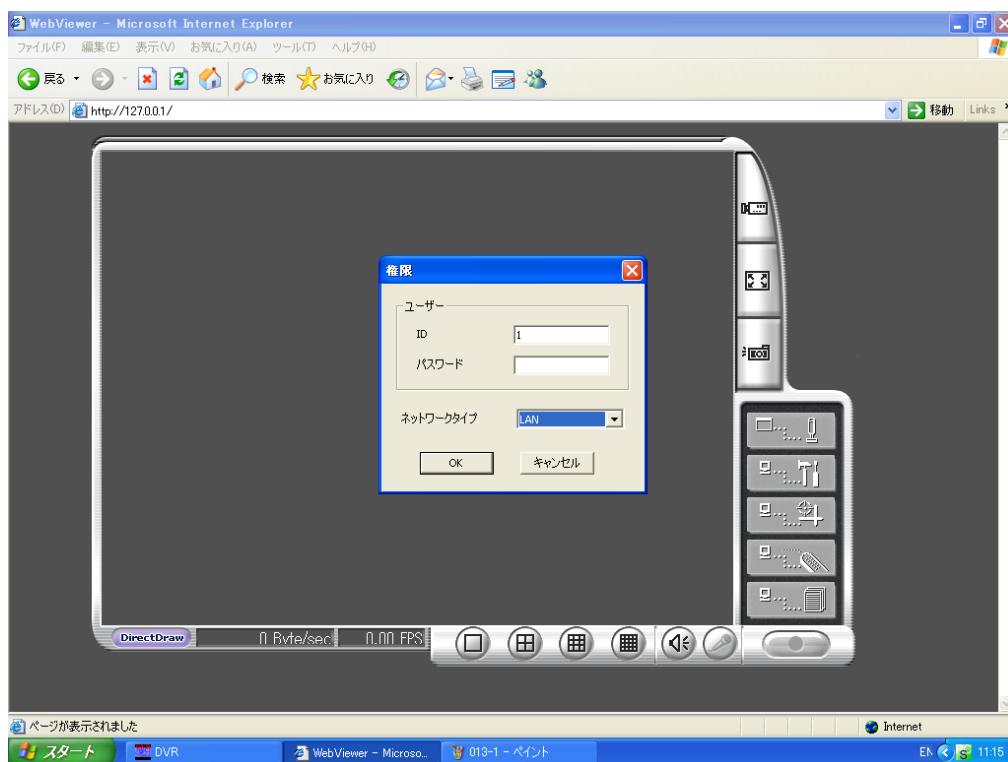
この機能に初めてアクセスすると、ウェブブラウザから WebCamX.cab をインストールして、インストールを許可するよう指示されます。すると、接続やログインができるようになります。

Windows 2000 では、セキュリティ警告ダイアログボックスが表示されたら、はいをクリックしてください。

Windows XP 用 Internet Explorer では、Internet Explorer セキュリティ警告ダイアログボックスが表示されたら、インストールをクリックしてください。

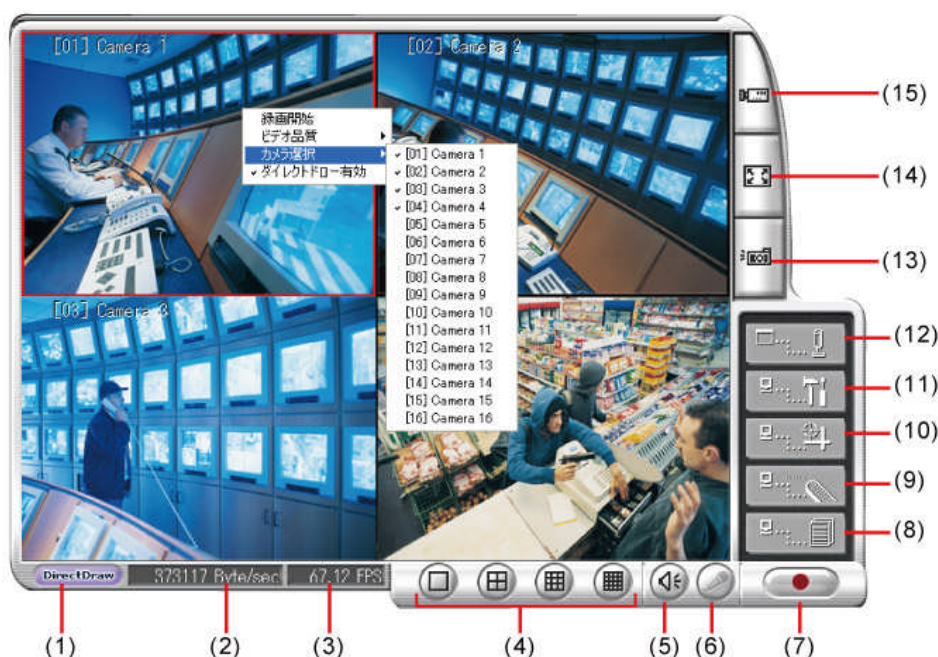


WebCamX.cab をインストールして DVR サーバーに接続したら、ユーザーID とパスワードを入力し、ネットワークタイプを選択してください。



7.1 ウェブビューアーボタンについて

ウェブビューアービデオ画面を右クリックすると、ビデオ録画を開始したり、ビデオ画質を変更したり、カメラを切り替えたり、DirectDraw を起動/解除することができます。



名称	機能
(1) DirectDraw	ビデオ画質を向上させます。
i グラフィックカードによっては、この機能をサポートしないものもあります。	
(2) 受信ファイルサイズ	毎秒送信されるデータサイズを表示します。
(3) カメラフレーム	毎秒のフレーム数を表示します。
(4) 分割画面モード	全カメラを表示する際に、4 種類の分割画面から選択できます。別のカメラ番号に切り替えて見することもできます。
(5) 音声	リモート音声を起動または解除します。
(6) 双方向トーク	双方向トークを起動または解除します。これは、クライアントとサーバーとの間でマイクロホンを使ってインターネットを介して会話できる機能です。 この機能を使用する前に、マイクロホンとスピーカーが作動することを確認してください。DVR サーバーでウェブクライアントとのトーク機能が解除されていると、相手の声は聞こえません。
(7) 録画	AVI フォーマットで、選択したカメラのビデオを録画します。
(8) イベントログビューアー	イベントログ、運用ログ、POS ログ、システムログ、ネットワークログが表示されます。
(9) 遠隔コンソール	遠隔コンソールを起動します。インターフェースは DVR アプリケーションと同じであり、DVR サーバーを制御することができます(第 7.2 章も参照)。
(10) リモート E マップ	DVR サーバーの E マップ画面を表示します(第 3.6 章も参照)。
(11) リモート設定	DVR サーバーの 設定を変更します(第 7.1.1 章も参照)。
(12) PTZ カメラの選択	PTZ カメラコントローラーを起動します(第 7.2 章も参照)。
(13) スナップショット	画面ショットを捕獲して、*.bmp ファイルで保存します。
(14) フル画面	画面全体を使用して、ビデオのみが表示されます。 マウスの右ボタンを押すか、キーボードの ESC を押すと、元の画面に戻ります。
(15) 表示するカメラの選択	別のサーバーからカメラを表示するよう選択します。カメラの選択ダイアログボックスのディスプレイカラムをクリックすると、カメラの表示を起動または解除できます。ビデオ画質カラムをクリックすると、画質が高、中、低と切り替わります。

名称

機能

(15) 表示するカメラの
選択

サーバー追加をクリックすると、追加するサーバータイプを DVR と IP に切り替わります。

削除をクリックすると、選択したサーバーが削除されます。

インポートをクリックすると、以前に保存されたリストと入れ替わります。

エクスポートをクリックすると、リストが保存されます。

全部適用をクリックすると、選択された設定に基づいて、カメラのビデオ画質がすべて変更されます。

OK をクリックすると終了します。



i IPカメラを追加するには、DVRシステムのユーザー設定で、IPカメラの使用権限を有効にする必要があります(第 4.10 章を参照)。

7.1.1 リモートシステムを設定する

OK をクリックすると設定が保存されて終了し、キャンセルをクリックすると設定が保存せずに終了します。ここでの設定は、リモート DVR にのみ適用されます。



(1) カメラ名

設定を調整したいカメラを選択します。

(2) 適用

選択したカメラを起動または解除に設定します。カメラにビデオソースがない場合、システムがビデオ消失エラーを検出しないように、そのカメラを解除するようお勧めします。

(3) カメラの設定

- 表示

ビデオの表示を作動または解除します。選択されたカメラのビデオが隠されていても、それを録画して、再生モードでプレビューすることができます。

- 名前

カメラの名前を変更します。

- 説明

短いコメントを追加します。

(4) 画像調節

選択されたカメラの明るさ、コントラスト、色合い、彩度を調整します。

(5) AGC 機能

明るさを自動的に調整します。

(6) ナイトビュー

特に撮影現場が暗いときに露出を自動的に調整して、画像が見やすくなるようにします。この機能は、明るさの自動調整が作動しているときにのみ、起動することができます。

(7) 録画モード

00 から 11(午前と午後)までのブロックは、24 時間時計の各時刻を表しています。24 時間全部にわたって録画するには、録画モードを選択して、○ ボタンをクリックします。特定の時間だけを録画したい場合には、録画モードの横にある色の付いたブロックをクリックしてから、時間ブロックをクリックします。システムが録画を開始すると、画面の左上に赤い三角マークが表示されます。録画モードは以下の通りです。

- 常時録画

選択されたカメラからビデオを常時録画して、指定の保存先に保存します([第 4.1 章#1](#) も参照)。

- 動作検知録画

システムが動きを検知したときにのみ、選択されたカメラからビデオの録画が開始されます。

- スマート録画

動きを検知すると、自動的に最大フレームレート設定に切り替わり、動きがないと、最小フレームレート設定で録画されます。[\(7\) フレームレート](#) セクションで、最大および最小フレームレートを設定してください。

- 録画しない

録画は行なわれません。

(8) 動作検知

動作検知器の感度を調整します。この値が高いほど高い感度で検出されます。システムが動きを検出すると、画面の左上に緑の三角マークが表示されます。

(9) 音声検知

音声検出器の感度を調整します。音声検出設定の感度値を上回ると、システムは音声を録音します。

(10) ノイズリダクション

不要なビデオ信号部分を低減して、画質を向上させます。



雑音低減には、CPU リソースを多量に消費するので、本当に必要な場合にのみ使用してください。

(11) 画質

ビデオの画質を調整します。この値が高いほど圧縮レベルが低くなり、ハードディスクの使用スペースが増加します。

(12) フレームレート

録画するビデオの 1 秒間における画像の数を設定します。フレームレートは、NTSC では 1 から 30 まで、PAL では 1 から 25 まで設定できます。フレームレートが多いほど、ハードディスクの使用量が増加します。

(13) ビデオサイズ

ビデオサイズを選択して○ボタンをクリックします。サイズが大きいほど、大きいファイルが作成されます。インターレース解除を作動させると画質が向上します。動きがない画面を捕獲する場合にはインターレース解除を作動モード

を#1 に設定し、動きがたくさんある画面を捕獲する場合には、**インターレース解除**を作動モードを#2 に設定してください。

(14) 圧縮タイプ

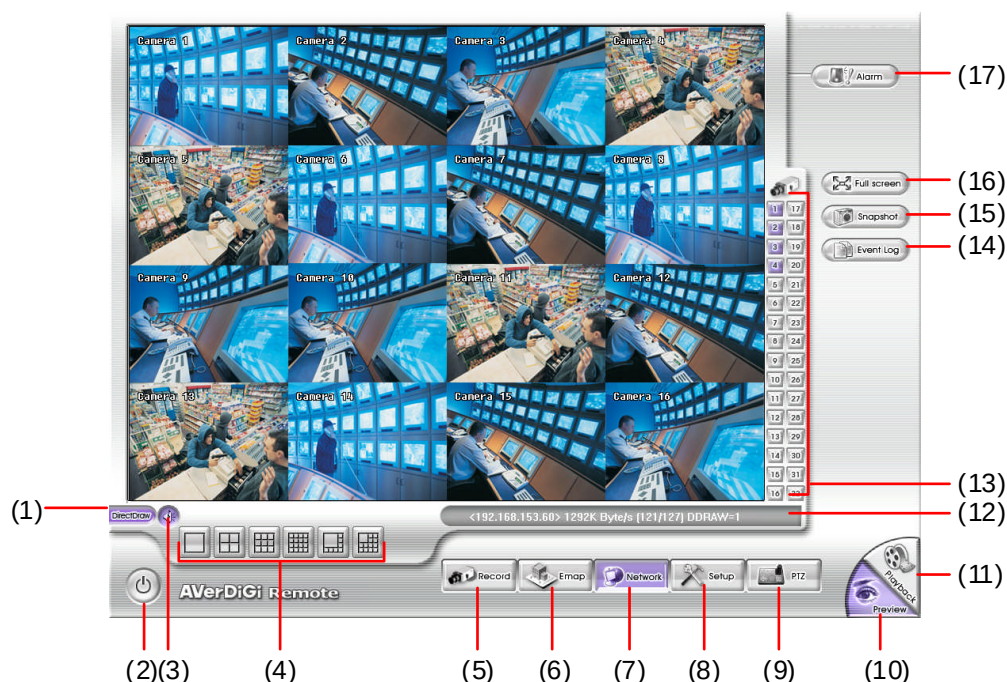
2 種類の圧縮タイプから選択してください。MPEG4 は高圧縮率を使用しているためファイルのサイズが小さくなります。MJPEG は低圧縮率を使用しているためファイルのサイズが大きくなります。

7.2 ウェブビューアーPTZ ボタンについて



名称	機能
(1) 方向ボタン	PTZ カメラの焦点を調整して配置します。中央をクリックすると、自動的にパンします。。
(2) PTZ の選択	PTZ カメラの起動や解除を選択します。PTZ 選択ダイアログボックスの選択カラムをクリックすると、PTZ カメラの表示や制御を起動したり解除することができます。 OK をクリックすると設定が保存されて終了し、キャンセルをクリックすると設定が保存せずに終了します。
(3) 自動パングループ	カメラグループプリセット位置番号に基づいて、自動的に PTZ カメラを操作します。
(4) カメラプリセット位置番号	PTZ カメラをプリセット位置へ移動させます。
(5) ズーム+/-	画像を拡大または縮小します。
(6) ピント+/-	画像がはっきりに写るように、手動でピントを調整します。

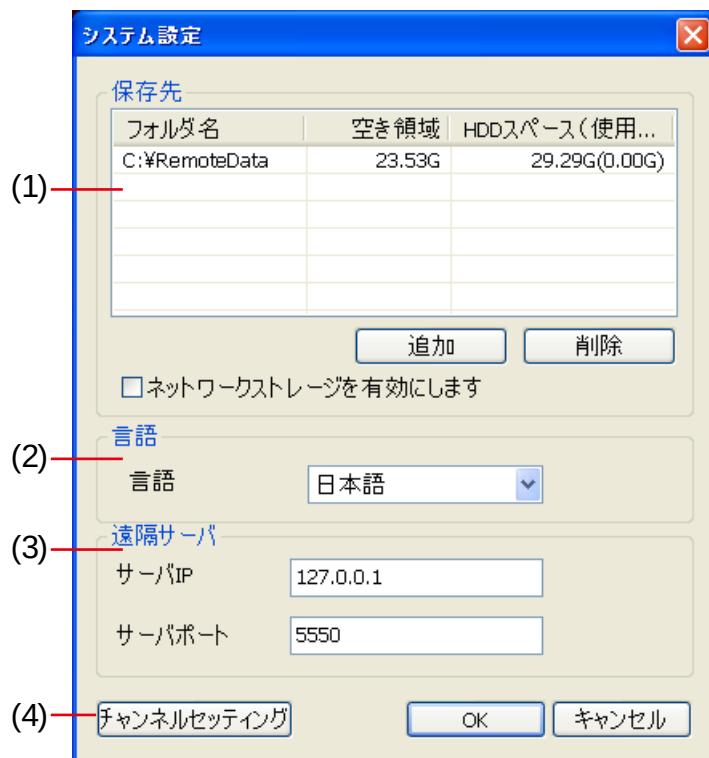
7.3 遠隔コンソールボタンについて



名称	機能
(1) DirectDraw	ビデオ画質を向上させます。
i グラフィックカードによっては、この機能をサポートしないものもあります。	
(2) 終了	遠隔コンソールを閉じます。
(3) 音量	音声を起動または解除します。
(4) 分割画面モード	全カメラを表示する 6 種類の分割画面から選択したり、一つのカメラ画面の上に別の画面を重ねたり、一つの画面上に横に並べることができます。
i カメラが 4 台しか接続されていない場合、9、16、13 の各カメラ分割画面表示に切り替えることはできません。ビデオ画質を変更するには、画面を右クリックすると、画質が高、中、低と切り替わります。	
(5) 録画	ビデオ録画を開始または停止します。
(6) E マップ	各エリアのマップや、カメラ/センサー/リレーの位置、警告イベントを表示します(第 3.6 章も参照)。
(7) ネットワーク	リモートシステムアクセスを起動または解除します。この機能で、遠隔地からインターネット接続を介して、SA DVR サーバーにアクセスすることができます。
(8) 設定	遠隔コンソールの設定をコンフィギュレーションします(第 7.3.1 章も参照)。
(9) PTZ	PTZ コントロールパネルにアクセスします。SA DVR システムは、PTZ カメラのほかに、メガピクセル IP カメラもサポートします(第 7.3.2 章を参照)。
(10) プレビュー	プレビュー / 詳細モードに切り替わります。実況カメラ表示を行うことができます。
(11) 再生	再生モードに切り替わります。録画したビデオファイルを再生することができます。(第 7.4 章を参照)。
(12) 状態バー	現在の日付と時刻、およびハードディスクの残りスペースを表示します。
(13) カメラ ID	現在表示されているカメラの番号を示します。単一画面モードの場合、カメラ ID 番号をクリックすると、別のカメラに切り替わります。
(14) イベントログ	システムのアクティビティの記録を表示します。記録をフィルターするには、オプションボタンを選択してクリックすると、イベント、システム、操作、ネットワーク、POS のみが表示されます。
(15) スナップショット	画面ショットを捕獲して、*.jpg または*.bmp フォーマットで保存します。
(16) フル画面	画面全体を使用して、ビデオのみが表示されます。マウスの右ボタンを押すか、キーボードの ESC を押すと、元の画面に戻ります。
(17) アラーム	警告情報を表示します。管理者レベルの者だけが、センサーおよびリレーリストで項目を右クリックして、センサーやリレーをオンオフしたり、起動させることができます。

7.3.1 遠隔コンソールを設定する

OK をクリックすると新しい設定が保存され、キャンセルをクリックすると設定を保存せずに終了します。



(1) 保存先

データを保存するディレクトリを設定します。1 時間分のデータを保存するための十分なスペースがない場合、システムは自動的に一番古いデータを削除して新しいデータを保存します。保存先が 2 つ以上ある場合には、システムは自動的に、次の保存パスにデータを保存します。

初期設定では、データは C: ¥RemoteData に保存されます。別の保存パスを挿入するには、**追加**をクリックします。選択したパスを削除するには、**削除**をクリックします。

ある日数後にシステムにデータを自動的に削除させたい場合、**… 日後に記録したデータを削除する** チェックボックスにマークを入れ、**日数**テキストボックスに日数を入力します。

(2) 言語

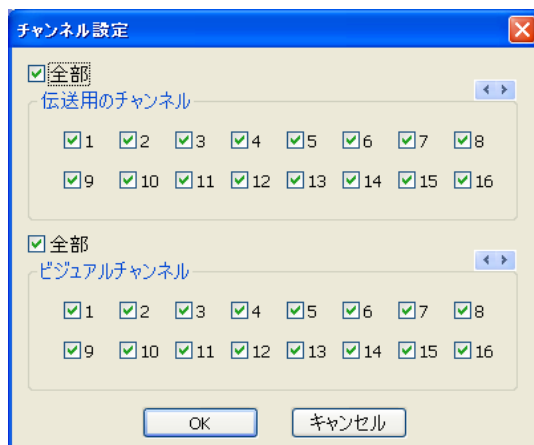
選択した言語でツールのヒントやダイアログを表示するように、システムをカスタム化することができます。初期設定言語は英語です。

(3) 遠隔サーバー

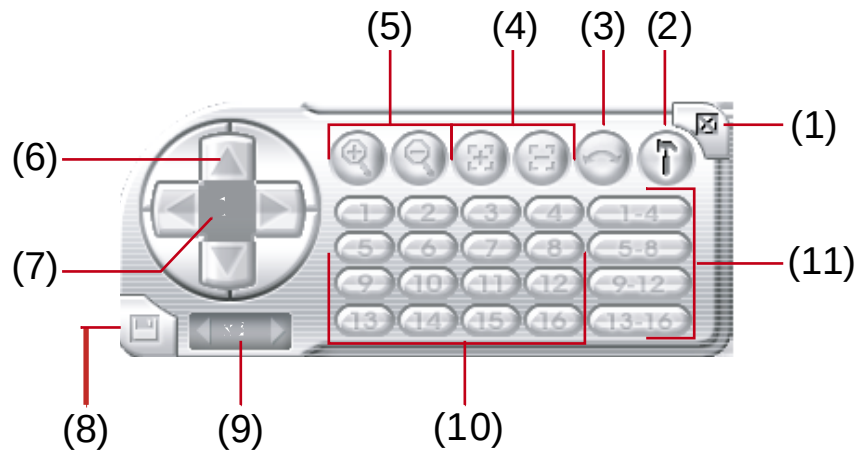
DVR サーバーの IP とポート番号を入力します。

(4) チャンネル設定

01 から 16 までの数字は、カメラ ID を表します。送信チャンネルセクションで、サーバーからカメラ信号を受信するカメラの番号を選択します。受信チャンネルセクションで、遠隔コンソール画面でカメラ信号を見るカメラの番号を選択します。全部のカメラを選択するには、**すべて**チェックボックスにマークを入れます。



7.3.2 PTZ カメラコントローラーのボタンについて

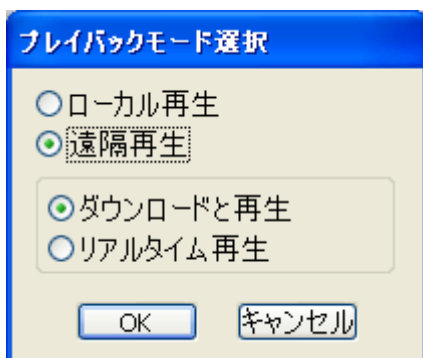


名称	機能
(1) 終了	PTZ カメラコントローラーを閉じます。
(2) 設定	PTZ カメラをコンフィギュレーションします(第 3.12 章 も参照)。
(3) 自動パン	選択したカメラグループプリセット位置番号に基づいて、自動的に PTZ カメラを操作します。
(4) ピント+/-	画像がはっきりに写るように、手動でピントを調整します。
(5) ズーム+/-	画像を拡大または縮小します。
(6) 方向ボタン	PTZ カメラの焦点を調整して配置します。
(7) カメラ ID 窓	現在作動している PTZ カメラの番号を示します。
(8) カメラプリセット位置番号の保存	PTZ カメラプリセット位置番号を保存します。カメラを選択して、プリセット位置番号をクリックすると、保存されます。
(9) カメラレンズ速度コントローラー	PTZ カメラレンズの移動速度を調整します。
(10) カメラプリセット位置番号	PTZ カメラをプリセット位置へ移動させます。
(11) グループ自動パン	全 PTZ カメラを一つのグループとして自動的に作動させます。

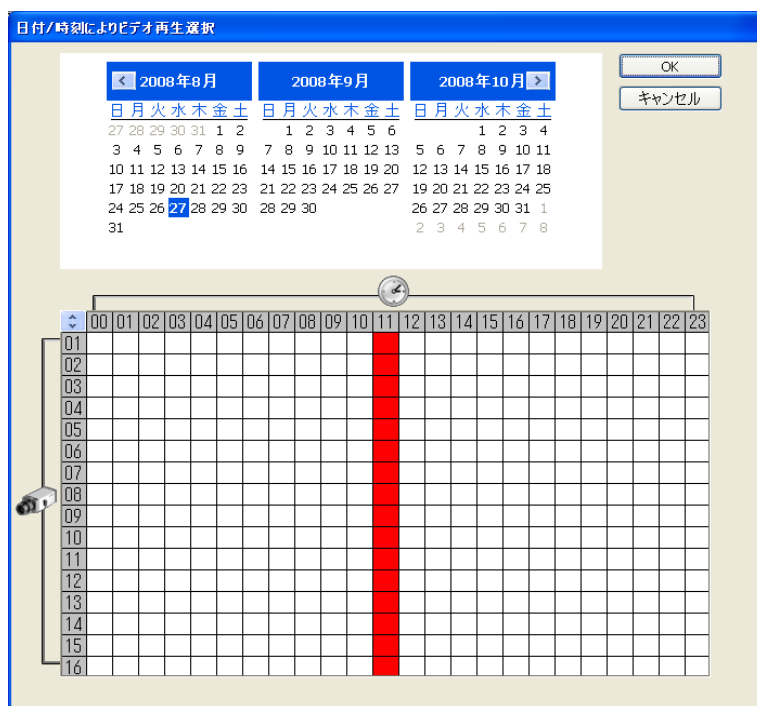
7.4 遠隔再生の使用法

この機能を使用するには、まず、ファイルのソースを選択する必要があります。再生モードの選択ダイアログボックスで、ローカル再生を選択すると、遠隔コンソールで録画されたファイルが開き、遠隔再生を選択すると、DVR サーバーで録画されたファイルが開きます。リモート再生を選択したときに、インターネットバンド幅が十分高速である場合にはリアルタイム再生を選択し、低速な場合にはダウンロードと再生を選択してください。

OK をクリックすると次に進み、キャンセルをクリックすると、この手順が終了します。

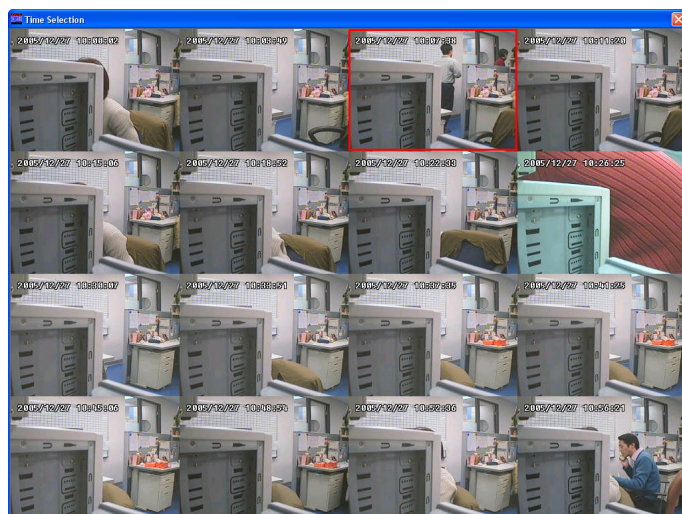


ビデオ再生の日付と時刻の選択で、00 から 23 までの数字は、24 時間時計を表わしています。01 から 16 までの数字は、カメラ番号を表わしています。

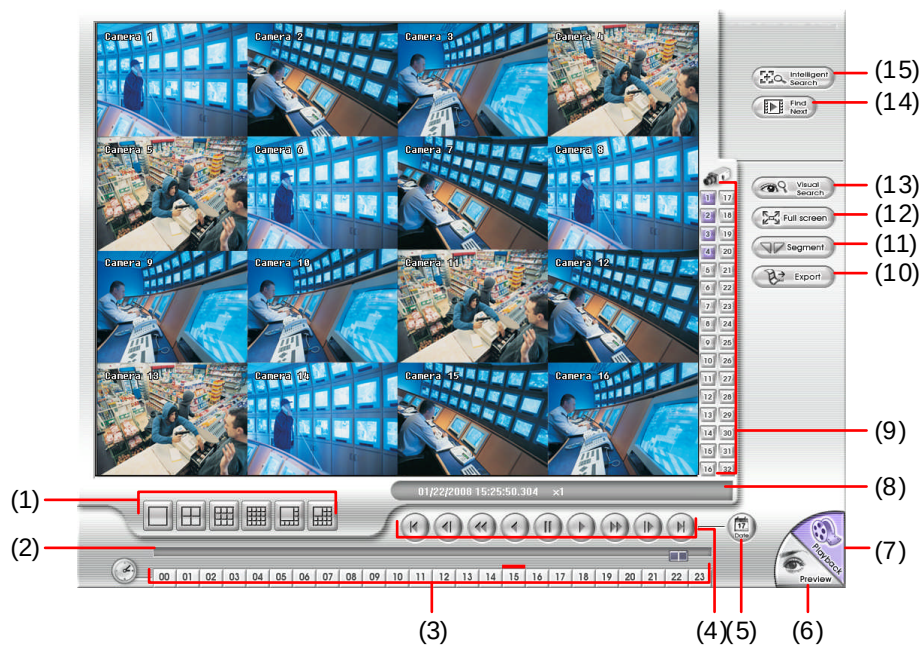


選択を行うには:

1. カレンダーで日付を選択します。◀ と ▶ のボタンで、カレンダーを左右に移動させることができます
2. 下の表で、青いブロックをクリックして録画ファイルを選択します。選択すると青いブロックが赤くなります。白いブロックはデータがないことを示しています。ダウンロードおよび再生を選択した場合には、一つのブロックのみを選択することができます。
3. OK をクリックすると次に進み、キャンセルをクリックすると、この手順が終了します。
4. この選択を行った後でダウンロードおよび再生を選択した場合には、システムは選択された時間を 16 のビデオサムネールに分割します。時間選択画面で、ダウンロードして開きたいビデオサムネールをクリックしてください(第 7.4.2 章も参照)。



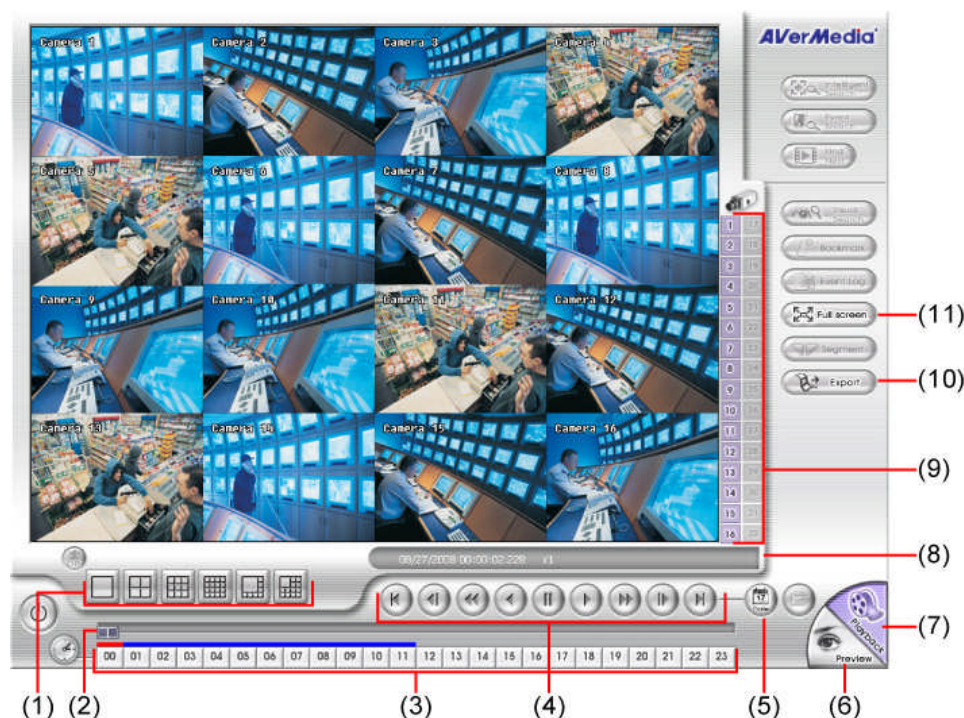
7.4.1 ローカル再生ボタンについて



名称	機能
(1) 分割画面モード	全カメラを表示する 6 種類の分割画面から選択したり、一つのカメラ画面の上に別の画面を重ねたり、一つの画面上に横に並べることができます。
	- カメラが 4 台しか接続されていない場合、9、16、13 の各カメラ分割画面表示に切り替えることはできません。 - 画面上の一部分を拡大するには、拡大したい部分の四角を右クリックしてドラッグしてください。
(2) 進行バー	再生中のビデオの進行状況を表示します。バーを動かせば、トラック内のどの位置にでも移動して検索することができます。
(3) 時間ボタン	これを選択してクリックすると、特定の時間枠で録画されたビデオファイルを再生することができます。
	時間ボタンは、24 時間制時計を表示します。時間ボタンの上にある青いバーは、その時間内にビデオが録画されていることを表しています。赤いバーは、その部分の録画済みビデオファイルが現在再生中であることを示しています。
(4) 再生コントロールボタン	開始: 録画済みビデオファイルの最初まで戻ります。 コマ戻し: 以前のフレームに戻ります。 スロー再生: 録画済みビデオファイルの再生速度を 1/2x、1/4x、1/8x に遅くします。 巻き戻し: 録画済みビデオファイルを巻き戻します。 一時停止: 録画済みビデオファイルの再生を一時停止します。 再生: 録画済みビデオファイルを再生します。 早送り: 録画済みビデオファイルの再生速度を 2x、4x、8x、16x、32x 倍速度で再生します。 コマ送り: 次のフレームに進みます。 終了: 録画済みビデオファイルの最後に進みます。
(5) 日付	録画済みビデオファイルの再生を開始する日付や時刻を、それぞれ、カレンダー、および、00 から 23 までの数字で選択します。
	00 から 23 までの数字は、24 時間時計を表わしています。01 から 16 までの数字は、カメラ ID を表わしています。青いカラムは、その時間内にビデオが録画されていることを表しています。赤いカラムは、録画済みビデオファイルの再生が始まる場所を示しています。
(6) プレビュー	プレビュー/詳細モードに切り替わります。
(7) 再生	再生モードに切り替わり、録画済みビデオファイルを見ることができます。
(8) 状態バー	録画した日付、時間、再生速度が表示されます。
(9) カメラ ID	現在表示されているカメラの番号を示します。単一画面モードの場合、カメラ ID 番号をクリックすると、別のカメラに切り替わります。

名称	機能
(10) エクスポート	エクスポートには、スナップショット、印刷、ビデオクリップ出力、バックアップ機能が含まれます。 ■ スナップショット: *.jpg または *.bmp フォーマットで、画面ショットを捕獲して保存します。 ■ 印刷: 画面ショットを印刷します。 ■ ビデオクリップ出力: *.mpg、*.avi または *.dvr フォーマットで、セグメント化したファイルを保存します(第 3.7 章も参照)。 ■ バックアップ: 再生ファイルを USB デバイスまたは DVD-ROM ディスクに保存します(第 4.6 章バックアップの設定も参照)。
(11) セグメント	録画済みビデオの必要な部分を保存します(第 3.7 章 も参照)。
(12) フル画面	再生コンパクトモードで表示されます。マウスの右ボタンを押すか、キーボードの ESC を押すと、元の画面に戻ります。 複数画面モードでフル画面に切り替える際に、左クリックすると、複数画面モードのビデオのいずれか一つ、またはそれら全部に、切り替えることができます。
(13) ビジュアル検索	特定のカメラで、日付、時刻、分、10 秒、秒で検索します(第 3.9 章 も参照)。
(14) 次を検索	次のイベントまたは動作検知器フレームの変更を検索します。インテリジェント検索やイベント検索機能でもこれを使用することができます。
(15) インテリジェント検索	動作検知器フレームの変更を検索します。(第 3.11 章 も参照)。
 ビジュアル検索およびインテリジェント検索は、リモートサイトがリモートローカルハードディスクで録画や再生を行っている場合にのみ利用することができます。	

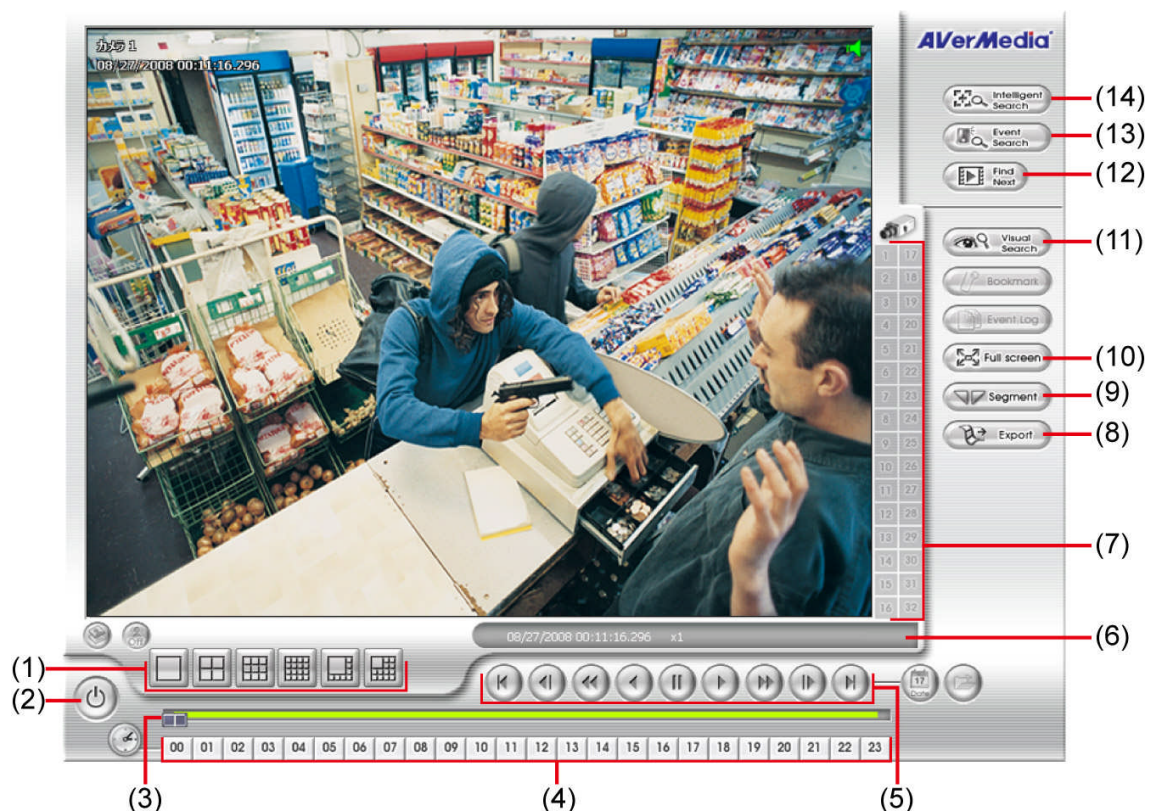
7.4.2 リアルタイム再生ボタンについて



名称	機能
(1) 分割画面モード	6種類の分割画面タイプの中から選択して、全カメラまたは1台のカメラの録画済みビデオを再生することができます。
- カメラが4台しか接続されていない場合、9、16、13の各カメラ分割画面表示に切り替えることはできません。 - 画面上の一部分を拡大するには、拡大したい部分の四角を右クリックしてドラッグしてください。	
(2) 進行バー	再生中のビデオの進行状況を表示します。バーを動かせば、トラック内のどの位置にでも移動して検索することができます。
(3) 時間ボタン	これを選択してクリックすると、特定の時間枠で録画されたビデオファイルを再生することができます。
時間ボタンは、24時間時計を表示します。時間ボタンの上にある青いバーは、その時間内にビデオが録画されていることを表しています。赤いバーは、その部分の録画済みビデオファイルが現在再生中であることを示しています。	
(4) 再生コントロールボタン	開始: 録画済みビデオファイルの最初まで戻ります。 コマ戻し: 1コマ前のフレームに戻ります。 スロー再生: 録画済みビデオファイルの再生速度を1/2x、1/4x、1/8xに遅くします。 巻き戻し: 録画済みビデオファイルを巻き戻します。 一時停止: 録画済みビデオファイルの再生を一時停止します。 再生: 録画済みビデオファイルを再生します。 早送り: 録画済みビデオファイルの再生速度を2x、4x、8x、16x、32x倍速度で再生します。 コマ送り: 次のフレームに進みます。 終了: 録画済みビデオファイルの最後に進みます。
(5) 日付	録画済みビデオファイルの再生を開始する日付や時刻を、それぞれ、カレンダー、および、00から23までの数字で選択します。
00から23までの数字は、24時間時計を表わしています。01から16までの数字は、カメラIDを表わしています。青いカラムは、その時間内にビデオが録画されていることを表しています。赤いカラムは、録画済みビデオファイルの再生が始まる場所を示しています。	
(6) プレビュー	プレビュー/詳細モードに切り替わります。
(7) 再生	再生モードに切り替わり、録画済みビデオファイルを見ることができます。
(8) 状態バー	録画した日付、時間、再生速度が表示されます。

名称	機能
(9) カメラ ID	現在表示されているカメラの番号を示します。単一画面モードの場合、カメラ ID 番号をクリックすると、別のカメラに切り替わります。
(10) エクスポート	エクスポートには、スナップショット、印刷、ビデオクリップ出力、バックアップ機能が含まれます。 ■ スナップショット: *.jpg または *.bmp フォーマットで、画面ショットを捕獲して保存します。 ■ 印刷: 画面ショットを印刷します。 ■ ビデオクリップ出力: *.mpg、*.avi または *.dvr フォーマットで、セグメント化したファイルを保存します(第 3.7 章も参照)。
(11) フル画面	再生コンパクトモードで表示されます。マウスの右ボタンを押すか、キーボードの ESC を押すと、元の画面に戻ります。 複数画面モードでフル画面に切り替える際に、左クリックすると、複数画面モードのビデオのいずれか一つ、またはそれら全部に、切り替えることができます。

7.4.3 ダウンロードと再生ボタンについて



名称	機能
(1) 終了	DVR プログラムを閉じるには終了をクリックします。
(2) 分割画面モード	全カメラを表示する 6 種類の分割画面から選択したり、一つのカメラ画面の上に別の画面を重ねたり、一つの画面上に横に並べることができます。
	- カメラが 4 台しか接続されていない場合、9、16、13 の各カメラ分割画面表示に切り替えることはできません。 - 画面上の一部分を拡大するには、拡大したい部分の四角を右クリックしてドラッグしてください。
(3) 進行バー	再生中のビデオの進行状況を表示します。バーを動かせば、トラック内のどの位置にでも移動して検索することができます。
(4) 時間ボタン	これを選択してクリックすると、特定の時間枠で録画されたビデオファイルを再生することができます。
	時間ボタンは、24 時間時計を表示します。時間ボタンの上にある青いバーは、その時間内にビデオが録画されていることを表しています。赤いバーは、その部分の録画済みビデオファイルが現在再生中であることを示しています。

名称	機能
(5) 再生コントロールボタン	開始: 録画済みビデオファイルの最初まで戻ります。 コマ戻し: 以前のフレームに戻ります。 スロー再生: 録画済みビデオファイルの再生速度を 1/2x、1/4x、1/8x に遅くします。 巻き戻し: 録画済みビデオファイルを巻き戻します。 一時停止: 録画済みビデオファイルの再生を一時停止します。 再生: 録画済みビデオファイルを再生します。 早送り: 録画済みビデオファイルの再生速度を 2x、4x、8x、16x、32x 倍速度にします。 コマ送り: 次のフレームに進みます。 終了: 録画済みビデオファイルの最後に進みます。
(6) 状態バー	録画した日付、時間、再生速度が表示されます。
(7) カメラ ID	現在表示されているカメラの番号を示します。単一画面モードの場合、カメラ ID 番号をクリックすると、別のカメラに切り替わります。
(8) エクスポート	エクスポートには、スナップショット、印刷、ビデオクリップ出力、バックアップ機能が含まれます。 ■ スナップショット: *.jpg または *.bmp フォーマットで、画面ショットを捕獲して保存します。 ■ 印刷: 画面ショットを印刷します。 ■ ビデオクリップ出力: *.mpg、*.avi または *.dvr フォーマットで、セグメント化したファイルを
(9) セグメント	録画済みにもビデオの一部分を保存します。 ■ 保存します。ビデオクリップを出力するには次の手順に従ってください。 - 再生コントロールボタンを使用するか、再生進行バー上のバーをドラッグして、切り取りを開始したい場所で一時停止させます。次に、セグメントをクリックして開始マークを設定します。  - 再生コントロールボタンを使用するか、再生進行バー上にバーをドラッグして、切り取りを終了したい場所で一時停止させます。次に、セグメントをクリックして終了マークを設定します。分割をキャンセルする場合や分割マークの設定を初めからやりなおしたい場合には、もう一度セグメントボタンをクリックします。  出力ボタンをクリックすると、必要な部分が保存されます。 「名前を付けて保存」ダイアログボックスでファイルを保存したいフォルダを見つけ、ファイル名を入力し、ビデオフォーマットを選択します。
(10) フル画面	再生コンパクトモードで表示されます。マウスの右ボタンを押すか、キーボードの ESC を押すと、元の画面に戻ります。 複数画面モードでフル画面に切り替える際に、左クリックすると、複数画面モードのビデオのいずれか一つ、またはそれら全部に、切り替えることができます。
(11) ビジュアル検索	特定のカメラで、日付、時刻、分、10 秒、秒で検索します(第 7.4.4 章 も参照)。
(12) 次を検索	次のイベントまたは動作検知器フレームの変更を検索します。インテリジェント検索やイベント検索機能でもこれを使用することができます。
(13) イベント検索	システムで記録されたアクティビティ(センサー、動作、ビデオ消失、POS など)を検索します(第 7.4.5 章 も参照)。
(14) インテリジェント検索	動作検知器フレームの変更を検索します。(第 7.4.6 章も参照)。

7.4.4 ビジュアル検索を使用して検索する

1. ビジュアル検索をクリックします。
2. ビジュアル検索設定ダイアログボックスで、カメラ番号と日付を選択し、OK をクリックします。

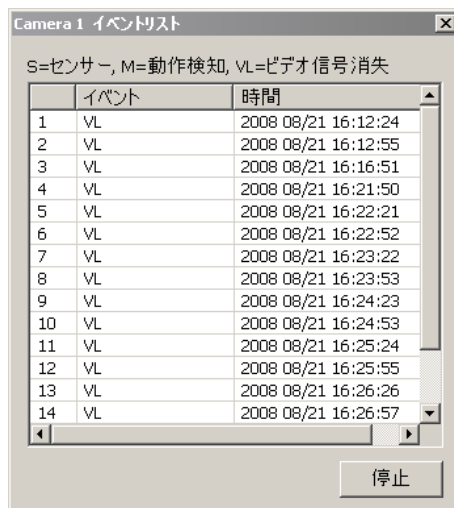


3. 日付順に一連のフレームが表示されているときに、フレームをクリックすると、別の一連のフレームが表示されますので、1日のうちで1時間ごとに、その1時間内で1分ごとに、その1分間で10秒ごとに、その10秒間で1秒ごとに、検索を行います。前に戻るには をクリックします。選択したフレームから表示させたり、イベント検索を終了するには、 をクリックします。



7.4.5 イベント検索を使用して検索する

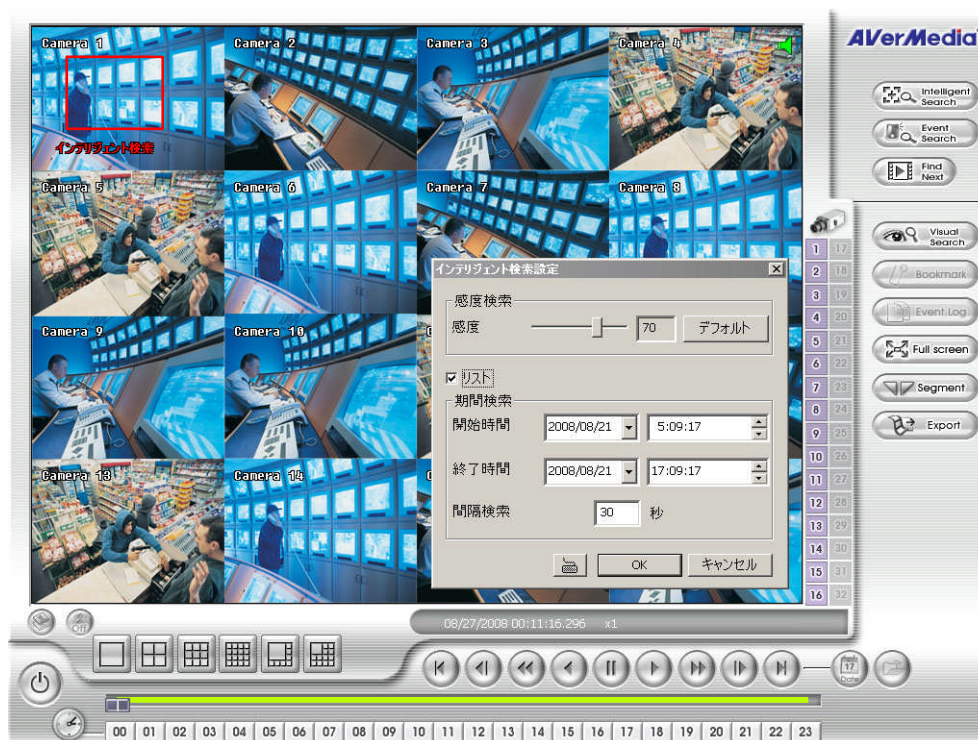
1. ビデオ画面上で、検索したい部分をクリックします。
2. イベント検索をクリックします。画面の左下に、イベント検索テキスト(赤)が表示されます。
3. イベント検索設定ダイアログボックスで、検索したい条件タイプにチェックマークを入れます。POS を選択した場合、「テキストの検索」ボックスにテキストをタイプし、OK をクリックすると検索が開始されます。条件に一致したフレームでビデオ検索が停止します。検索を継続するには、 をクリックします。
4. 検索を行って検索結果を列記させることもできます。その場合は、出力イベントリストボックスにチェックマークを入れてください。「検索期間」セクションで、開始時刻、終了時刻、検索間隔を設定し、OK をクリックすると検索が開始されます。



5. イベントリストが表示されたら、表示させたい項目を選択してクリックしてください。

7.4.6 インテリジェント検索を使用して検索する

1. ビデオ画面上で、検索したい部分をクリックします。
2. **インテリジェント検索**をクリックします。画面の左下に、インテリジェント検索テキスト(赤)が表示されます。
3. インテリジェント検索設定ダイアログボックスと動作検知器フレームが表示されたら、感度バーと動作検知器フレームサイズとその位置を調整することができます。動作検知器フレームサイズとその位置を設定するには、左クリックして画面内へドラッグします。次に **OK** をクリックすると検索が開始されます。条件に一致したフレームでビデオ検索が停止します。検索を継続するには、 をクリックします。
4. 検索を行って検索結果を列記させることもできます。その場合は、リストボックスにチェックマークを入れてください。「検索期間」セクションで、**開始時刻**、**終了時刻**、**検索間隔**を設定し、**OK** をクリックすると検索が開始されます。



7.5 DVR サーバーにアクセスするためのハンディビューアーHandyViewerの使用法

携帯電話を使用して、インターネットを介して DVR にアクセスすることができます。使用中の携帯電話が Internet Explorer ブラウザをサポートし、インターネットに接続されていることを確認してください。DVR サーバーにアクセスするには、Internet Explorer を開き、http://(サーバーIP またはドメイン名をここに記入)/mobile を入力します。最新画面ショットを見ることができます。<< >>をクリックするとチャンネルやカメラを変更でき、更新をクリックすると新しい画面ショットを再ロードすることができます。

7.6 DVR サーバーにアクセスするための PDA ビューアーの使用法

PDA を使用しても、インターネットを介して DVR にアクセスすることができます。使用中の PDA が Internet Explorer ブラウザをサポートし、インターネットに接続されていることを確認してください。この機能を使用するには、ActiveSync 接続を介して PDAViewer ソフトウェアをインストールするか、インターネットからそれをダウンロードする必要があります。使用中の PDA が下記の 2 つの条件を満たすことを確認してください。

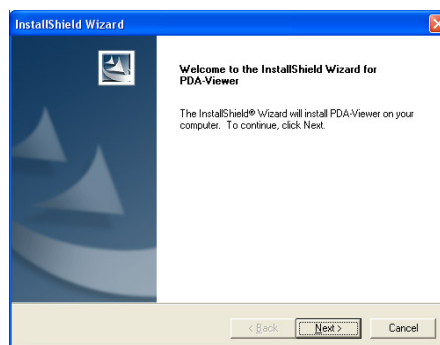
OS: MS Windows CE 4.0, PocketPC 2002/2003, Mobile 5 PDA バージョン
CPU: ARM アーキテクチャ

7.6.1 ActiveSync を介して PDA ビューアーをインストールする

1. コンピューターに PDA を接続します。CD-ROM に CD を入れ、「PDAViewer をインストール」をクリックします。画面に表示される指示に従ってください。



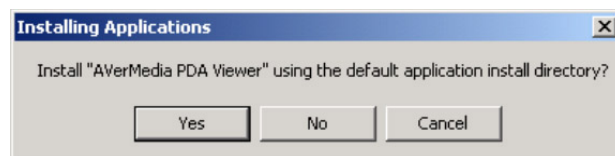
2. 次へをクリックして続けます。



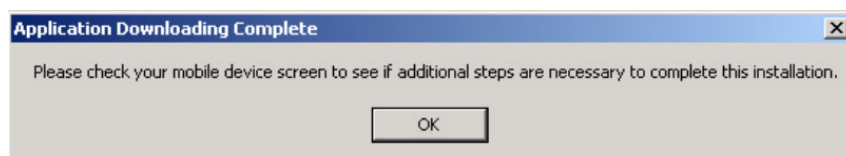
3. ライセンス同意書を読み、条項にすべて同意したら、はいをクリックします。すると、システムは自動的にアプリケーションをインストールします。



4. このプロンプトが表示されたときにははいをクリックすると、初期設定ディレクトリにアプリケーションがインストールされます。

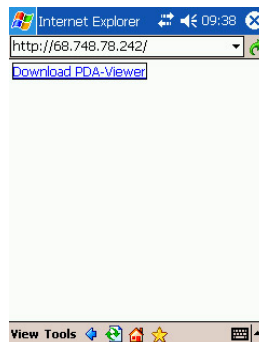


5. 完了したら OK をクリックします。



7.6.2 インターネットから PDA ビューアーをインストールする

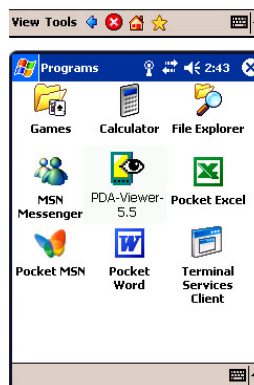
1. インターネットに接続されていることを確認します。
2. ウェブブラウザを開き、サーバーIP を入力し、ハイパーリンク「PDA ビューアーをダウンロードする」をクリックします。



3. ダウンロードダイアログボックスが表示されたら、「ダウンロード後にファイルを開く」にマークをいれ、はいをクリックします。

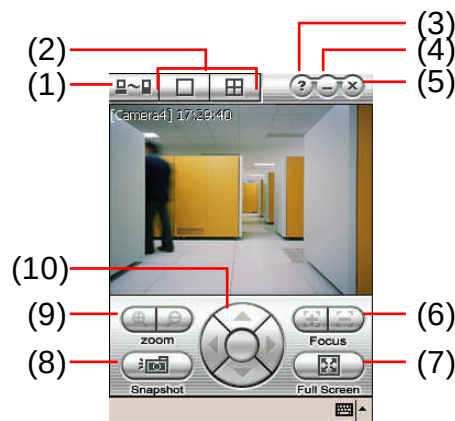


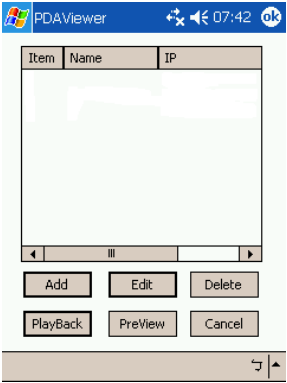
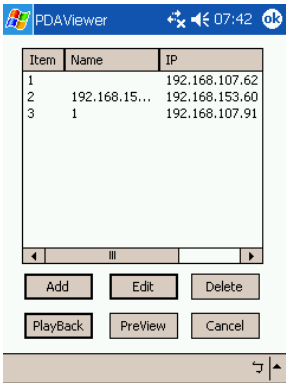
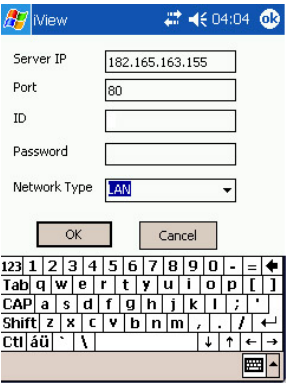
4. インストールが完了すると、プログラムリストに PDA-Viewer 5.5 アイコンが表示されます。



7.6.3 PDA ビューアーを使用する

1. プログラムで PDA-Viewer 5.5 を実行します。
2. PDA ビューアーボタンの使い方に慣れましょう。



名称	機能
(1) 接続	SA DVR サーバーに接続します。インターネットに接続されていることを確認してください。iView 画面が表示されたら、追加をクリックして DVR サーバーを追加します。  サーバーIP、ポート、ユーザーID、パスワードを入力し、接続タイプを選択して、OK をクリックします。  PDAViewer でリモート DVR サーバーから録画済みビデオを再生することができます(第 7.6.4 章を参照)。
(2) 分割画面モード	2 種類の分割画面タイプの中から選択します。また、別のカメラ番号や別のチャンネルを見るように切り替えることもできます。.
(3) バージョン情報	PDA ビューアーのバージョン情報を表示します。
(4) 最小化	サイズをタスクバーの大きさまで縮小します。
(5) 終了	PDA ビューアーを閉じます。
(6) ピント	画像がはっきりに写るように、PTZ カメラのピントを調整します。
(7) フル画面	画面全体を使用して、ビデオのみが表示されます。
(8) スナップショット	画面ショットを捕獲して、*.bmp フォーマットで保存します。

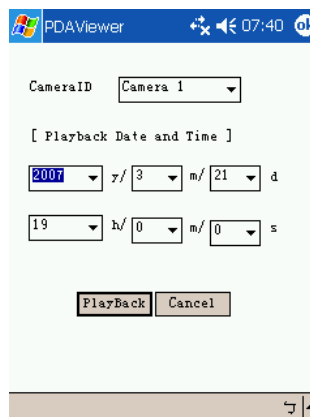
名称	機能
(9) ズーム	PTZ カメラの画像を拡大または縮小します。
(10) 方向ボタン	PTZ カメラの焦点を調整して配置します。

3. ビデオの画質を変更したり、音声を起動または解除したり、別のカメラからの画像を選択するには、ビデオ画面を長めに押すと、ポップアップメニューが表示されます。

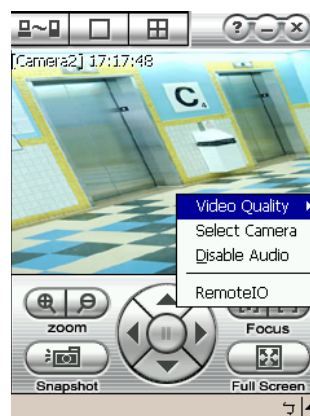


7.6.4 PDAビューアー で再生する

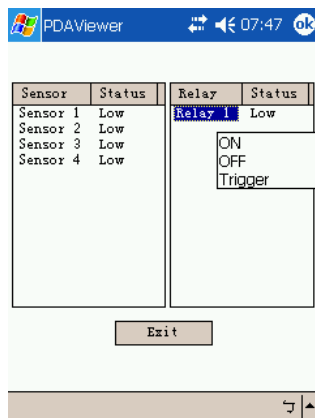
1. プログラムで PDA ビューアー を実行します。
2. SA DVR サーバーに接続します。
3. 接続アイコンをクリックして、DVR サーバーを選択します。
4. 再生をクリックして、再生オプション画面に進みます。
5. カメラ、データ、時刻を選択します。
6. 再生をクリックして、録画済みビデオを再生します。



7. 再生中に、I/O デバイスの状態を確認したりそれを変更することができます。
8. 再生画面でビデオ画面を長めに押すと、ポップアップメニューが表示されます。
9. リモート IO を選択します。



10. 下記のように、センサーとリレーデバイスが表示されます。



11. リレーの状態を変更することができます。リレーを選択し、再生画面でビデオ画面を長めに押すと、ポップアップメニューが表示されます。次に、状態(ON、OFF、トリガー)を選択します。

7.6.5 DVR サーバーにアクセスするための Java ビューアーの使用法

Symbian Smart Phone OS をインストールした携帯電話を使用して、インターネットを介して DVR にアクセスすることができます。使用中の携帯電話が Symbian Smart Phone OS をサポートし、インターネットに接続できることを確認してください。この機能を使用するには、JAVA ビューアープログラムをインストールする必要があります。これは、インターネットを介して DVR サーバーからダウンロードすることができます。

DVR サーバーから JAVA ビューアーをインストールするには、

1. ウェブブラウザを開いて、DVR サーバーIP([http://DVR_サーバーIP: ポート/JAVA-Viewer.html](http://DVR_サーバーIP:ポート/JAVA-Viewer.html))を入力し、**接続**をクリックします。
2. ダウンロード画面が表示されたら、**JAVA-Viewer.jad** を選択し、携帯電話にダウンロードします。
3. インストールが完了すると、携帯電話で JAVA-Viewer が使用可能になります。JAVA-Viewer の場所を見つけるには、携帯電話の取扱説明書を参照してください。

7.6.6 JAVA ビューアーを使用する

1. JAVA ビューアープログラムを実行します。
2. DVR IP アドレス、ポート番号、ユーザーID、パスワードを入力します。それに関する情報は、DVR サーバーの設定を参照してください。
3. 次に接続を選択して、DVR サーバーに接続します。
4. はいをクリックして、DVR サーバーからデータを受け取ります。
5. 接続が成功すると、画面にカメラからのビデオが表示されます。
6. 別のカメラからの画面に切り替えるには、メニューを選択してチャンネルを選択します。
7. JAVA ビューアー サポート PTZ 制御機能については、詳細機能コントロールキーのヘルプファイルを参照してください。メニューを選択してスクロールし、ヘルプファイルを選択します。



第8章 画像検証

画像検証は、保存された画像(スナップショットなど)が真正であることを証明する、ウォーターマーク確認プログラムです。このプログラムは、未圧縮 BMP 画像ファイルのみを検証することができます。

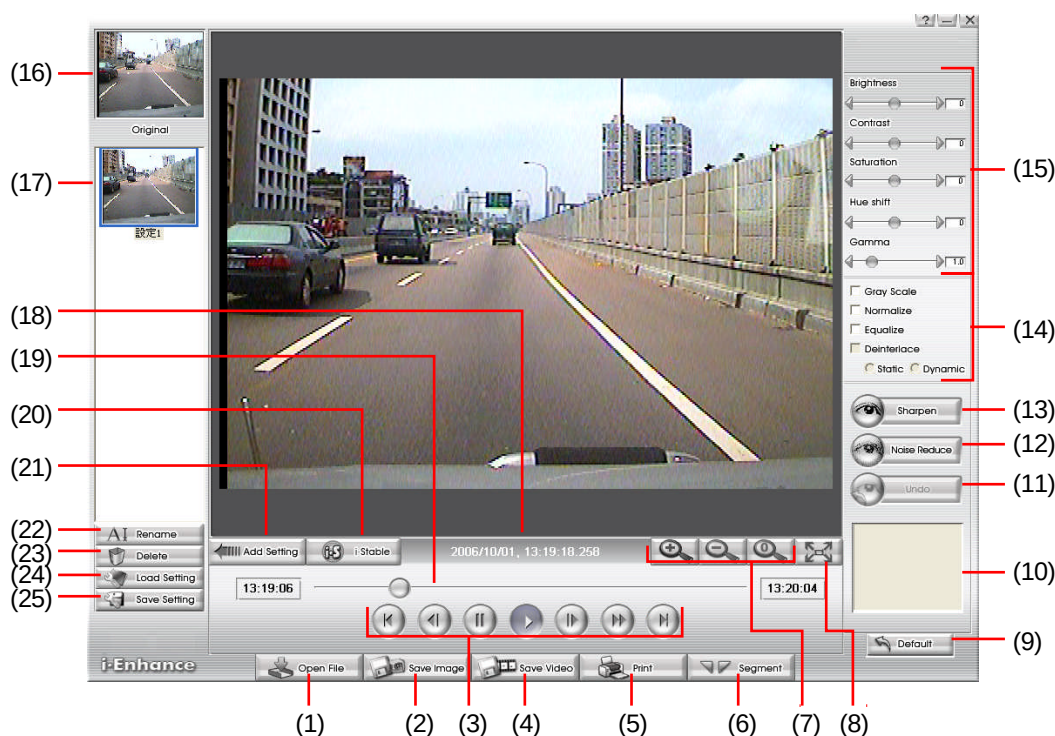
8.1 画像検証プログラムを実行する

1. スタート>プログラム>DSS>画像検証を順にクリックします。
2. 画像検証画面で、ソース画像をロードするをクリックし、画像ソースを見つけます。
3. 画像を検証するをクリックすると、検証プロセスが開始されます。
4. 処理済画像の画面で結果を確認してください。画像が改変されていない場合、ソース画像と処理済画像の画面はまったく同じになります。画像が改変されている場合、警告ダイアログボックスが表示され、改変された部分がハイライトされます。



第9章 iEnhance

同梱ソフトウェアの iEnhance は、*.dvr ビデオファイルにのみ使用できるビデオ編集ツールです。ビデオの画質を調整し、ビデオ内の必要な部分を保存し、画像の拡大や縮小を行い、画面ショットを印刷したり保存することができます。また、設定を保存して、それを他のファイルに適用することもできます。



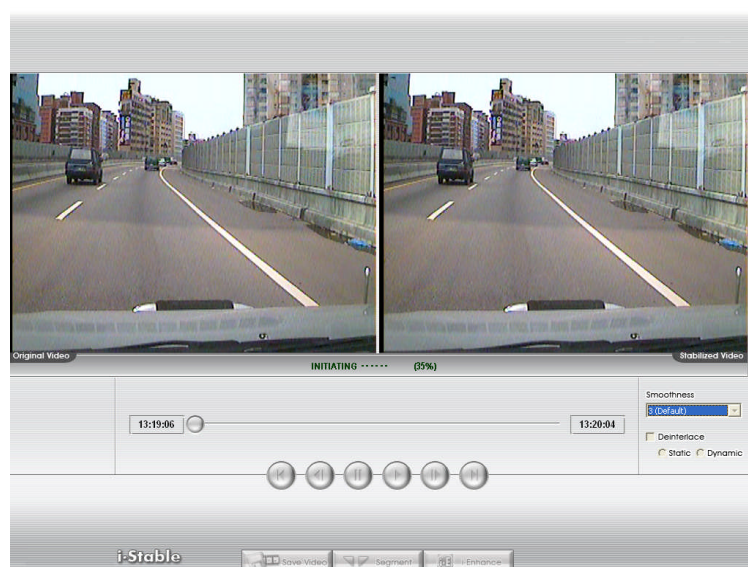
名称	機能
(1) ファイルを開く	*.dvr ビデオファイルにアクセスします。
(2) 画像の保存	*.bmp フォーマットで、画面ショットを捕獲して保存します。
(3) 再生コントロール ボタン	開始: ビデオファイルの最初まで戻ります。 コマ戻し: 以前のフレームに戻ります。 一時停止: ビデオファイルの再生を一時停止します。 再生: ビデオファイルを再生します。 早送り: ビデオファイルを高速で再生します。 コマ送り: 次のフレームに進みます。 終わり: ビデオファイルの最後に進みます。
(4) ビデオの保存	編集したビデオやセグメントに分割されたビデオを*.avi フォーマットで保存します。
(5) 印刷	画面ショットを印刷します。
(6) セグメント	ビデオ内の必要な部分の初めと終わりの部分にマークを付けます。スライダー上に三角マークが 2 個表示されます。セグメント分割をキャンセルするには、このボタンをもう一度クリックしてください。
(7) ズームボタン	画像を拡大縮小したり通常のサイズに戻します。
(8) フル画面	画面全体にビデオのみが表示されます。
(9) 初期設定	ビデオを元の状態に戻し、履歴ボックスにある変更点をすべて削除します。
(10) 履歴ボックス	行った操作がすべて列記されています。
(11) 元に戻す	最後に行った操作を元に戻します。
(12) 雑音低減	画質のソフトな部分を調整し、損傷した色を修復します。
(13) シャープネス	画像の端をシャープにして画像全体を改善します。これにより、画像に深みが出てきます。
(14) 効果	● グレースケール: 画像を白黒(モノクロ)画面に変換します。 ● 正規化: 輝度を調整します。 ● イコライズ: 暗すぎる画面を自動的に調整します。 ● インターレース除去: フレームの重なりを滑らかにします。 ● 静止: 動きのないシーンのインターレース解除です。 ● ダイナミック: 動きのあるシーンのインターレース解除です。
(15) 画質調整	明るさ、コントラスト、彩度、色合い、ガンマを調整します。

名称	機能
(16) 元の画面	画像の元の状態を表示します。
(17) 一時的設定ブロック	サンプル設定を表示します。サンプルをクリックして、現在のビデオに設定を適用します。
(18) 状態バー	ビデオの日付と時刻が表示されます。
(19) 進行バー	再生中のビデオの進行状況を表示します。バーを動かせば、トラック内のどの位置にでも移動して検索することができます。
(20) iStable	録画済みビデオのゆれを軽減します(第 9.1 章も参照)。
(21) 設定の追加	一時的設定ブロックに新しい設定を追加します。
(22) 名称変更	一時的設定ブロックで、選択した設定の名称を変更します。
(23) 削除	一時的設定ブロックで、選択した設定を永久に削除します。
(24) 設定のロード	保存した設定を呼び戻します。
(25) 設定の保存	一時的設定ブロックにある設定を保存します。

9.1 iStable を使用する

iStable は、録画済みビデオのゆれを軽減する機能を有しています。

1. **ファイルを開く** ボタンをクリックして、録画済みビデオを選択します。
2. 次に **iStable** ボタンをクリックします。
3. iStable ウィンドウが表示されます。
4. **滑らかさレベル** を選択します(1(低)、2、3、4、5(高))。初期設定値は 3 です。
5. **再生** ボタンをクリックします。すると、i-Stable 機能が録画済みビデオの初期化を開始します。
6. 初期化が終了すると、元のビデオと安定化されたビデオが、2 つのウィンドウで再生されます。



第10章 ウェブツール

同梱のウェブツールには、ディスパッチサーバーとリモートバックアッププログラムが含まれています。ウェブツールをインストールするには、CD-ROMドライブに CD を入れ、ウェブツールのインストールをクリックして、画面に表示される指示に従ってください。

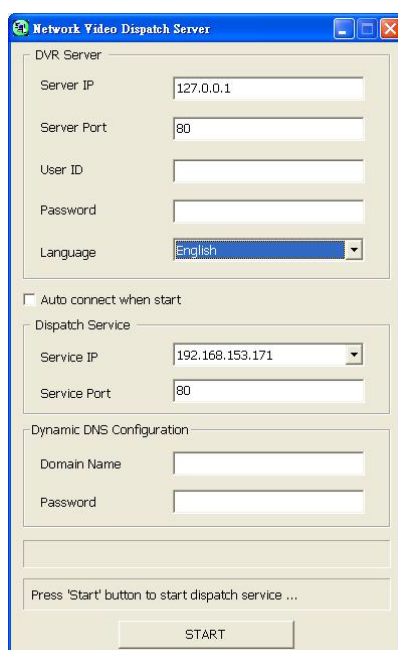


10.1 ディスパッチサーバー

ディスパッチは、DVR サーバーのトラフィックを低減するよう設計されています。クライアントは、ディスパッチプログラムを使用することにより、DVR サーバーに直接接続する代わりに、DVR サーバーに接続されているコンピューターに接続することができます。

ディスパッチプログラムを実行する:

1. インターネットに接続されていることを確認します。
2. **スタート>プログラム>DSS>ツール>ディスパッチ** の順にクリックします。
3. DVR サーバーセクションで、DVR サーバーIP、ポート番号、ユーザーID、パスワードを入力します。また、希望の言語で表示するように選択することもできます。
4. **起動時の自動接続**
起動時にディスパッチサーバーに自動的に接続することができます。
5. 2 つ以上のネットワークカードがインストールされている場合、**ディスパッチサービスのセクション**で、サービス IP 番号を選択してください。
6. **ダイナミック DNS コンフィギュレーション**のセクションで、DNS サーバー名とパスワードを入力します。DNS サーバーは、DVR システムローディングを共用するためのリモートストレージサーバーにすることもできます。
7. **開始**をクリックして接続します。

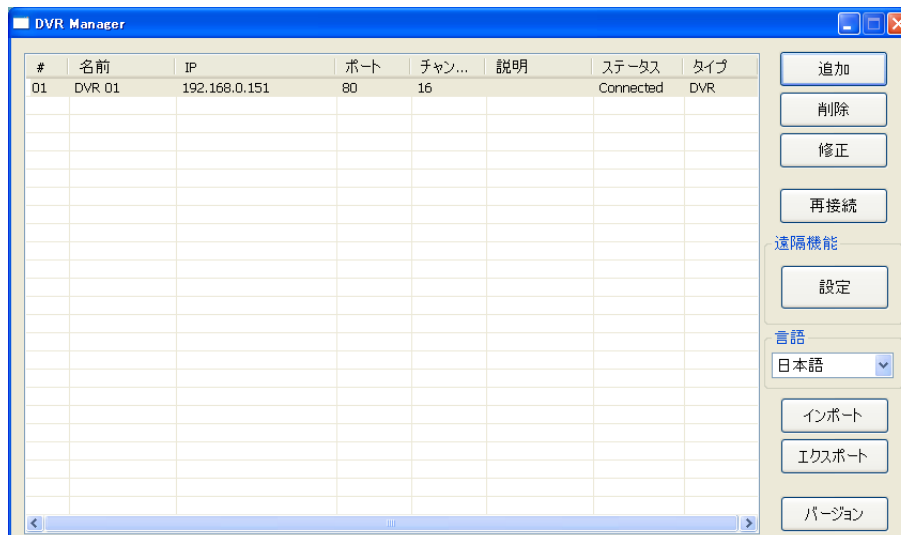


10.2 リモート設定

リモート設定は、遠隔地から DVR サーバーのコンフィギュレーションするためのツールです。リモート設定アプリケーションをインストールするには、CD-ROM ドライブに CD を入れ、**ウェブツール**をクリックします。インストール後に  をクリックすると、リモート設定アプリケーションが起動します。

10.2.1 DVR サーバーを追加する

リモート DVR サーバーを設定するには、DVR サーバーを追加して接続する必要があります。



1. **追加**をクリックします。
2. DVR の編集ウィンドウで、以下の各項目を記入します。:
 - **名前**: 管理しやすいように、リモート DVR サーバーに名前を付けてください。
 - **IP**: リモート DVR サーバーの IP アドレスを記入します。
 - **ポート**: リモート DVR サーバーへの接続に使用するポート。ポート番号は、リモート DVR サーバーの WebViewer ポートと同じです。初期設定値は 80 です。
 - **ユーザーID**: リモート DVR サーバーのログインアカウントを記入します。
 - **パスワード**: リモート DVR サーバーのログインパスワードを記入します。
 - **説明**: リモート DVR サーバーに関する短い説明文を記入します。

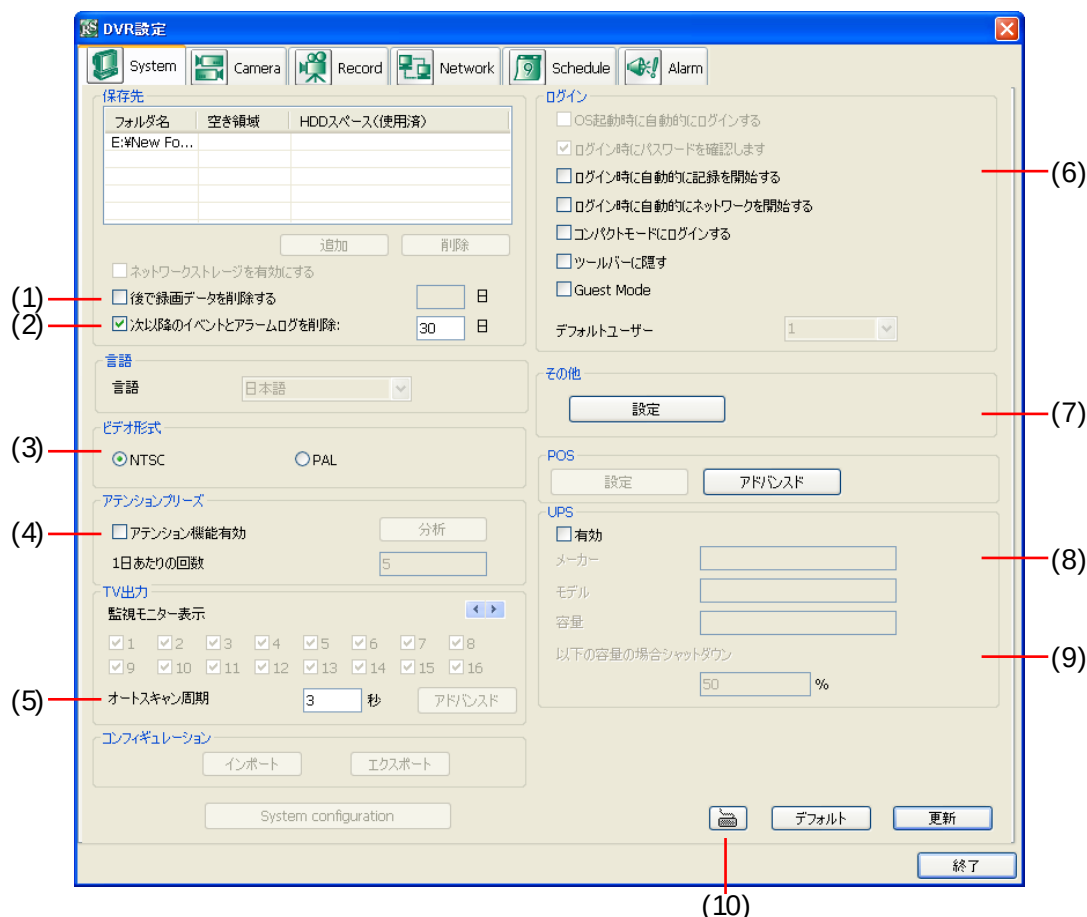
3. **OK** をクリックすると、リモート DVR サーバーの追加作業が完了します。
4. 追加した DVR サーバーが列記され、DVR サーバーに自動的に接続されます。
5. 接続が成功すると、DVR サーバーのコンフィギュレーションを開始することができます。
6. 接続が解除されたら、**再接続**をクリックしてもう一度接続してください。
7. 追加した DVR サーバーを変更したり削除する場合、リストから DVR サーバーを選択して、**変更**をクリックすると DVR サーバーを変更することができ、**削除**をクリックすると DVR サーバーを削除することができます。
8. **インポート**ボタンをクリックすると、設定をインポートすることができます。ローカルハードディスクに設定を保存するには、**エクスポート**ボタンをクリックします。

10.2.2 リモート DVR サーバーを設定する

リストから DVR サーバーを選択して**設定**をクリックすると、リモート DVR サーバーをコンフィギュレーションすることができます。

10.2.2.1 システムの設定

システム設定ウィンドウで**更新**をクリックすると新しい設定が保存され、**終了**をクリックすると設定が保存されずに終了し、**初期設定**をクリックすると工場設定に戻ります。



(1) … 日後の録画データを削除する

ある日数後にシステムにデータを自動的に削除させたい場合、… 日後に記録したデータを削除するのボックスにチェックを入れ、日数のテキストボックスに日数を入力します。

(2) 次以降のイベントとアラームログを削除する

ある日数後にシステムにイベントファイルやアラームログファイルを自動的に削除させたい場合、次以降のイベントとアラームログを削除するのボックスにチェックを入れ、日数のテキストボックスに日数を入力します。

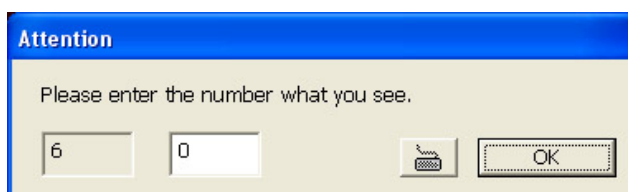
(3) ビデオ形式

使用しているカメラビデオシステムに応じてビデオ形式を選択して変更してください。ビデオ形式の設定が間違っていると、画面が正しく表示されません。

(4) アテンションブリーズ

システムの監視者がどの程度注意を払っているかを確認することができます。1 日の回数のテキストボックスで、1 日にアテンションダイアログボックスを表示させる回数を設定することができます。

この機能を作動させると、アテンションのダイアログボックスが表示されます。システムの監視者は、左のテキストボックスに表示されているのと同じ数字を右のボックスに記入して、OK をクリックしなければなりません。



(5) TV 出力

次のカメラに切り替わるまでの時間として、3～10 秒の時間のギャップを設定します。

(6) ログイン

システムに自動的に実行させたいログインセクションの条件を可能にします。

- **ログイン時の自動録画**
DVR システムを実行したときに、自動的にビデオ録画を開始します。
- **ログイン時の自動ネットワーク起動**
DVR システムを実行したときに、自動的にネットワークに接続します。
- **コンパクトモードへのログイン**
DVR システムを実行したときに、直接コンパクトモードに切り替わります。
- **ツールバーに隠す**
DVR システムを実行したときに、最小化して自動的にツールバーに隠します。
- **ゲストモード**
DVR システムを実行したときに、自動的にゲストモードにログインします。ゲストモードだと、使える機能はレビューと再生のみです。

(7) その他

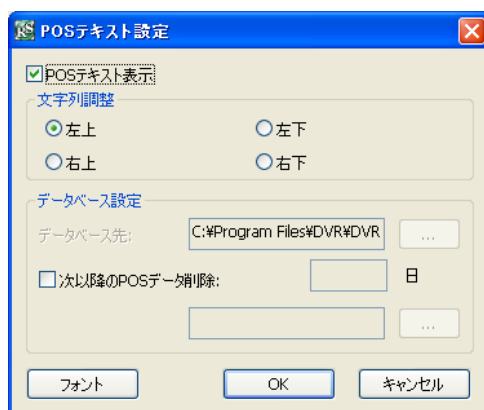
その他のセクションでは、システムにどんな状態を実行させたいかを選択することができます。

- **信号がない場合のビープ音**
ビデオ信号が消失すると、警告音が出ます。
- **必ず録画する**
ソフトウェアの実行中は常にビデオが録画されます。
- **再生モード**
ビデオの再生モードを選択します。
 - 日付と時刻の選択:** 再生させたい日付と時刻を選択します。
 - 最後のファイルを再生:** 最後の 1 時間分のビデオを自動的に再生します。
 - インスタント再生:** たった今録画したビデオを再生します。
- **日付フォーマット**
日付と時刻の選択再生モードで表示させたい日付フォーマットを選択します。
- **自動スキャン時間**

自動スキャン機能の時間的ギャップを、3 秒から 10 秒の間で設定します。設定した時間ギャップに応じて、自動的に次のビデオに順々に切り替わります。

(8) POS

どのカメラ画面から POS 装置のデータを表示させるかを設定します。テキストフローやカラーフォーマットを設定するには、**詳細**をクリックします。



(9) UPS (無停電電源装置)

電圧サージや電圧低下などからシステムを保護します。これによって、バッテリー容量がパーセントレベル設定以下になってバッテリーバックアップ電源がシャットダウンに達するまで、自動的に DVR システムを適切な方法で終了する程度の時間が与えられます。

コンピューターには、UPS 装置が接続されている必要があります([第 4.1.2 章](#)も参照)。



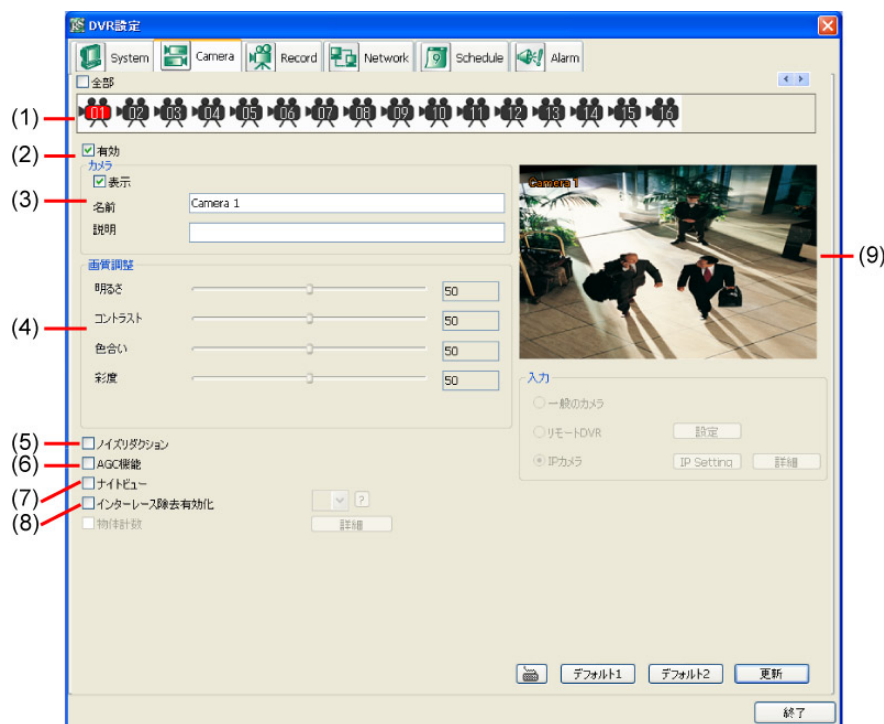
UPS アプリケーションが Windows 2000 または Windows XP システムの条件を満たしている必要があります。

(10) バーチャルキーボード

外部キーボードが使用できない場合、バーチャルキーボードを使用することができます。をクリックするだけでバーチャルキーボードが表示されます。大文字と小文字を切り替えるには、シフトボタンをクリックしてください。

10.2.2.2 カメラの設定

リモート DVR サーバーからカメラを選択して設定を変更します。カメラ設定ウィンドウで、**更新**をクリックすると新しい設定が保存され、**終了**をクリックすると保存せずに終了し、**初期設定 1 / 初期設定 2**をクリックすると元の工場出荷時の設定に戻ります。



(1) カメラアイコン

ビデオ設定を調整したいカメラ番号を選択します。全部のカメラを選択するには、**全部**のボックスにチェックを入れます。2 台以上のカメラを選択する場合、カメラアイコンを右クリックします。カメラを 1 台だけ選択する場合、カメラアイコンを左クリックします。選択されると、カメラアイコンが赤くなります。

(2) 有効

選択したカメラの起動または解除を設定します。カメラにビデオソースがない場合、システムがビデオ消失エラーを検出しないように、そのカメラを解除することをお勧めします。

(3) カメラ

- 表示

ビデオの表示を作動または解除します。選択されたカメラのビデオが隠されていても、ビデオを録画して、再生モードでプレビューすることができます。

- 名前

カメラの名前を変更します。

- 説明

短いコメントを追加します。

(4) 画質調整

選択されたカメラの明るさ、コントラスト、彩度、色合いを調整します。

(5) ノイズリダクション

不要なビデオ信号部分を低減して、画質を向上させます。



ノイズリダクションでは、多くの CPU リソースを使用するため、本当に必要な場合にのみ使用してください。

(6) 明るさの自動調整

明るさを自動的に調整します。

(7) 夜間撮影

特に撮影現場が暗いときに露出を自動的に調整することで、画像が見やすくなります。この機能は、**明るさの自動調整**が作動しているときにのみ、起動することができます。

(8) ビデオサイズ

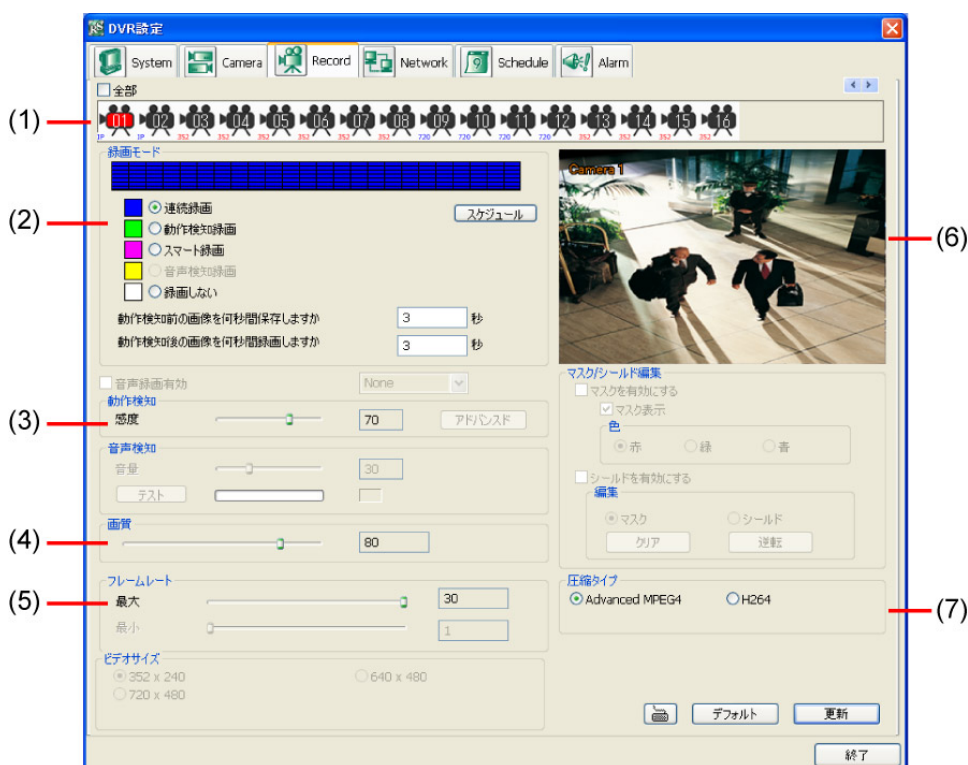
インターレース除去有効化を実行すると画質が向上します。動きがない画面が多い場合には、**インターレース除去有効化モード#1**に設定し、動きの画面が多い場合には、**インターレース除去有効化モード#2**に設定してください。

(9) ビデオ画面

選択されたカメラのビデオを表示します。

10.2.2.3 録画の設定

録画設定ダイアログボックスで、**終了**をクリックすると新しい設定が保存され、**終了**をクリックすると保存せずに終了し、**初期設定**をクリックすると元の工場設定に戻ります。



(1) カメラアイコン

録画設定を行いたいカメラ番号を選択します。全部のカメラを選択するには、すべてのボックスにチェックを入れます。2 台以上のカメラを選択する場合、カメラアイコンを右クリックします。カメラを 1 台だけ選択する場合、カメラアイコンを左クリックします。選択されると、カメラアイコンが赤くなります。

(2) 録画モード

00 から 23 までのブロックは、24 時間時計の各時間を表しています。24 時間全てを録画するには、録画モードを選択して **0** ボタンをクリックします。特定の時間のみを録画したい場合には、録画モードの横にある色の付いたブロックをクリックしてから、時間ブロックをクリックします。システムが録画を開始すると、画面の左上に赤い三角マークが表示されます。録画モードは以下の通りです。

- **常時録画**
選択されたカメラからビデオを録画して、指定の保存パスに保存します。
- **動作検知録画**
システムが動きを検知したときにのみ、選択されたカメラからビデオの録画が開始されます。動きを検知すると、システムは自動的に以前のフレームを保存して、**録画開始時刻**と**録画終了時刻**の各設定を元に停止します。
- **スマート録画**
動きを検知すると自動的に最大フレームレート設定に切り替わり、動きがないと最小フレームレート設定で録画されます。**(5) フレームレート**のセクションで、最大および最小フレームレートを設定してください。
- **録画しない**
システムは録画を行いません。

(3) 動作検知

動作検知器の感度を調整します。この値が高いほど高い感度で検出されます。システムが動きを検出すると、画面の左上に緑の三角マークが表示されます。

(4) 画質

ビデオの画質を調整します。この値が高いほど圧縮レベルが低くなり、ハードディスクの使用スペースが増加します。

(5) フレームレート

動きがある場合と動きがない場合の録画における最大および最小フレームレートを設定します。フレームレートは、NTSC では 1 から 30 まで、PAL では 1 から 25 まで設定できます。フレームレートが多いほど、ハードディスクの使

用スペースが増加します。

(6) ビデオ画面

選択されたカメラのビデオを表示します。

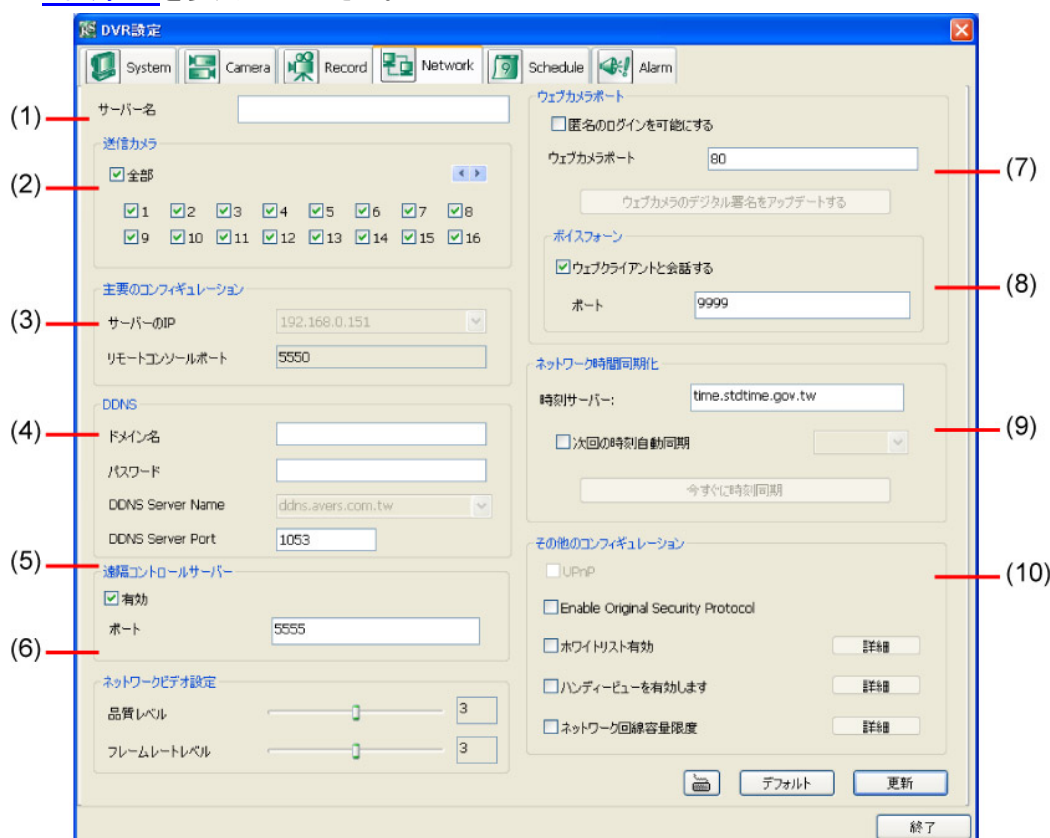
(7) 圧縮タイプ

下表を参照して、DVR がどんな圧縮タイプをサポートするかを確認してください。H264 は最新の高度ビデオ圧縮フォーマットで、ビデオの画質が高く、ファイルサイズも小さくなりますが、多くの CPU リソースを使用します。高度 MPEG4 と MJPEG は、両方とも標準カラー画面圧縮率を採用しています。MPEG4 は高圧縮率を採用し、ファイルサイズが小さくなります。一方、MJPEG の圧縮率はわずかに小さいため、ファイルサイズが大きくなります。

	MPEG4	MPEG 4 暗号化	H264	MJPEG
SA5000 シリーズ	✓	✓	✓	✓
SA6000E シリーズ	✓	✓	✓	
SA6000E Pro シリーズ	✓	✓		
SA9000E Pro	✓			
SA6000E RACK	✓	✓	✓	
SA6032E RACK	✓	✓	✓	
SA7000H シリーズ			✓	

10.2.2.4 ネットワークの設定

ネットワーク設定ダイアログボックスで、**更新**をクリックすると新しい設定が保存され、**終了**をクリックすると保存せずに終了し、**初期設定**をクリックすると元の工場設定に戻ります。DVR サーバーで使用されるネットワークサービスポートについては [付録 H](#) を参照してください。



(1) サーバー名

DVR ユニットに名前を割り当てます。英文字と数字のみが使用できます。

(2) 送信するカメラ

送信するカメラのセクションで、ウェブビューアー、遠隔コンソール、PDA ビューアー、ハンディビューアー（静止画像）を使用してインターネットを介してアクセスさせたいカメラの番号を選択してクリックします。全部のカメラを選択するには、すべてのボックスにチェックを入れます。

(3) メインコンフィギュレーション

サーバーIP と遠隔コンソールポート番号を設定します。システムは自動的にサーバーIP アドレスを検出します。これは、遠隔地からインターネットを介して DVR サーバーにアクセスするときに必要です。

(4) ダイナミック DNS

ドメイン名とパスワードを入力します。この機能を使用するには、<http://ddns.avers.com.tw> にアクセスして登録する必要があります(付録 A も参照)。CD キー番号、製品名、パスワード、ユーザー情報を入力します。インターネットに接続する度に IP アドレスが変更される場合、このサービスを利用します。

(5) ネットワークビデオコンフィギュレーション

リモートプログラムに送信したり、ビデオを見る際の、ビデオ画質とフレームレートを設定します。調整バーをスクロールして、**画質レベル**と**フレームレートレベル**を設定します。

(6) ウェブカメラポート

パスワードなしで DVR サーバーにリモートアクセスするには、**匿名ログイン作動**を起動させます。ウェブポートの初期設定値は 80 です。

(7) 音声電話

音声電話は、クライアントとサーバーとの間でマイクロホンを使ってインターネットを介して会話できる双方向トーク機能です。この機能を起動する前に、マイクロホンとスピーカーが作動することを確認してください。**ウェブクライアントトーク**を解除すると、ウェブビューアーの双方向でトークボタンを押したときに、DVR サーバー側にいる人のみがクライアント側の人の声を聞くことができます(第 7.1 章 #6 も参照)。音声電話の初期設定ポートは 9999 です。

(8) ネットワーク時間同期化

DVR システム時間をネットワーク時間サーバーと同じになるように調整します。**時間サーバー**の IP アドレスかドメイン名を記入してください。時間の**自動同期化**を選択すると、毎日、自動的に時間が同期化されるように設定されます。

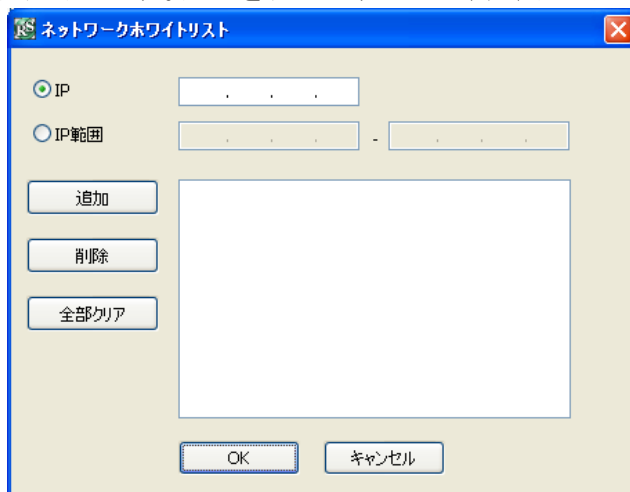
(9) その他のコンフィギュレーション

- UPnP

UPnP 機能を起動すると、ローカルネットワークのポート設定が自動的にコンフィギュレーションされます。この機能は、同じネットワークに UPNP デバイスがあるときに利用できます。これは、ルーターまたはその他のネットワークデバイスに、DVR ポート情報を書き込みます(付録 G を参照)。

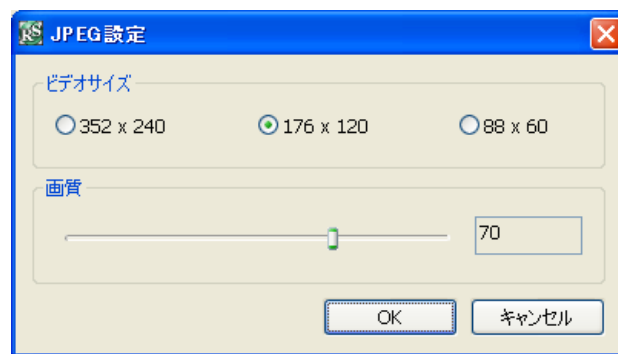
- ホワイトリスト有効

DVR サーバーがリモートアクセスできるようにするためのアクセス許可リストです。IP アドレスを入力して**追加**をクリックします。もしくは、IP アドレスの範囲を入力して**追加**をクリックします。リストから IP を削除するには、IP を選択して**削除**ボタンをクリックします。入力をリセットするには、**クリア**ボタンをクリックします。



- ハンディービューを有効にします

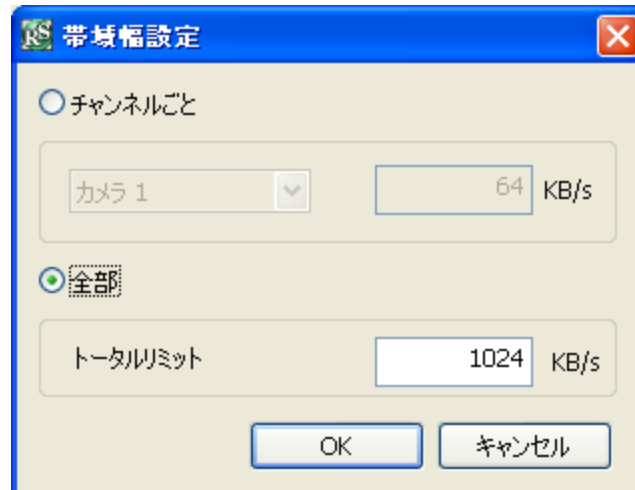
リモートユーザーがPDAまたは携帯電話を使ってVDRサーバーにアクセスしたり、ビデオサイズや画質を選択できるようにする機能です(第 7.5 章および 7.6 章も参照)。



- ネットワークバンド幅の上限

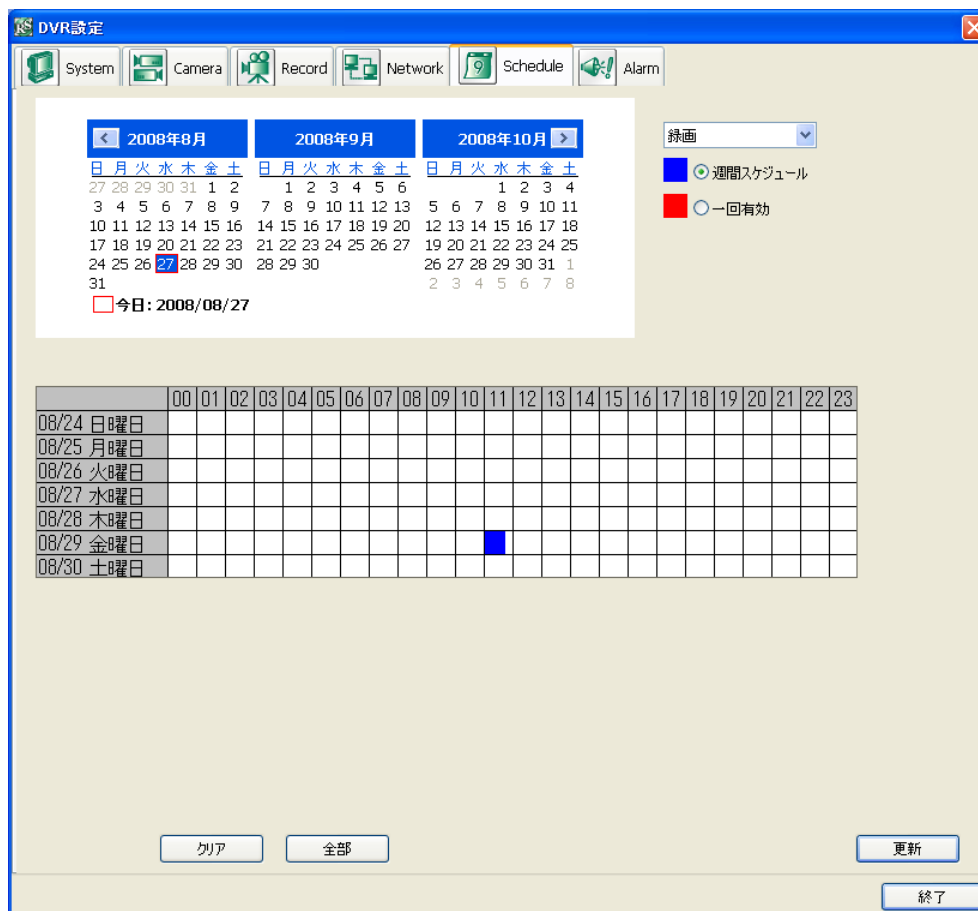
チャンネルごと: 各チャンネルごとにネットワークバンド幅を設定します。

全部: ネットワークバンド幅の総消費上限を設定します。



10.2.2.5 スケジュールの設定

全部のカメラについて、1 週間単位または単発的に、録画やバックアップやネットワークの起動や再起動やアラームの解除のスケジュールを立てることができます。00 から 23 までの数字は、24 時間時計の各時間を表しています。一番左のカラムには、1 週間分の日が表示されます。



スケジュールを設定する

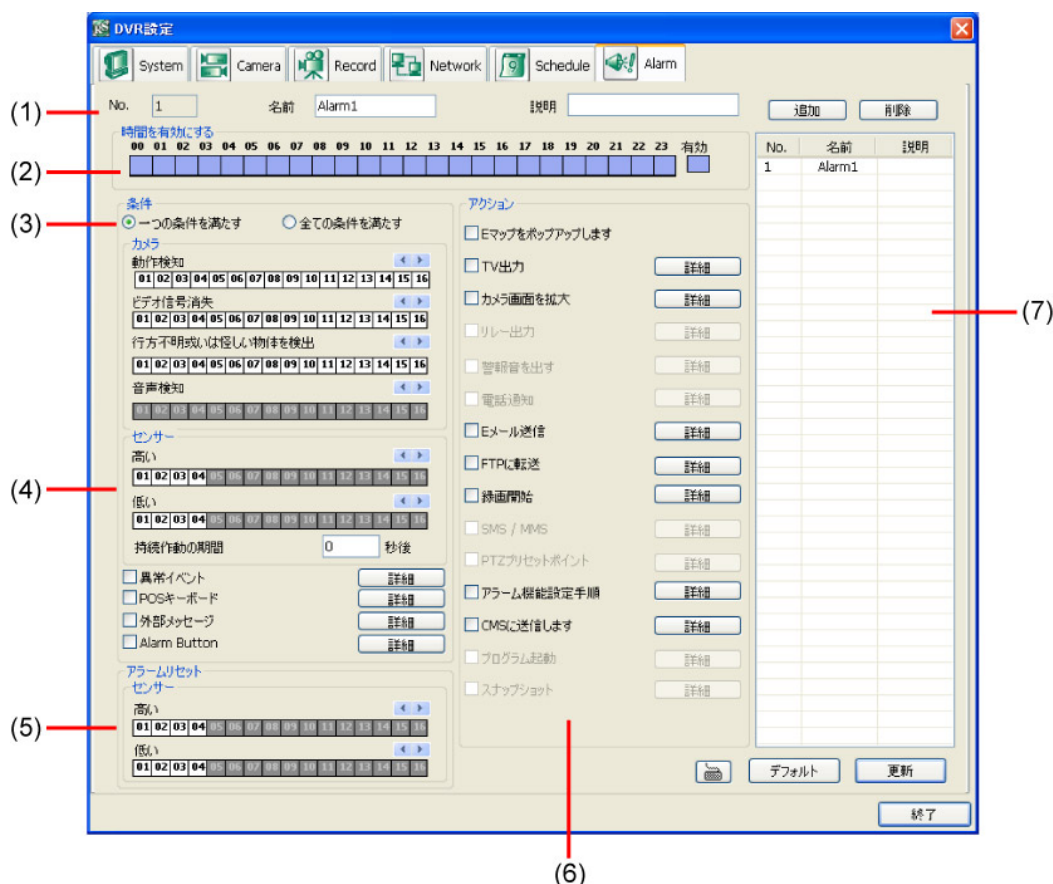
1. カレンダーで日付を選択します。◀ と ▶ のボタンで、カレンダーを左右に移動させることができます。
2. ドロップダウンリストから、スケジュールに組み込みたい条件を選択します。
 - **録画**
録画設定に基づいて、全カメラで設定時刻にビデオ録画を開始させます（[第 4.3 章](#)も参照）。
 - **バックアップ**
設定時刻に、指定のバックアップパスに全データの別コピーを保存します。DVR は、まだアーカイブに含まれていないデータのみを自動的に更新してバックアップします。
 - **ネットワーク**
設定時刻に、DVR リモートシステムがアクセスできるように起動します。指定時刻以降は、ネットワーク機能が解除されます。ネットワーク機能が既に起動されている場合、指定時間が終了してもネットワーク機能は解除されません。
 - **再起動**
指定時刻にコンピューターを再起動します。

i ウィンドウズ OS を起動する際に、ユーザー名やパスワードを入力する必要がないように設定されていなければなりません。こうすれば、システムは、DVR プログラムを実行することができます。

- **アラームの解除**
設定時刻に、アラームを一時的に解除させます。
3. 1 週間単位か単発のかを指定します。◎ボタンをクリックして選択を行います。
 4. ブロックをクリックしてスケジュールを設定します([第 4.5.1 章](#)も参照)。もしくはすべてをクリックして全ブロックを選択します。設定を保存するには、**保存**をクリックします。設定を解除するには**クリア**をクリックします。
 5. スケジュールの設定を終了するには、**更新**をクリックすると設定が保存されて終了します。**終了**をクリックすると、設定を保存しないで終了します。

10.2.2.6 アラームの設定

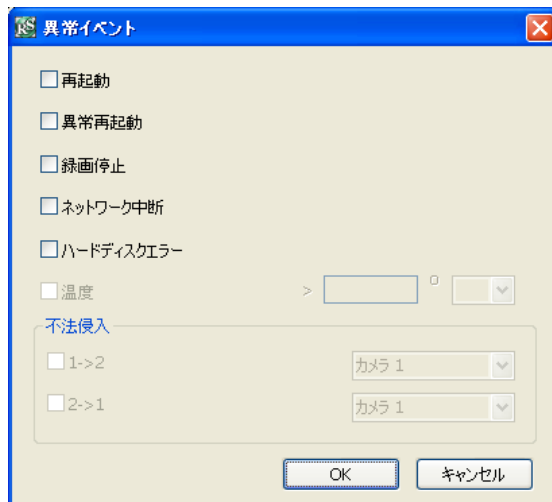
アラームの設定ダイアログボックスでは、**追加**をクリックすると新しいアラーム設定が挿入されて設定され、**削除**をクリックすると選択したアラーム設定が削除され、**OK** をクリックすると設定が保存されて終了し、**キャンセル**をクリックすると選択したアラーム設定が保存されずに終了され、**初期設定**をクリックすると元の工場設定に戻ります。



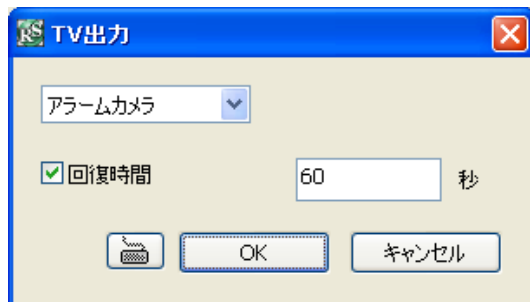
アラームを設定する

1. **追加**をクリックして、新しいアラーム設定を挿入して設定します。このアラーム設定を変更したい場合には、(7) **アラーム設定リスト**で項目をクリックしてください。
2. (1) **アラーム設定番号/名称/説明**では、下のリストに、選択されたアラームの設定番号の項目が表示されます。アラームの名称と説明を記入してください。
3. (2) **起動時刻**では、00 から 23 までの数字は 24 時間時計の各時間を表しています。時刻を選択して、アラーム機能を起動または解除したいブロックをクリックしてください。解除されると、ブロックの色が白になります。
4. (3) **条件**では、「**どれかが満たされたら起動**」を設定すると、条件のどれかが満たされたときにアラームを起動させることができ、「**すべてが満たされたら起動**」を設定すると、条件がすべて満たされたときにアラームを起動させることができます。
 - カメラセクションでは、**動作検知**や**ビデオ信号消失**でカメラ番号(01 から 16)を選択してクリックすると、システムがアラームを起動させる条件を設定することができます。
 - 「**物体が消失する、または疑わしい物体が検出される**」でカメラ番号(01 から 16)を選択してクリックし、画面上的特定の物体を選択(詳細設定でカメラ番号を右クリックする)しておくと、その特定の物体が消失したり疑わしい物体である場合、システムがアラームを起動させます(第 4.9.12 章も参照)。
 - **音声の検出**で、カメラ番号(01 から 16)をクリックすると、異常な音声を検出したときにシステムがアラームを起動させます。
5. (4) **センサー**では、センサー番号を選択してクリックして(◀と▶)を使用してセンサーを選択する)、システムがアラームを起動する条件を設定します。センサーの通常の状態が高である場合、センサー状態を低に設定してください(第 4.7 章ステップ 4 を参照)。
 - **異常イベント**のチェックボックスを起動または解除して、システムがアラームを起動する条件を設定します。
 - **通常の再起動**: 異常な条件なしで DVR システムが再起動すると、システムが警告メッセージを送信します。
 - **異常な再起動**: 異常な条件下で DVR システムが再起動すると、システムが警告メッセージを送信します。
 - **録画スイッチが切れる**: 録画が停止した場合、システムは警告メッセージを送信します。

- **ネットワークのスイッチが切れる:** DVR システムのネットワーク接続が消失した場合、システムは警告メッセージを送信します。
- **ハードディスクエラー:** ハードディスクが正常に作動しない場合、システムは警告メッセージを送信します。
- **温度:** システムが警告メッセージを送信する温度の上限を設定します。DVR システムの温度が上限を上回ると、システムが警告メッセージを送信します。
- **不法侵入:** 物体計数セクション([第 4.2.1 章を参照](#))で設定された選択区域の間で物体が移動した場合、システムは警告メッセージを送信します。入力値 (物体が区域 1 から区域 2 へ移動したか、または、区域 2 から区域 1 へ移動したか) と、システムアラーム検出用カメラを選択してください。



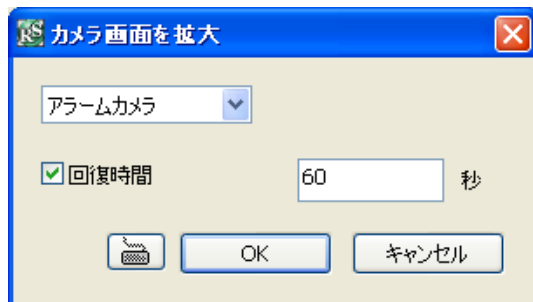
- POS キーワードのボックスにチェックを入れると、POS からのデータがキーワードとマッチするかどうかスキャンされます([第 4.9.11 章も参照](#))。
 - **外部メッセージ**のボックスにチェックを入れると、ユーザー自身のプログラムで外部アラームメッセージを起動させることができます。コンフィギュレーションの詳細については、最寄の販売店にお問い合わせください。
 - **アラームボタン**のチェックボックスにマークを入れると、手動アラーム機能を起動させることができます([第 4.9 章](#) のアラームボタンを参照)。
6. (5) **アラームリセット**でカメラ番号をクリックして、アラームのリセット条件を設定します(◀と▶を使用してセンサーを選択する)。アラームがリセットされると、その時点でアラーム作動が停止します。センサーの通常の状態が高である場合、センサー状態を低に設定してください。
7. (6) **動作**では、アラーム条件が起動したときにシステムが実行するアラーム動作を設定することができます。
- **E マップ の起動**
ミニ E マップ 画面を表示します。
 - **TV 出力**
アラームが起動した時点以降のビデオのみを TV に表示させるように、切り替えることができます。
 - a. アラームが起動したときに TV にビデオを表示させたいカメラを、ドロップダウンリストから選択します。
 - ◎ **アラームカメラ:** あるチャンネルでアラームが発せられると、アラームを発したチャンネルのビデオが TV に表示されます。
 - ◎ **カメラ番号(1~32):** アラームが発せられたときに TV に表示させたいカメラチャンネルビデオを選択します。
 - b. **回復時間:** システムが通常の TV 表示モードに自動的に切り替わるまでの待ち時間を設定します。取得時間にマークが付いていない場合、手動で通常の表示モードに切り替わるまで、アラームビデオは表示され続けます。取得時間は、3 秒~600 秒の範囲で設定できます。



- **カメラ画面を拡大**
アラームが起動した時点以降でプレビュー/詳細モードのビデオのみを表示するように、切り替えることがで

きます。

- a. アラームが起動したときに画面でビデオを拡大させたいカメラを、ドロップダウンリストから選択します。
 - ⑥ **アラームカメラ:** あるチャンネルでアラームが発せられると、アラームを発したチャンネルのビデオが拡大されます。
 - ⑦ **カメラ番号(1~32):** アラームが発せられたときにビデオを拡大したいカメラチャンネルビデオを選択します。
- b. **回復時間:** システムが元のプレビューモードに切り替わるまでの待ち時間を設定します。取得時間にマークが付いていない場合、手動でプレビューモードに切り替わるまで、アラームビデオは拡大され続けます。取得時間は、3 秒~600 秒の範囲で設定できます。



- **E メールを送る**
電子テキストメッセージを送信します。設定するには、[詳細](#)をクリックしてください([Eメールの送信を設定する](#)を参照)。
- **FTP に転送**
FTP(ファイル転送プロトコル)を介してリモートコンピュータにファイルをアップロードします。設定するには、[詳細](#)をクリックしてください([FTP を設定](#)を参照)。
- **録画開始**
選択されたカメラからビデオを録画します。設定するには、[詳細](#)をクリックしてください([アラーム録画を設定する](#)を参照)。
- **アラーム機能作業手順**
アラームが起動した際の手順に関する指示を列記します。設定するには、[詳細](#)をクリックしてください([アラーム機能作業手順設定](#)を参照)。
- **CMS(中央管理システム)へ送信**
アラームが起動した際、ビデオを CMS に送信し、選択されたカメラを起動または解除させます([CMS を設定する](#)を参照)。

Eメールの送信を設定する:

Eメール送信のチェックボックスの横にある[詳細](#)をクリックします。Eメール設定ダイアログボックスで、OK をクリックすると設定が保存されて作業が終了し、キャンセルをクリックすると設定が保存されずに終了します。

(1) メールサーバー

SMTP サーバーとポートを入力します。EメールシステムがユーザーID を必要とする場合、**認証**のボックスにチェックを入れてユーザーID とパスワードを入力します。

(2) メール

作動するかどうかを確認するには、**テストアカウントボタン**をクリックします。

送信元: 送信者の E メールアドレスを入力します。

受信者と CC: 受信者の E メールアドレスを入力します。複数の場合は、カンマまたはセミコロン(;)で区切ります。

件名: メッセージの件名を入力します。

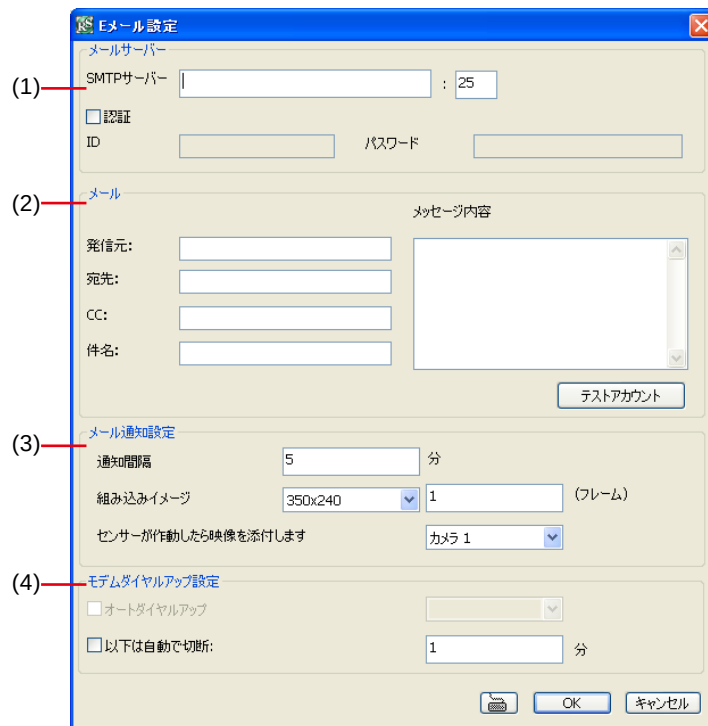
メッセージ: メッセージの内容をタイプします。

(3) Eメール通知設定

- **通知間隔:** 別の Eメール通知を送信するまでの時間間隔を設定します。
- **画像添付:** 画像のサイズを選択し、フレーム数を設定します。
- **センサーが起動したときに画像を添付:** センサーが起動すると、システムは画像を捕獲し、アラームメッセージと一緒に指定の E メールアドレスに送信します。

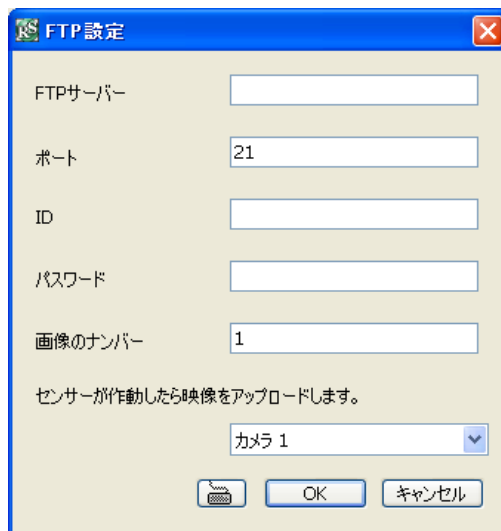
(4) モデムダイアルアップ設定

自動接続解除までの時間のボックスにチェックを入れ、時間を設定すると自動的に接続解除する時間を設定することができます。



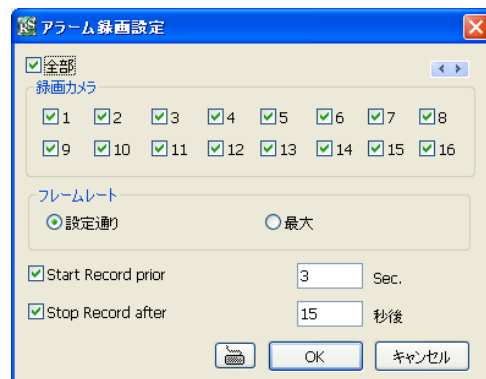
FTP を設定する:

1. FTP に転送のチェックボックスの横にある**詳細**をクリックします。
2. FTP 設定ダイアログボックスに、FTP IP、ポート、ユーザーID、パスワードを入力します。
3. **画像のナンバー**のテキストボックスに転送したい連続画像数を入力します。最大転送可能な画像数は 16 個迄です。
4. **センサーが作動したら映像をアップロードします**でキャプチャーしたい画像のカメラを選択します。また、センサーが作動したらキャプチャーした画像が送られます。
5. OK をクリックすると設定が保存されて作業が終了し、**キャンセル**をクリックすると設定が保存されずに終了します。



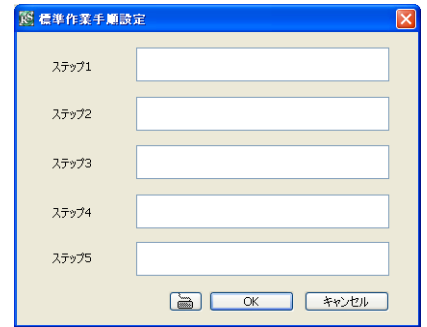
アラーム録画を設定する:

1. 録画開始のチェックボックスの横にある**詳細**をクリックします。
2. アラーム録画設定ダイアログボックスで、ビデオ録画を作動/解除するカメラを選択します。**すべて**をクリックすると、全部のカメラが選択されます。
3. フレームレート選択で、**設定通り**を選択すると、録画設定に基づくフレーム枚数を録画し、**最大**を選択すると、利用可能な速度に基づいて最大フレーム枚数を録画します。
4. 録画終了時間のテキストボックスに、アラームが終了した後もプログラムが録画を継続する時間を秒で入力してください。
5. OK をクリックすると設定が保存されて作業が終了し、**キャンセル**をクリックすると設定が保存されずに終了します。



アラーム機能作業手順を設定する:

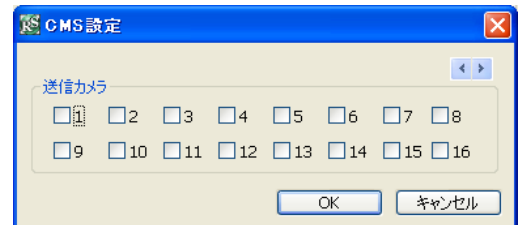
アラーム機能作業手順設定のチェックボックスの横にある**詳細**をクリックします。ステップテキストボックスに、アラーム起動時の標準手順をタイプします。アラームが起動すると標準操作手順ダイアログボックスが表示されます。**次へ**をクリックすると次の指示が表示され、**戻る**をクリックすると前の指示に戻り、**終了**をクリックすると終了し、**中断**をクリックすると手順が中断されます



The dialog box titled "標準作業手順設定" (Standard Operation Procedure Setting) contains five text input fields labeled "ステップ1" through "ステップ5". At the bottom, there are three buttons: a printer icon, "OK", and "キャンセル".

CMS へ送信を設定する

「CMS へ送信」のチェックボックスの横にある**詳細**をクリックします。CMS 設定で、CMS にビデオを送信するカメラの起動または解除を選択します。**すべて**をクリックすると、全部のカメラが選択されます。次に **OK** をクリックすると設定が保存されて作業が終了し、**キャンセル**をクリックすると設定が保存されずに終了します。



The dialog box titled "CMS設定" (CMS Setting) has a section labeled "送信カメラ" (Transmit Camera) with 16 checkboxes numbered 1 to 16. A "すべて" (All) button is located to the left of the checkboxes. At the bottom, there are "OK" and "キャンセル" (Cancel) buttons.

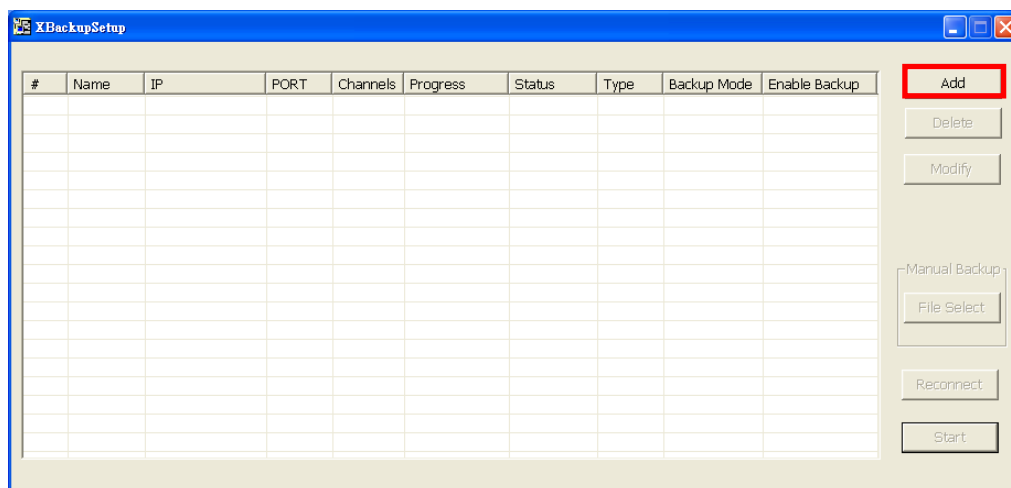
10.3 リモートバックアップ

リモートバックアップは、DVR サーバーから*.dvr ファイルをバックアップするためにのみ使用されます。自動バックアップと手動バックアップのどちらか一方を選択することができます。自動バックアップでは、ある特定の日以降に、一度に 1 時間分の記録データを継続的にバックアップします。手動バックアップでは、選択した日に記録されたデータのみをバックアップします。

i データをバックアップするには、少なくとも 2GB のハードディスク空きスペースを必要とします。

DVR サーバーから、記録データをバックアップする:

1. インターネットに接続されていることを確認します。
2. **スタート>>プログラム>>DSS>>ツール>>リモートバックアップ** の順にクリックします。
3. DVR サーバーを追加するには、**追加**をクリックします。



4. 「新しい DVR を追加」ウィンドウで、名前、IP、ユーザーID、パスワードを入力します。

5. バックアップモードを選択します。:

自動バックアップモード: 設定が完了すると、バックアップが自動的に実行されます。

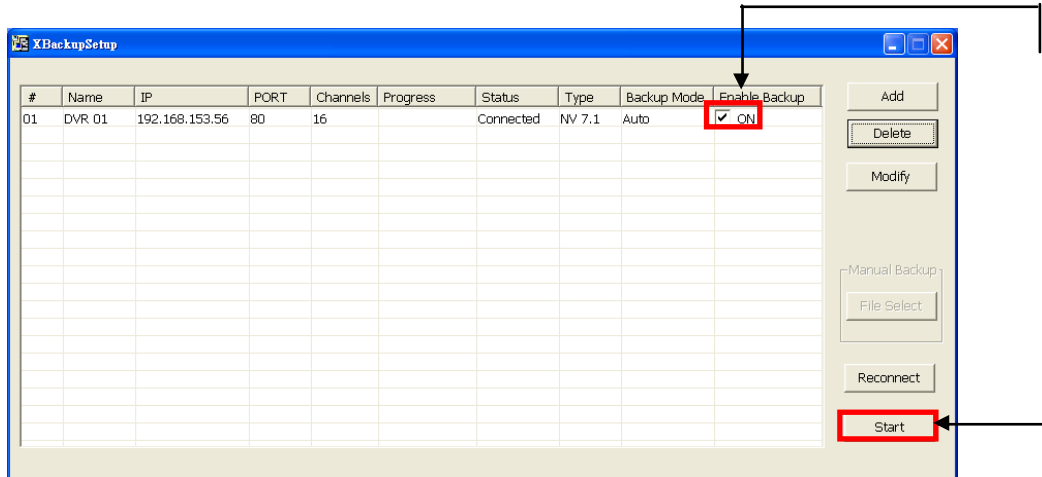
- 開始日ドロップダウンカレンダーで、開始日を選択します。
- **追加**をクリックすると、保存パスが設定されます。
- **削除**をクリックすると、選択した保存パスが削除されます。
- **スケジュール**をクリックして、バックアップしたい時刻を選択または選択を解除してください。解除されると、赤いブロックが白くなります。

- ディスクリサイクル起動/解除のボックスにチェックを入れると、ファイルのバックアップに十分なスペースがないときに、自動的に一番古いデータが上書きされます。

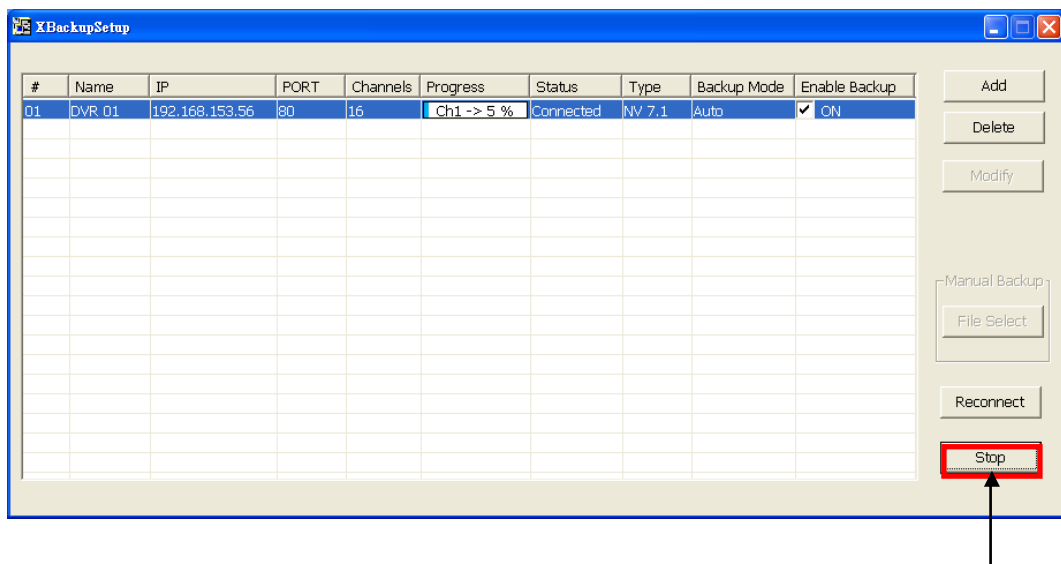
手動バックアップモード: バックアップボタンを押すと、バックアップ作業が開始されます。

- **ファイルの選択**をクリックして、日付、時刻、バックアップ用カメラを選択します。
- **ブラウズ**をクリックして、保存パスを設定します。

6. OK をクリックすると、DVR サーバーの追加作業が完了します。追加された DVR は、リモートバックアップのメインウィンドウに表示されます。



7. 開始をクリックするとバックアップが開始され、停止をクリックするとバックアップが停止します。

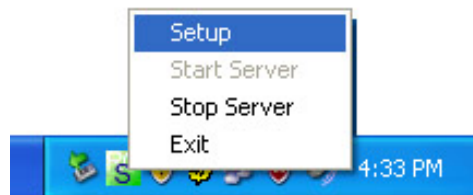


8. 手動バックアップの場合、ファイルの選択ボタンをクリックし、バックアップしたい DVR を選択してください。

第11章 リモートコントロールサーバーの使用方法

中央管理システムプログラム(CM3000)をインストールしたコンピュータでは、同梱のリモートコントロールサーバーで、DVR サーバーにリモートアクセスすることができます。CMS が DVR サーバーにアクセスできるためには、このプログラムを手動で起動する必要があります。これを起動するには、**スタート > プログラム > DSS > DVR > リモートコントロールサーバー** の順にクリックします。

リモートコントロールサーバーが起動すると、タスクバーにリモートコントロールサーバーアイコンが表示されます。ポート設定を変更したり、サーバーを停止するには、アイコンを右クリックして選択してください。



DVRのネットワーク設定でリモートコントロールサーバーを設定することもできます。[第4.4章 #5](#)を参照してください。

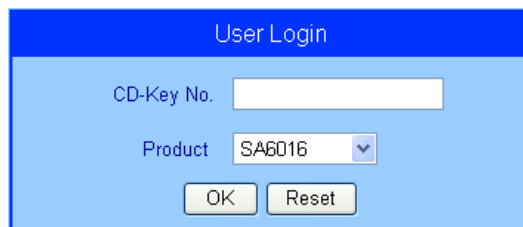
付録 A ドメイン名の登録

DDNS（ダイナミックドメイン名サービス）は、主に、インターネット上でドメイン名をインターネットアドレスに翻訳するために使用されるデータクエリサービスです。これによって、リモートクライアントは、以前にサーバーのインターネットアドレスを検索したことがなくても、ダイナミックサーバーをインテリジェントに検索することができます。

このインテリジェントサービスを活用するには、まず、<http://ddns.avers.com.tw> にドメイン名を登録する必要があります。

1. ユーザーログイン

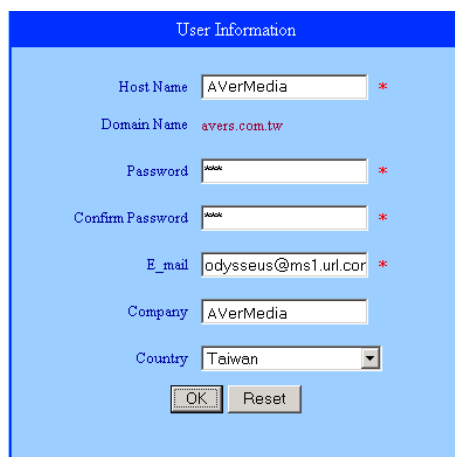
Microsoft IE または Netscape Navigator で ddns.avers.com.tw をブラウザして、次のダイアログボックスにアクセスします。

A blue dialog box titled "User Login". It contains two input fields: "CD-Key No." with a text box and "Product" with a dropdown menu showing "SA6016". Below these are "OK" and "Reset" buttons.

- まず CD キー番号(製造番号)を入力し、製品名を選択します。
- 次に OK をクリックしてログインするか、リセットをクリックして入力項目をクリアします。

2. ユーザー情報

ホスト名(他のユーザーが既に使用していない限り、どんな名前でもかまいません)、パスワード、E メール、会社名、国名の各ユーザー情報を入力します。OK をクリックすればドメイン名の登録が完了します。

A blue dialog box titled "User Information". It contains several input fields: "Host Name" (AVerMedia), "Domain Name" (avers.com.tw), "Password" (masked with asterisks), "Confirm Password" (masked with asterisks), "E_mail" (odysseus@ms1.url.cor), "Company" (AVerMedia), and "Country" (Taiwan). There are "OK" and "Reset" buttons at the bottom.

リモートクライアントがダイナミックサーバーを検索している間は、ホスト名とドメイン名 (AVerMedia.avers.com.tw) が、インターネットアドレスの代替となることに注意してください。

付録 B アクセサリアプリケーション

RS485RS232 コンバーター

RS485RS232 コンバーターは、RS485 インターフェースを RS232 に送信するオプションアクセサリで、SA DVR が他のデバイスに応用しやすくなります。下図は、RS485RS232 コンバーターの応用例を示しています。

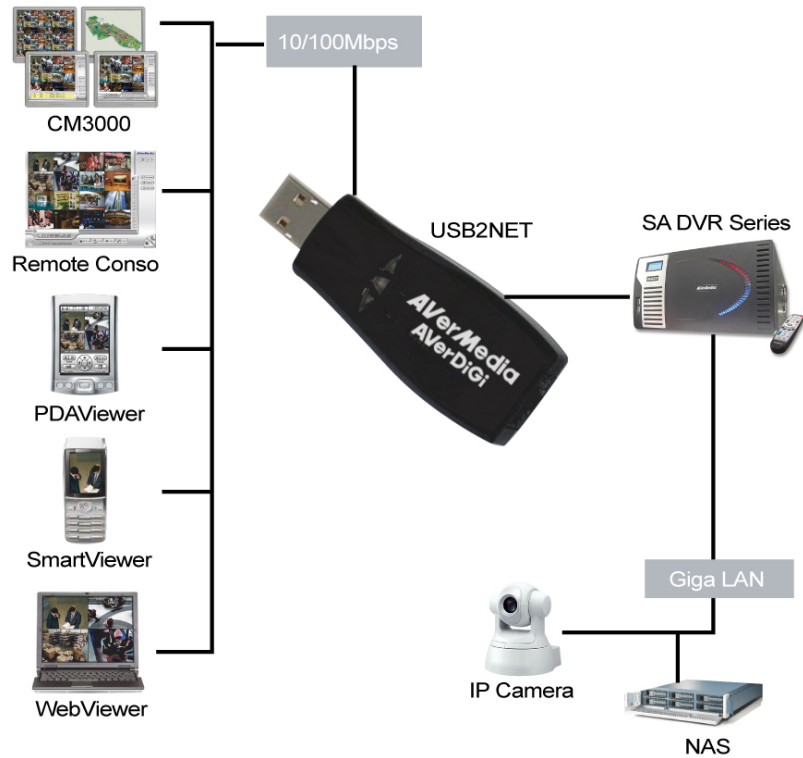


コンバーター裏面のスイッチを調整してください。



USB2NET コンバーター

USB2NET コンバーターは、DVR ユニットの WAN /LAN ネットワークパフォーマンスを向上するオプションアクセサリです。、下図は、USB2NET コンバーターの応用例を示しています。



USB2RS232 コンバーター

USB2RS232 コンバーターは、USB インターフェースを RS232 に送信するオプションアクセサリで、SA DVR が他のデバイスに応用しやすくなります。USB2RS232 コンバーターには、1、4、8、16 の各ポートのオプションがあります。下図は、USB2RS232 コンバーターの応用例を示しています。



付録 C RAID の取り付け

SA DVR シリーズは、録画保存容量を拡張する外部 RAID をサポートします。RAID を取り付けるには、下記の指示に従ってください。

1. RAID HDD ラックにハードディスクを挿入します。
2. ハードディスクをねじ止めします。



3. ラックを RAID ユニットのの中にスライドさせて入れます。
4. ラックは、まだ、RAID ユニットの一番奥まで入れないでください。



5. スイッチを正しい位置に合わせてください(スイッチの下にあるスイッチ位置の図を参照してください)。
6. e-SATA ケーブルの一端を RAID ユニットの差し込み、もう一端を DVR ユニットの差し込みます。



7. 電源ケーブルの一端を RAID ユニットに差し込み、8. RAID ユニットの電源を入れます。もう一端をコンセントに差し込みます。

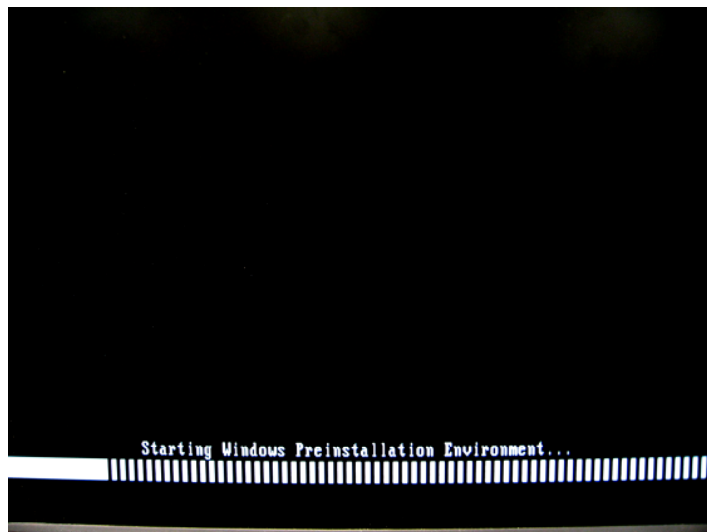


9. 数秒待つてから、HDD ラックを RAID ユニットの一番奥までしっかりと入れます。ビープ音を止めるには、右側のボタンを押してください。LCD パネルに「Create New RAID?(新規 RAID を作成しますか)」が表示されたら、右側のボタンを押して新規 RAID ドライブを作成します。
10. RAID ドライブが作成できたら、RAID の使用を開始します。[システムの保存パスの設定](#)で RAID ドライブのコンフィギュレーションを行うことができます([第 4.1 章システムの設定](#)も参照)。

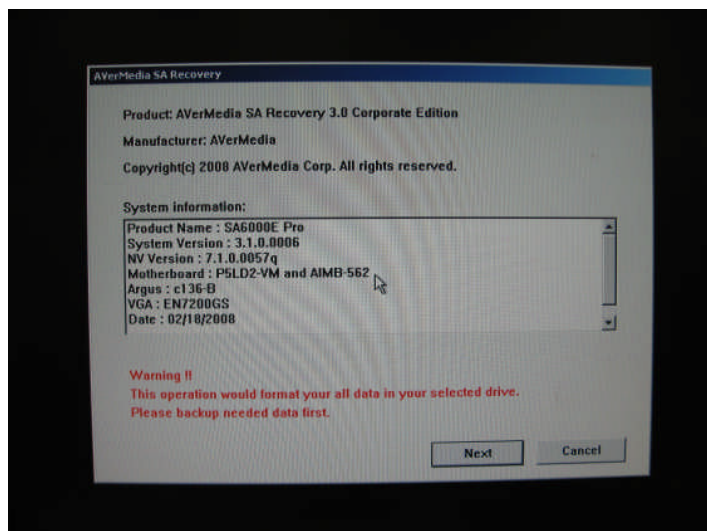


付録 D DVR システムのリカバリー

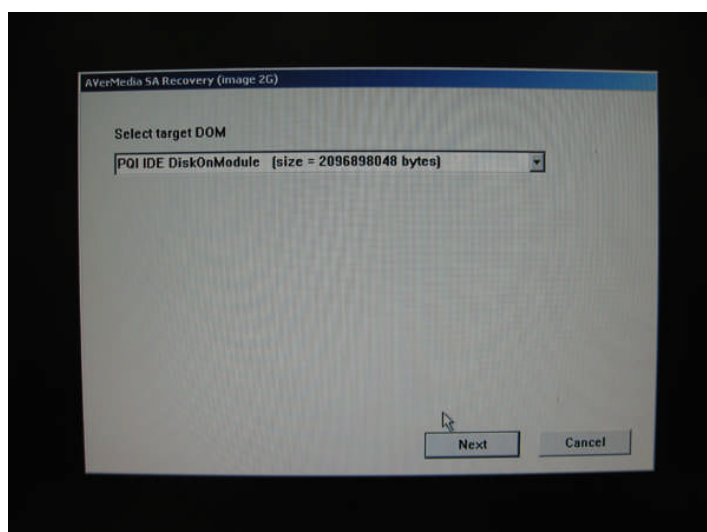
1. DVR ユニットの DVD-ROM ドライブにリカバリーDVD を挿入します。
2. DVR システムがリカバリー動作を開始します。



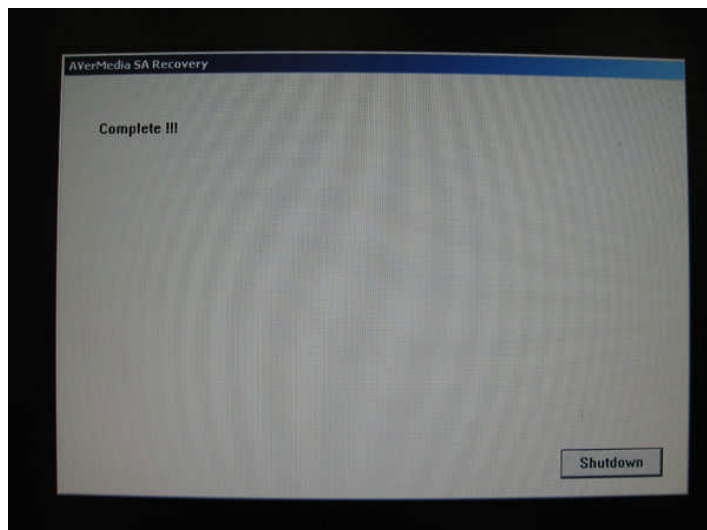
3. 次へをクリックして、次のステップに進みます。



4. リカバリー目標(DOM)を選択します。



5. リカバリー工程が完了したら、**シャットダウン**をクリックします。



6. DVR システムがシャットダウンしたら、DVR システムを再起動します。

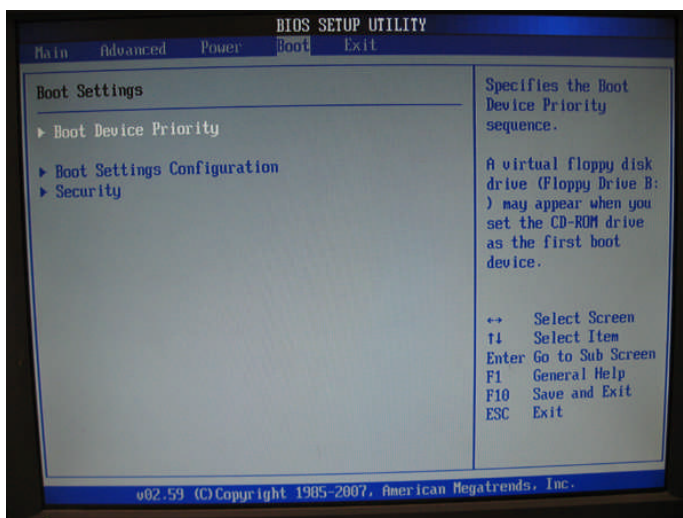
付録 E BIOS におけるブータブル HDD 優先権の設定

BIOS でブートデバイス優先権の設定を行うことができます。

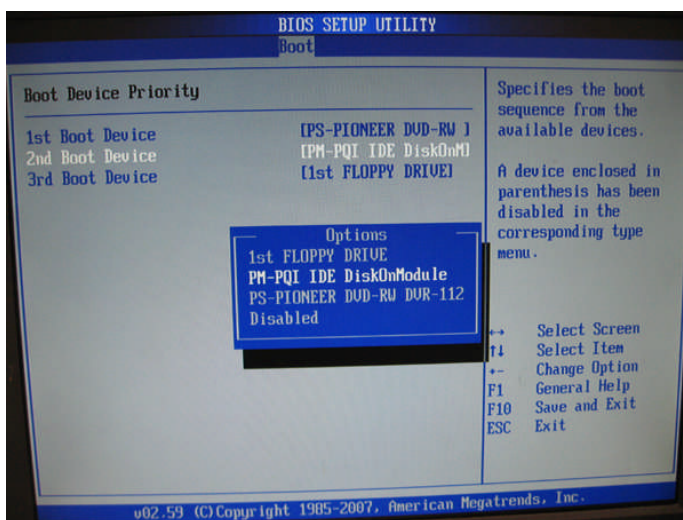
1. DVR システムが起動している間に、**削除**を押します。
2. BIOS パスワードを入力します(初期設定値は **admin**)。



3. DVR システムが BIOS モードに切り替わります。



4. **Tab** を押してブートの設定に進み、**Enter** を押します。
5. ブートデバイス優先権を選択し、**Enter** を押します。



6. ブートデバイス優先権を設定します。
7. **Esc** を押してブートデバイス優先権を終了します。
8. **Tab** を押して終了を選択し、コンフィギュレーションを保存します。

付録 F UPnP の設定

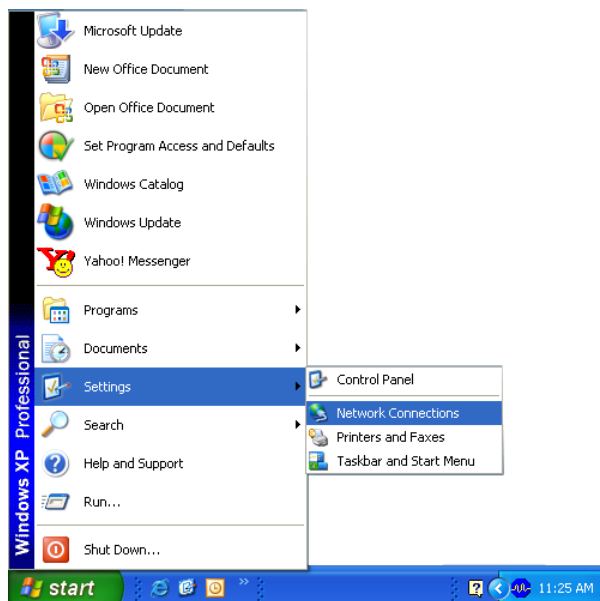
DVR アプリケーションは、ローカルルーターにポート設定を自動的に設定する UpnP 機能をサポートしています。

UpnP を作動させるために、以下の条件が満たされていることを確認してください。

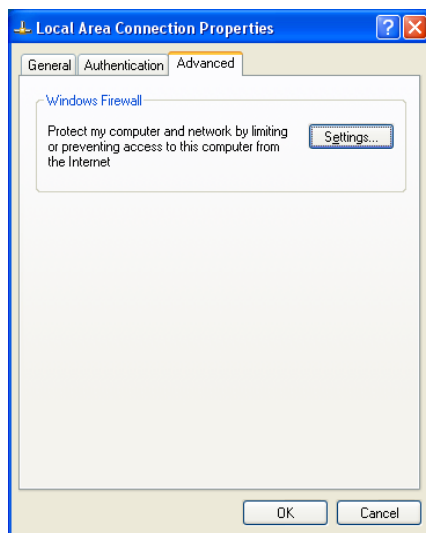
- Window XP サービスパック 2 がインストールされている。
- Window XP が、UpnP の使用が可能のように設定されている。
- ルーターで UpnP が起動されている(ルーターの UpnP コンフィギュレーションについては、最寄りの販売店に尋ねるか、ルーターの取扱説明書を参照してください)。

Window XP で UPnP を可能にする

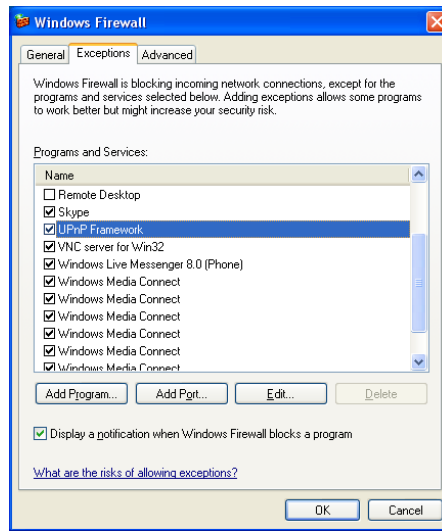
1. スタート > 設定 > ネットワーク接続の順にクリックします。すると以下のウィンドウが現れます。



2. ローカルネットワーク接続アイコンを右クリックし、プロパティ>[詳細設定]タブの順に選択すると、以下のウィンドウが現れます。



3. 設定ボタンをクリックし、例外タブを選択すると、Windows ファイアウォールが表示されます。



4. UPnP フレームワークのボックスにチェックを入れ、OK をクリックします。

付 録 G ネットワークサービスポート

下表は、DVR サーバーが各ネットワークサービスのために使用するポートを示しています。

	ポート ナンバー	変更可能
遠隔コンソール (CM 3000)	5550	Yes
ウェブビューアー	80	Yes
双方向音声	9999	Yes
リモートコントロール (CM3000)	5555	Yes
DVR POS	5150	Yes
DVR DDNS (アップロード / ダウンロード)	53 / 1053	No

保障に関する注意事項

制限付保証

AVerMedia® Information, Inc. では、下記の条項に従って、本製品に製造上の不良または部品の欠陥がないことを保証します。

保障期間

購入日より1年間を保障期間とします。交換品については、12ヶ月間の保証期間の残りの日数、または30日間のいずれか長いほうが保障期間となります。

保証対象者

本保証は、販売店より直接購入されたお客様にのみ適用されます。

保証の対象および保証対象外

下記で特に指定されていない限り、本保証は本製品の製造上の欠陥により生じたあらゆる不具合に適用されます。下記の場合は、保証の対象とはなりません。

1. 製造番号が摩滅・改変・消去されている製品。
2. 下記の原因による損傷、劣化、誤動作。
 - a. 事故、悪用、誤用、不注意、火災、水害、落雷、その他の自然災害、商用または工業関連における使用、無許可で製品を改造した場合、製品に付属する取扱説明書に従わなかった場合。
 - b. 製造者の代理店以外の者によって修理が行われた場合。
 - c. 輸送中の事故による損傷(この場合の補償は輸送業者に請求してください)。
 - d. 製品の欠陥とは無関係なその他の損傷。
3. 製品とともに使用されるケース類、カートン類、バッテリー、キャビネット、テープまたはアクセサリなど。
4. AVerMedia® Information, Inc.では、本製品がお客様の要件を満たすことを保証するものではありません。お客様の目的に対する製品の適合性を確認する責任は、お客様が負うものとします。

当社の支払対象、および支払対象外事項

当社では、保証対象製品の修理にかかる人件費および部品費用の支払いを行います。ただし、以下の代金は支払対象外です。

1. 設置場所からの取り外しおよび再取り付けに要する費用。
2. 輸送費用。
3. 偶発的な費用。

損傷の免責

本保証の下に発生する製造者の義務や責務は、不具合製品の修理および交換に限定され、どちらを選択するかは製造者の判断に委ねられます。製造者は、購入者または第三者における、いかなる偶発的損害やそれが原因で発生した損害(サービスの中断による損害や事業上の損失を含むがそれに限定されない)、および、かかる保証の責務範囲外の事項に関して一切の責務を負いません。

商品としての適格性に対する保証や特定の使用目的に関する適合性を含め、上記の各事項以外には、口頭または書面による保証事項は一切ありません。保証期間は購入日より12ヶ月間とします。

地方自治体の法規および購入者の保証

本保証は、お客様に特別な法的権利を付与するものです。また、お客様には各地方自治体の法規によりその他の権利が付与される場合があります。そのような権利は、お住まいの地域によって異なります。

連絡先

台湾

5F, No. 135, Jian Yi Rd., Chung Ho City, Taipei, Taiwan

電話: 886-2-2226-3630

FAX: 886-2-2226-8751

HP: <http://www.averdigi.com/jp/>